

# ユーザーズガイド ネットワーク設定編 MFC-8890DW

本書の使い方・目次

ネットワークで使う前に

ネットワークの設定

無線 LAN の設定

Windows® 環境で使う

Macintosh 環境で使う

セキュリティ機能

困ったときは  
(トラブル対処方法)

付 録

## 困ったときは

本製品の動作がおかしいとき、故障かな？  
と思ったときなどは、以下の手順で原因を  
お調べください。

1  ユーザーズガイド基本編 7 章「こんなときは」で調べる

2   ブラザーのサポートサイトにアクセスして、最新の情報を調べる  
<http://solutions.brother.co.jp/>

## ブラザーマイポータル

オンラインユーザー登録をお勧めします。  
<https://myportal.brother.co.jp/>

ご登録いただくと、製品をより快適にご使用いただくための情報をいち早くお届けします。

Version A JPN

## 目 次

目次 .....	1
やりたいこと目次 .....	6
VCCI 規格 .....	7
無線 LAN 機器使用の際のご注意 .....	7
電波に関するご注意 .....	7
電波の種類と干渉距離 .....	7
無線モジュール内蔵について .....	7
本書の読みかた .....	8
本書の表記 .....	9
マークについて .....	9
商標について .....	9
編集ならびに出版における通告 .....	9
はじめに .....	10
概要 .....	10
特長と機能 .....	10
<b>第 1 章 ネットワークで使う前に .....</b>	<b>12</b>
ネットワーク導入作業の流れ .....	13
ネットワークの接続方法を決める .....	14
有線 LAN .....	14
無線 LAN .....	16
ネットワーク接続に必要な環境を整える .....	17
準備するもの .....	17
IP アドレスを決める .....	18
<b>第 2 章 ネットワークの設定 .....</b>	<b>20</b>
概要 .....	21
操作パネルで有線 LAN の設定をする .....	22
操作パネルから文字を入力する .....	23
文字の入力方法 (変更方法) .....	23
入力例 .....	24
TCP/IP の設定 (有線 LAN) .....	25
IP 取得方法 .....	26
IP アドレス .....	27
サブネットマスク .....	27
ゲートウェイ .....	28
ノード名 (NetBIOS 名) .....	29
WINS 設定 .....	30
WINS サーバ .....	31
DNS サーバ .....	32
APIPA .....	33
IPv6 .....	33
イーサネットの設定 .....	34
有線 LAN 有効 .....	35
インターネットファックスの設定 .....	36
メールアドレス .....	36
SMTP サーバ .....	37
SMTP ポート .....	38
SMTP 認証 .....	39
POP3 サーバ .....	40
POP3 ポート .....	41
アカウント名 .....	42



パスワード .....	43
APOP .....	44
<b>インターネットファクス、メール受信の設定 .....</b>	<b>45</b>
自動受信（自動メールチェック機能） .....	45
ポーリング間隔（自動メールチェックの頻度） .....	46
ヘッダ印刷 .....	47
エラーメール削除 .....	48
受信確認 .....	49
<b>インターネットファクス、メール送信の設定 .....</b>	<b>50</b>
メールタイトル .....	50
サイズ制限 .....	51
受信確認要求 .....	52
<b>リレー配信の設定 .....</b>	<b>53</b>
リレー配信許可 .....	53
許可ドメイン .....	54
リレー配信レポート .....	55
<b>スキャン to FTP の初期設定を変更する .....</b>	<b>56</b>
<b>スキャン to ネットワークファイルの初期設定を変更する .....</b>	<b>57</b>
<b>タイムゾーンの設定 .....</b>	<b>58</b>
<b>ネットワーク設定のリセット .....</b>	<b>59</b>
有線 LAN 設定の初期化 .....	59
<b>ネットワーク設定リストの出力 .....</b>	<b>60</b>
<b>ウェブブラウザで管理する .....</b>	<b>61</b>
概要 .....	61
ウェブブラウザを使用して本製品の設定を変更する .....	62
LDAP サーバを設定する .....	65
<b>LDAP サーバを使用する .....</b>	<b>67</b>
概要 .....	67
LDAP の操作方法 .....	67
セキュリティ機能ロック .....	68
セキュリティ機能ロックを設定する .....	69
E メール通達機能について .....	71
<b>BRAdmin Light で設定する .....</b>	<b>72</b>
BRAdmin Light のインストール .....	72
ネットワークインターフェースの設定 .....	73
<b>ネットワークリモートセットアップで管理する .....</b>	<b>76</b>
Windows® で設定する（Windows Server® 2003/2008 以外） .....	76
Macintosh で設定する .....	77
<b>第 3 章 無線 LAN の設定 .....</b>	<b>78</b>
<b>無線 LAN 設定について .....</b>	<b>79</b>
概要 .....	79
無線 LAN の用語 .....	80
無線 LAN 設定の流れ .....	82
ネットワーク環境を確認する .....	84
無線 LAN 設定の方法を確認する .....	85
<b>操作パネルから手動で無線 LAN 設定をする .....</b>	<b>87</b>
<b>操作パネルと無線 LAN アクセスポイントの簡単設定を使用する .....</b>	<b>91</b>
<b>WPS（Wi-Fi Protected Setup）の PIN 方式を使用する .....</b>	<b>93</b>
<b>ブラザーインストーラを使用する（Windows®） .....</b>	<b>95</b>
インフラストラクチャモードでの無線 LAN 設定 .....	96
アドホックモードでの無線 LAN 設定 .....	107

ブザーインストーラを使用する (Macintosh) .....	115
インフラストラクチャモードでの無線 LAN 設定 .....	116
アドホックモードでの無線 LAN 設定 .....	125
操作パネルで無線 LAN の設定を変更する .....	133
操作パネル .....	133
TCP/IP の設定 (無線 LAN) .....	134
IP 取得方法 .....	135
IP アドレス .....	136
サブネットマスク .....	136
ゲートウェイ .....	137
ノード名 (NetBIOS 名) .....	137
WINS 設定 .....	138
WINS サーバ .....	139
DNS サーバ .....	140
APIPA .....	141
IPv6 .....	141
無線 LAN の状態 .....	142
接続状態 .....	142
電波状態 .....	142
SSID .....	142
通信モード .....	143
無線 LAN 有効 .....	144
無線 LAN の初期化 .....	145
<b>第 4 章 Windows® 環境で使う .....</b>	<b>146</b>
ネットワークプリンタとして使う .....	147
LPR (Standard TCP/IP) で印刷する .....	147
プリンタドライバのインストール .....	148
(Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows Server® 2003/2008) .....	148
ネットワークスキャン機能の設定 .....	152
ネットワークスキャン機能とは .....	152
ネットワークスキャン機能を使用する前に .....	152
ネットワーク PC ファクス機能を使う .....	156
ネットワーク PC ファクス機能とは .....	156
ネットワーク PC ファクス機能を使う準備 .....	156
インターネット印刷を使う .....	158
インターネット印刷とは .....	158
インターネット印刷を使う準備 .....	158
別の URL を指定する .....	163
<b>第 5 章 Macintosh 環境で使う .....</b>	<b>164</b>
ネットワークプリンタとして使う .....	165
Mac OS X 10.5.x の場合 .....	165
Mac OS X 10.3.9 ~ 10.4.x の場合 .....	166
ネットワークスキャン機能の設定 .....	167
ネットワークスキャン機能とは .....	167
ネットワークスキャン機能を使用する前に .....	167
ネットワーク PC ファクス機能 (送信のみ) を使う .....	169
ネットワーク PC ファクス機能とは .....	169

<b>第 6 章</b>	<b>セキュリティ機能</b>	<b>170</b>
概要		171
セキュリティ用語		171
セキュリティプロトコル		172
E メール通達のセキュリティを設定する		172
プロトコルを設定する		173
ネットワークプリンタを安全に管理する		174
ウェブブラウザを使って安全に管理する		174
BRAdmin Professional を使って安全に管理する (Windows® のみ)		177
IPPS を使って文書を安全に印刷する		178
別の URL を指定する		178
ユーザー認証付 E メール通達を使用する		179
ウェブブラウザを使って POP3/SMTP を設定する		179
証明書を作成してインストールする		181
証明書設定画面を表示する		181
自己署名証明書を作成する		183
自己署名証明書をコンピュータにインストールする		184
CSR を作成してインストールする		194
証明書と秘密鍵をインポート / エクスポートする		196
<b>第 7 章</b>	<b>困ったときは (トラブル対処方法)</b>	<b>198</b>
概要		199
無線 LAN アクセスポイントに接続できない		200
インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない		201
印刷 / スキャンできない		202
ネットワーク機器に問題ないか調べるには		203
セキュリティソフトウェアについて		204
ネットワークの設定がうまくいかないときは		205
コンピュータのネットワーク情報を調べる		205
本製品のネットワーク情報を調べる		206
コンピュータの IP アドレスと本製品の IP アドレスを比較する		207
ドライバの再インストールをする		208
本製品の IP アドレス取得方法を確認する		208
<b>第 8 章</b>	<b>付録</b>	<b>209</b>
操作パネル以外から IP アドレスを設定する		210
IP アドレスの設定方法		211
手動で設定する (BRAdmin Light)		211
DHCP を使用する		212
APIPA を使用する		212
RARP を使用する		213
BOOTP を使用する		214
BRAdmin Professional で管理する		215
BRAdmin Professional をインストールする		215
ネットワークの設定をする		216
オートマチックドライバインストーラを使う (Windows® のみ)		218
オートマチックドライバインストーラが対応する本製品の接続方法		218
オートマチックドライバインストーラをインストールする		219
オートマチックドライバインストーラを使用する		221

**その他のプリンタドライバのインストール方法 ..... 224**  
    Web Services を使用する（Windows Vista® のみ） ..... 224  
    ネットワークプリンタキューと共有を使用する ..... 226

**仕様 ..... 227**  
    プリントサーバ ..... 227  
    お買い上げ時の LAN 設定 ..... 229

**オープンソースライセンス公開 ..... 233**  
    Open SSL について ..... 233  
    MIT Kerberos statements ..... 235  
    Part of the software embedded in this product is gSOAP software. .... 238  
    This product includes SNMP software from WestHawk Ltd. .... 238  
    Cyrus SASL statements ..... 238  
    OpenLDAP Statements ..... 239

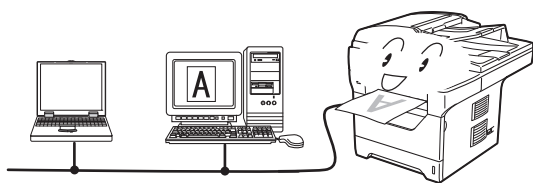
**用語集 ..... 242**

**索引 ..... 246**

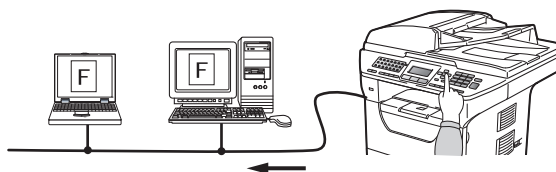
## やりたいこと目次

**ネットワークプリンタとして使いたい。**  
本製品をネットワーク環境で使います。ネットワーク上の複数のコンピュータから印刷できます。

- ・ Windows® の場合 **P.147**
- ・ Macintosh の場合 **P.165**

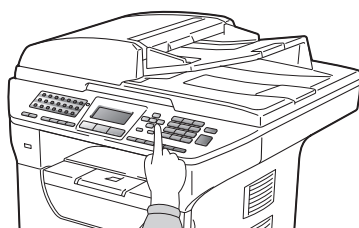


**ネットワークスキャナとして使いたい。**  
ネットワーク環境でスキャナとして使用できます。ネットワーク上の複数のコンピュータからスキャナを利用できます。  
詳しくは **P.152** **P.167** を参照してください。

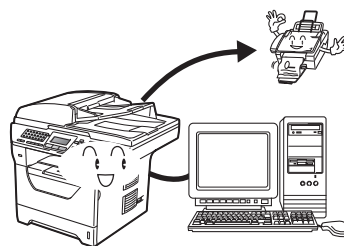


**操作パネルを使ってネットワークの設定をしたい。**

操作パネルのボタンを使用して、ネットワーク上で本製品を使用するための設定ができます。  
詳しくは **P.21** を参照してください。

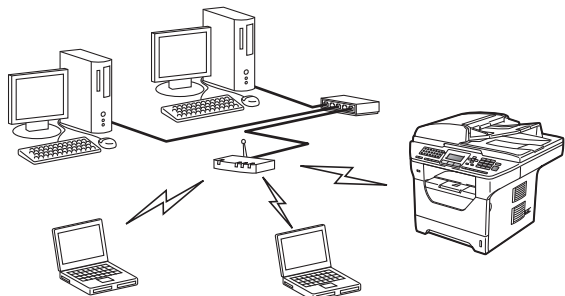


**ネットワーク PC ファクスを使う。**  
プリンタに印刷する感覚でファクス送信できる機能です。  
詳しくは **P.156** **P.169** を参照してください。



**無線 LAN を使う**

LAN ケーブルを使用しないで、無線でネットワークに接続できます。  
詳しくは **P.78** を参照してください。



**ウェブブラウザを使って本製品を管理する。**  
標準のウェブブラウザから本製品に HTTP を使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。  
詳しくは **P.61** を参照してください。

**BRAdmin Light を使って本製品を設定する。**  
付属のソフトウェア BRAdmin Light 使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。  
詳しくは **P.72** を参照してください。

**ネットワークリモートセットアップ**  
本製品にネットワーク経由でアクセスして、各種設定を変更できます。  
詳しくは **P.76** を参照してください。

## VCCI規格

本製品は、クラスB 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーズガイドに従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

## 無線LAN機器使用の際のご注意

### 電波に関するご注意

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品のチャンネルを変更するか、または電波の発射を停止してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りの場合は、弊社「お客様相談窓口」へお問い合わせください。

#### 補足

本製品の設置場所によって、最大70メートルまで届きます。最大の到達距離や通信速度は、設置する環境と使用する機器の種類により異なります。

### 電波の種類と干渉距離

# 2.4 DS4/OF4

「2.4」：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す。

「DS」：変調方式がDS-SS 方式であることを表す。(IEEE802.11bのとき)

「OF」：変調方式がOFDM方式であることを表す。(IEEE802.11gのとき)

「4」：想定される干渉距離が40 m 以下であることを表す。

「---」：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

### 無線モジュール内蔵について

本製品は、日本の電波法に基づき認証された無線モジュールを搭載しております。

# 本書の読みかた

インデックスです。  
現在の章を黒色で示します。

章を示します。

大見出しです。

注意していただく  
内容です。

閲覧する内容を説明  
しているページを示  
します。

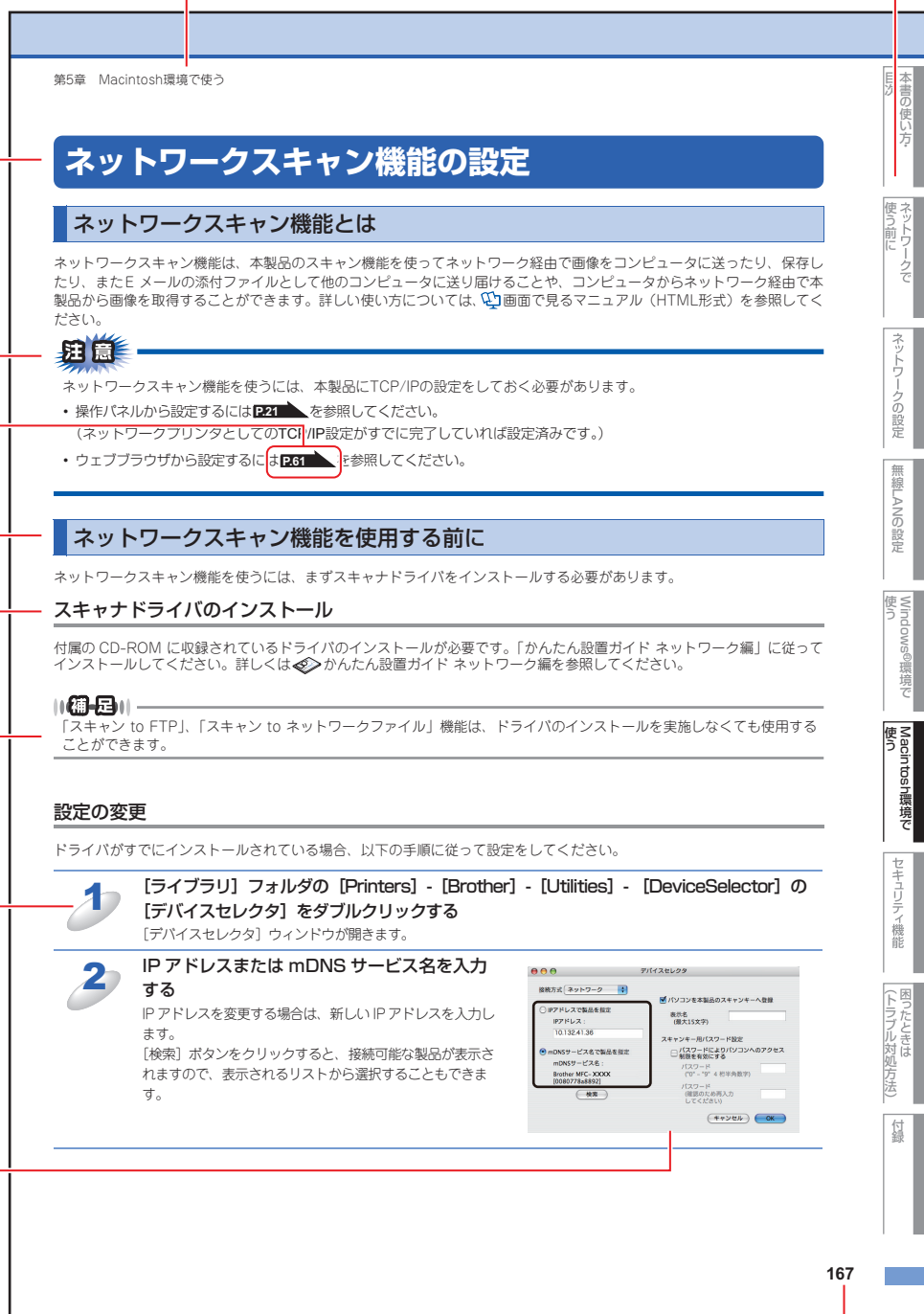
中見出しです。

小見出しです。

補足項目です。

操作手順です。

操作手順を補足する  
手順画面やイラスト  
です。



ページ番号です。






このページは説明のために作成したもので、実際のページとは異なります。



## 本書の表記

本文中では、マークおよび商標について、以下のように表記しています。

### マークについて

	本製品をお使いになるにあたって、守っていただきたいことがらを説明しています。
	本製品の操作手順に関する補足情報を説明しています。
	本書内の参照先を記載しています。(XXXはページ)
	かんたん設置ガイドの参照先を記載しています。(XXXはタイトル)
	画面で見るマニュアル (HTML形式) を参照しています。

### 商標について

Windows® 2000 Professionalの正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemです。  
Windows® XPの正式名称は、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemおよびMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating system です。

Windows® XP Professional x64の正式名称は、Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition operating systemです。

Windows Server® 2003の正式名称は、Microsoft® Windows Server® 2003 operating systemです。

Windows Server® 2003 x64 Editionの正式名称は、Microsoft® Windows Server® 2003 x64 Edition operating systemです。

Windows Server® 2008の正式名称は、Microsoft® Windows Server® 2008 operating systemです。

Windows Vista® の正式名称は、Microsoft® Windows Vista® operating systemです。

本文中では、OS名称を略記しています。

Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Outlookは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国、日本および/またはその他の国における登録商標または商標です。  
Apple、Macintosh、Mac OS、Safari、True Typeは、Apple Inc.の登録商標です。

Adobe、Adobeのロゴ、Acrobat、PhotoshopおよびPostScriptは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

ウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の商標です。

Norton Internet Securityは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの米国ならびにその他の国における登録商標です。

Wi-Fi、WPA、WPA2、Wi-Fi Protected Access、Wi-Fi Protected Setupは、Wi-Fi Allianceの米国およびその他の国における登録商標です。

AOSSは、株式会社バッファローの商標です。

BROADCOM、SecureEasySetup および SecureEasySetupのロゴは、Broadcom Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBMは米国International Business Machines Corporationの登録商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

### 編集ならびに出版における通告

本書ならびに本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。

ブラザー工業株式会社は、本書に掲載された仕様ならびに資料を予告なしに変更する権利を有します。また提示されている資料に依拠したため生じた損害（間接的損害を含む）に対しては、出版物に含まれる誤植その他の誤りを含め、一切の責任を負いません。

© 2009 Brother Industries, Ltd.



# はじめに

## 概要

本製品のネットワークインターフェースを利用してLANまたはWANに接続し、ネットワーク上のコンピュータから本製品で原稿のファクス受信や印刷ができます。

本書は、本製品をネットワーク上で使用するために必要な設定方法について説明しています。

次の表では、各動作環境でサポートするネットワークの機能と接続について示しています。

オペレーティング システム (OS)	Windows® 2000 Windows® XP Windows® XP Professional x64 Edition Windows Vista®	Windows Server® 2003 Windows Server® 2003 x64 Edition Windows Server® 2008	Mac OS X 10.3.9以降
10/100BASE-TX (TCP/IP)	○	○	○
印刷	○	○	○
BRAdmin Light	○	○	○
BRAdmin Professional ※1	○	○	
BRPrint Auditor ソフトウェア※1※2	○	○	
ウェブブラウザ	○	○	○
インターネット印刷 (IPP)	○	○	
スキャンング	○		○
PCファクス送信	○		○
PCファクス受信	○		
リモートセットアップ	○		○
ステータスマニタ	○		○
オートマチックドライバ インストーラ	○	○	

※1 BRAdmin Professional、BRPrint Auditorは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター  
(<http://solutions.brother.co.jp/>)) よりダウンロードしてください。

※2 BRPrint Auditor ソフトウェアを使用すると、USB とパラレル経由でクライアントコンピュータに接続している本製品の情報をBRAdmin Professionalで取得することができます。

## 特長と機能

### ネットワークプリンタ機能

本製品のネットワークインターフェースはTCP/IPに対応しています。TCP/IPの印刷プロトコルを使用して、ネットワーク上のコンピュータから直接印刷できます。

### ネットワークスキャン機能

モノクロまたはカラーでスキャンした画像データを、ネットワーク上のコンピュータへ直接保存できます。

### ネットワーク PCファクス送信機能

アプリケーションで作成したファイルを、ファクスとして送信できます。あらかじめ PC ファクスアドレス帳に相手先を登録しておくと、ファクスの送信時に便利です。

### ネットワーク PCファクス受信機能 (Windows® のみ)

受信したファクスを、本製品とネットワーク接続しているコンピュータに送ります。コンピュータ上で内容を確認してから印刷できます。

## 管理ユーティリティ

### ● BRAdmin Light

BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されているブラザー製品の初期設定用ユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IPアドレスなどのネットワークの基本設定が可能です。

BRAdmin Lightは、Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008、Mac OS X 10.3.9以降のコンピュータで利用できます。

Windows®をご使用の場合は、本製品に付属の  かんたん設置ガイドを参照し、BRAdmin Lightをインストールしてください。

Macintoshをご使用の場合は、プリンタドライバをインストールすると、自動的にBRAdmin Lightもインストールされます。すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、再度インストールする必要はありません。

詳しくは、「BRAdmin Lightで設定する」**P.72** を参照してください。

### ● BRAdmin Professional (Windows® のみ)

BRAdmin Professionalは、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品を検索し、ウィンドウ上でデバイスの状態を閲覧できます。各デバイスは、状態によって色分けされます。

ネットワーク上のWindows®システムが稼動するコンピュータから本製品のネットワークファームウェアをアップデートしたり、ネットワーク設定を変更したりすることができます。また、ネットワーク上のブラザー製品の使用状況を記録し、HTML、CSV、TXT、SQL 形式でログデータをエクスポートすることができます。

クライアントコンピュータに接続した本製品を管理する場合は、クライアントコンピュータにBRPrint Auditor ソフトウェアをインストールしてください。BRAdmin ProfessionalからUSBを経由してクライアントコンピュータに接続しているブラザー製品を管理することができます。詳しい情報とダウンロードについては、次のURLを参照してください。

サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）(<http://solutions.brother.co.jp/>)

### ● ウェブブラウザ

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されているブラザー製品の管理ができます。コンピュータにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上のブラザー製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。

詳しくは、「ウェブブラウザで管理する」**P.61** を参照してください。

### ● ネットワークリモートセットアップ機能

本製品にネットワーク経由でアクセスして各種設定ができます。

詳しくは、「ネットワークリモートセットアップで管理する」**P.76** を参照してください。

### ● BRPrint Auditor ソフトウェア (Windows® のみ)

BRPrint Auditor ソフトウェアは、USBでローカルに接続された機器をBRAdmin Professionalで管理できるようにします。USBを経由してクライアントコンピュータに接続された機器の情報を収集します。収集した情報はネットワーク上のBRAdmin Professionalが稼動している他のコンピュータで表示することができます。これによって管理者がページカウントやトナー、ドラムの状態、ファームウェアのバージョンなどの項目を確認することができます。

ブラザーネットワーク管理アプリケーションへの通知に加え、使用状況やステータス情報をCSVまたはXML ファイル形式で、あらかじめ指定したE メールアドレスに直接E メールを送信することもできます。（SMTP メールサポートが必要です。）また、E メールによる警告やエラー状態の通知にも対応しています。

## 補足

- 情報を取得したい本製品と接続されているクライアントコンピュータに、BRPrint Auditor ソフトウェアをインストールしてください。


- BRAdmin Professionalがインストールされているコンピュータにはインストールしないでください。

# 1章

## ネットワークで使う前に

■ ネットワーク導入作業の流れ.....	13
■ ネットワークの接続方法を決める .....	14
有線LAN .....	14
無線LAN .....	16
■ ネットワーク接続に必要な環境を整える .....	17
準備するもの .....	17
■ IPアドレスを決める.....	18

## ネットワーク導入作業の流れ

すでに  かんたん設置ガイドの手順にしたがってドライバのインストールをした場合は、ネットワークの設定は自動的に完了しています。


ここでは、手動でインストールする手順を説明しています。

### ネットワークの接続方法を決める


お使いの環境に合わせて本製品をどのように接続するかを決めます。

**P.14**  を参照してください。

### ネットワーク接続に必要な環境を整える


接続方法については、 かんたん設置ガイドを参照してください。


### IP アドレスを決める

本製品に割り当てる IP アドレスを決めます。**P.18**  を参照してください。

### ネットワークの設定を行う

操作パネルを使用して、本製品をネットワーク上で利用できるように IP アドレスなどを設定します。

ウェブブラウザを使用する場合は **P.61**  を参照してください。

BRAdmin Light を使用する場合は **P.72**  を参照してください。

### コンピュータにドライバをインストールし、ポートを追加する

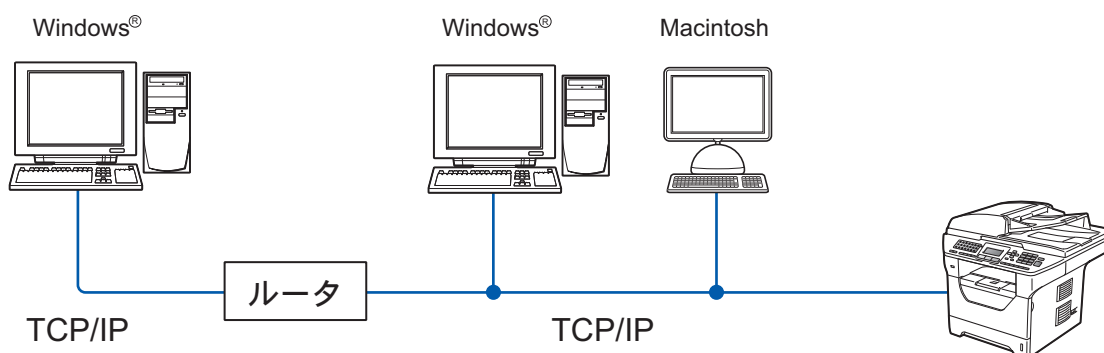
## ネットワークの接続方法を決める

接続方法は、各コンピュータから直接本製品と通信して印刷する方法（ピアツーピア）と、本製品に接続されているコンピュータを経由して印刷する方法（ネットワーク共有）があります。

### 有線LAN

#### ピアツーピア接続

ピアツーピア接続では、各コンピュータが本製品と直接データを送受信します。ファイルの送受信を操作するサーバやプリントサーバなどは必要ありません。各コンピュータにプリンタポートの設定をします。



- コンピュータ2、3台程度の小規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷よりも簡単に設定できるピアツーピア印刷をおすすめします。ネットワーク共有印刷については、**P.15**を参照してください。
- 各コンピュータにTCP/IPプロトコルの設定を行います。
- 本製品にもIPアドレスを設定する必要があります。
- ルータがある場合、ルータの先からも利用可能です。（ゲートウェイの設定が必要）

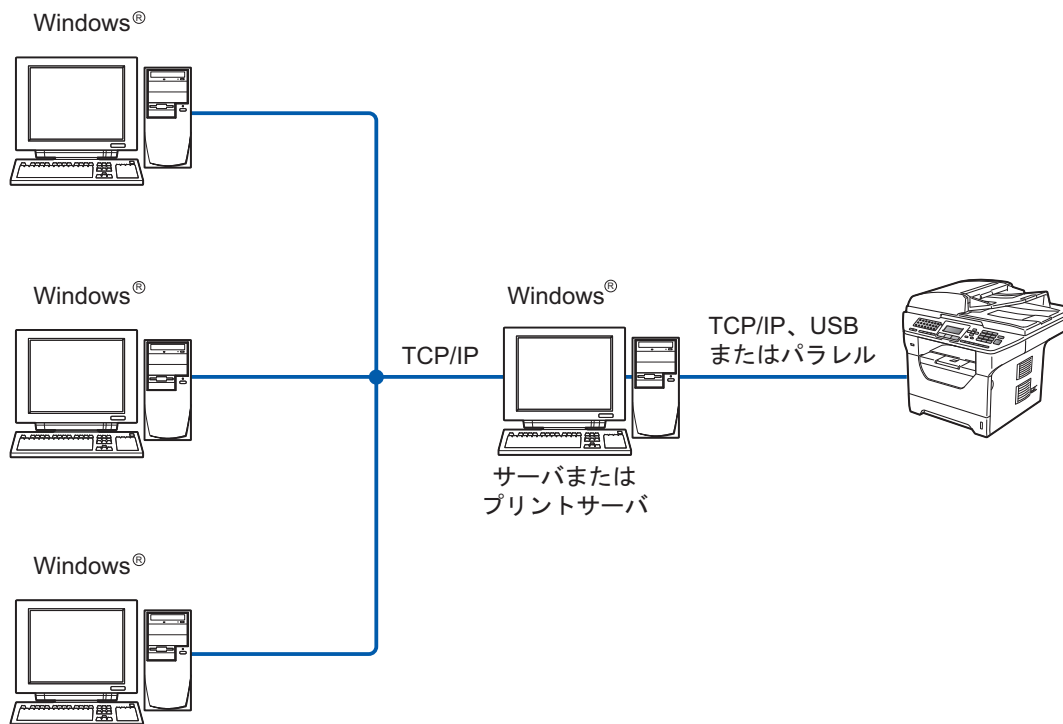
#### 補足

本書ではピアツーピア接続の設定方法について記載しています。

## ネットワーク共有

ネットワーク共有では、各コンピュータが本製品とデータを送受信するには、サーバまたはプリントサーバを経由する必要があります。このサーバまたはプリントサーバで、すべての印刷作業を制御します。

本製品に直接接続されているコンピュータにのみプリンタポートを設定し、そのコンピュータを経由して他のコンピュータも本製品を共有できます。ただし、本製品に接続されているコンピュータの電源が入っていないと、他のコンピュータは本製品を使用できません。



- ・大規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷環境をおすすめします。
- ・サーバまたはプリントサーバは、TCP/IP印刷プロトコルを使用してください。
- ・サーバまたはプリントサーバには、本製品に適したIPアドレスを設定する必要があります。
- ・サーバまたはプリントサーバをUSBまたはパラレルインターフェースを経由して接続することもできます。
- ・サーバまたはプリントサーバは、プリンタドライバがインストール済みであることが必要です。
- ・Windows®のみ設定可能です。

### 補足

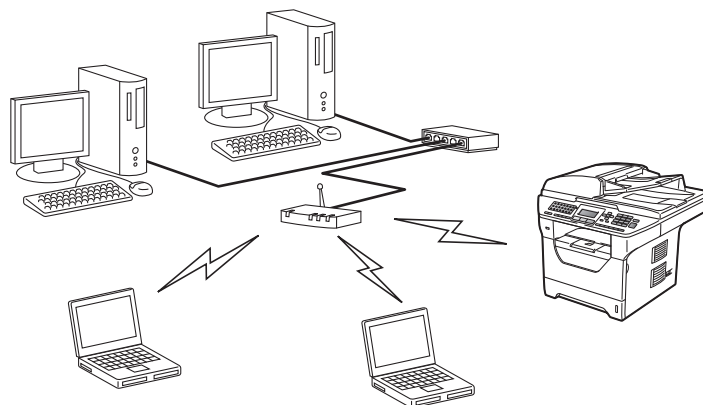
ネットワーク共有の設定方法については、Windows® オペレーティングシステムの共有プリンタに関する説明やヘルプを参照してください。

## 無線LAN

無線LANには、インフラストラクチャモードとアドホックモードの2つのタイプがあります。

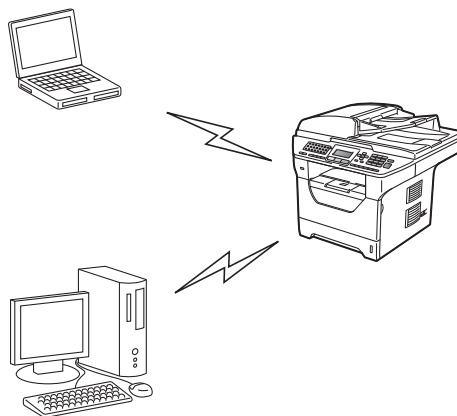
### インフラストラクチャモード

インフラストラクチャモードのネットワークでは、ネットワークの中心に無線LANアクセスポイントが設置されています。無線LANアクセスポイントは、有線のネットワークへ橋渡しをする他にゲートウェイとしても機能します。本製品をインフラストラクチャモードに設定している場合は、すべての印刷ジョブを無線LANアクセスポイントを経由して受け取ります。



### アドホックモード

アドホックモードのネットワーク（ピアツーピアネットワークともいいます）では、無線LANアクセスポイントが存在しません。それぞれの無線機器は個別に直接通信します。本製品をアドホックモードに設定している場合は、印刷データを送信するコンピュータからすべての印刷ジョブを直接受け取ります。



# ネットワーク接続に必要な環境を整える

本製品をネットワーク上で使用するために、あらかじめ準備したり調べておくものについて説明します。

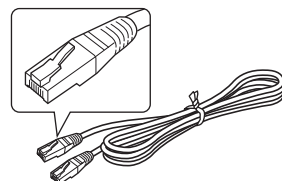
## 準備するもの

### ● LAN ケーブル

本製品とコンピュータ、またはハブなどの機器同士をつなぐケーブルです。LAN ケーブルにはいろいろな規格がありますが、現在一般的なのはカテゴリ5Eやカテゴリ6 という規格のケーブルです。5E のE は「Enhanced」の略で、「強化された」という意味を持っています。カテゴリ5Eやカテゴリ6 のケーブルはカテゴリ5 のケーブルよりもノイズに強い作りになっています。

また、同じカテゴリのケーブルにも「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。ストレートケーブルはADSL モデムとコンピュータの接続、コンピュータとハブの接続に使用されるケーブルで、ほとんどの場合はストレートケーブルで接続が可能です。クロスケーブルは2 台のコンピュータ同士を直接接続するときなどに使用されます。

ケーブルの長さは、機器間の距離に多少の余裕を持って購入してください。ただし、最大ケーブル長は10BASE-T/100BASE-TX とともに100m となっているため、それ以下になるようにしてください。



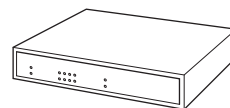
### 補足

無線LAN をご利用の場合でも、無線対応していないコンピュータとネットワーク接続するときは、LAN ケーブルが必要です。この場合、コンピュータと無線LAN アクセスポイントをLAN ケーブルで接続してください。詳しくは、無線LAN アクセスポイントの説明書をご覧ください。

### ● ハブ

複数台のコンピュータなどをネットワーク接続するときに必要な集線装置です。ハブには、大きく分けて「リピータハブ」と「スイッチングハブ」があります。リピータハブは主に10BASE-T で使用される集線装置です。スイッチングハブは主に、100BASE-TX や1000BASE-T に使用される集線装置で、信号の流れを制御してコリジョンという信号の衝突が起きないようにする機能を持っています。

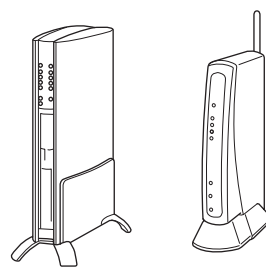
ハブに接続できる機器の数はハブのポート数によって決まります。お使いの環境から、何台の機器を接続するかを検討して購入してください。



### ● ルータまたはブロードバンドルータ

ADSL やCATV、光ファイバ (FTTH) などのインターネット網と、家庭・オフィスのLAN (内部ネットワーク) を中継する機器です。複数台のコンピュータから同時にインターネットに接続することができるようになります。ルータを使用すると、接続した各機器に自動でIPアドレスを割り当てるDHCP機能や、LAN内の独自のIPアドレス (プライベートIPアドレス) を持つ機器に、必要に応じてインターネット用のIPアドレス (グローバルIPアドレス) を割り当てるNAT機能が使えるようになります。

さらにインターネット接続に必要なプロトコルに対応していたり、インターネットからの不正なアクセスを防ぐセキュリティ機能なども持っています。



### 補足

無線LAN をご利用の場合は、無線LAN アクセスポイント (無線LANルータ) を使用してください。



## IPアドレスを決める

### ● IP アドレスとは

IP アドレスは、接続しているコンピュータの住所にあたるものです。TCP/IP ネットワークに接続するコンピュータなどの機器（ノード）には、必ずIP アドレスを割り当てる必要があります。

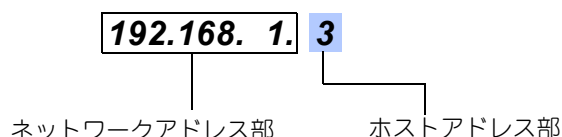
IP アドレスは、0～255 までの数字を「.（ピリオド）」で区切って「192.168.1.3」のように表現します。

ローカルネットワークでは、IP アドレスはサブネットマスクによって「ネットワークアドレス部」と「ホストアドレス部」に分割されています。サブネットマスクを設定することにより、ホストアドレス部だけでそのネットワーク全体を管理できます。IP アドレスとサブネットマスクは常にセットで管理してください。

**192.168. 1.3**  
**255.255.255.0**

**IP アドレス**  
**サブネットマスク**

と設定されている場合、



という意味を持っています。このうち利用可能なホストアドレス部の値は、予約された"0"と"255"を除いた1～254 の範囲で、「192.168.1.3」は、

**192.168.1.1~254**

の中のひとつのアドレスであることがわかります。このネットワークに本製品を追加する場合は、ホストアドレス部が重複しないようにしてください。

### 補足

#### ● 予約されているアドレス

上記の例では、192.168.1.0 がネットワークアドレス、192.168.1.255 がブロードキャストアドレスとなり、本製品に割り当てることはできません。

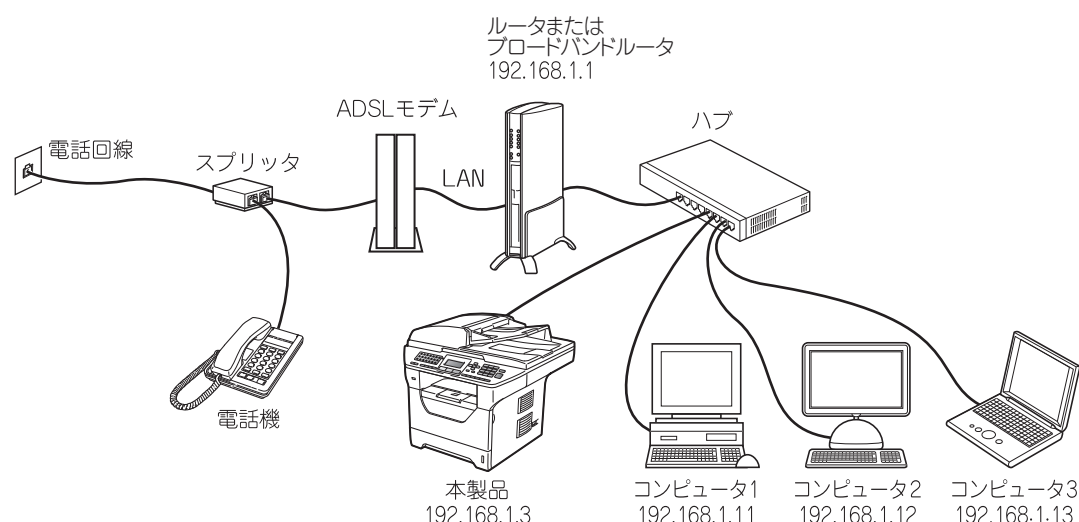
## ● IP アドレスの決め方

本製品を同じネットワーク上に接続するためには、現在使用しているルータなどの初期値に合わせると簡単に設定、管理することができます。IP アドレスを手動で設定する場合は以下のように設定します。

ルータのLAN 側 IP アドレスが「192.168.1.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」である場合、接続する本製品やコンピュータにネットワークアドレス部は同じ値を設定し、ホストアドレス部にはそれぞれ異なる値を割り当てます。ここでは「2～254」の範囲で設定します。以下の例を参考に、接続する機器のIP アドレスを設定してください。

例)

機器名(ノード)	IPアドレス	サブネットマスク
ルータまたはブロードバンドルータ	192.168.1. 1	255.255.255.0
本製品	192.168.1. 3	255.255.255.0
コンピュータ1	192.168.1.11	255.255.255.0
コンピュータ2	192.168.1.12	255.255.255.0
コンピュータ3	192.168.1.13	255.255.255.0



### 補足

- ネットワーク管理者がいるときは  
事務所などで多くの機器をネットワーク接続している場合は、ネットワークを管理している担当者を使用できるIP アドレスなどを問い合わせてください。数値を適当に設定すると、ネットワーク接続できないなどトラブルの原因になります。
- ネットワーク内にルータまたはブロードバンドルータがあるときは  
ルータにもIPアドレスが割り当てられています。そのIPアドレスを本製品またはコンピュータに設定しないでください。ルータのIPアドレスはルータまたはブロードバンドルータの取扱説明書を確認するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- DHCP環境でお使いの場合  
ルータまたはブロードバンドルータ以外にDHCPサーバが設置されているときは、ルータまたはブロードバンドルータのDHCPサーバ機能を無効にするか、本製品のIPアドレス取得方法を「Static」にしてください。**P.26**  
ルータについては、 かんたん設置ガイドを参照してください。


# 2章

## ネットワークの設定

■概要	21	■インターネットファクス、メール送信の	50
■操作パネルで有線LANの設定をする	22	設定	50
操作パネルから文字を入力する	23	メールタイトル	50
■TCP/IPの設定（有線LAN）	25	サイズ制限	51
IP取得方法	26	受信確認要求	52
IPアドレス	27	■リレー配信の設定	53
サブネットマスク	27	リレー配信許可	53
ゲートウェイ	28	許可ドメイン	54
ノード名（NetBIOS名）	29	リレー配信レポート	55
WINS設定	30	■スキャン to FTPの初期設定を変更する	56
WINSサーバ	31	■スキャン to ネットワークファイルの	57
DNSサーバ	32	初期設定を変更する	57
APIPA	33	■タイムゾーンの設定	58
IPv6	33	■ネットワーク設定のリセット	59
■イーサネットの設定	34	有線LAN設定の初期化	59
■有線LAN有効	35	■ネットワーク設定リストの出力	60
■インターネットファクスの設定	36	■ウェブブラウザで管理する	61
メールアドレス	36	概要	61
SMTPサーバ	37	ウェブブラウザを使用して本製品の設定を	62
SMTPポート	38	変更する	62
SMTP認証	39	LDAPサーバを設定する	65
POP3サーバ	40	■LDAPサーバを使用する	67
POP3ポート	41	概要	67
アカウント名	42	LDAPの操作方法	67
パスワード	43	セキュリティ機能ロック	68
APOP	44	セキュリティ機能ロックを設定する	69
■インターネットファクス、メール受信の	45	Eメール通達機能について	71
設定	45	■BRAdmin Lightで設定する	72
自動受信（自動メールチェック機能）	45	BRAdmin Lightのインストール	72
ポーリング間隔（自動メールチェックの頻度）	46	ネットワークインターフェースの設定	73
ヘッダ印刷	47	■ネットワークリモートセットアップで	76
エラーメール削除	48	管理する	76
受信確認	49	Windows®で設定する（Windows Server®	76
		2003/2008以外）	76
		Macintoshで設定する	77

## 概要

ネットワーク環境で本製品を使用する前に、TCP/IP の設定をする必要があります。  
この章では、TCP/IP プロトコルを使用したネットワーク印刷するために必要な基本手順について説明します。

本製品をネットワークに接続するには、付属のCD-ROM 内のブラザーインストーラを使用することをおすすめします。 **かんたん設置ガイド**の手順にしたがってプリンタドライバのインストールを進めると、簡単に本製品をネットワークに接続することができます。

ネットワークを設定するには、次の方法があります。

### ● 操作パネルを使用する

本製品の操作パネルを使用して、ネットワーク設定のリセット、プリンタ設定一覧の印刷、TCP/IP の設定ができます。詳しくは、**P.22** を参照してください。

### ● BRAdmin Light を使用する

BRAdmin Light は、ネットワークに接続されているブラザー製品の初期設定用ユーティリティです。  
ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IP アドレスなどのネットワークの基本設定ができます。詳しくは **P.72** を参照してください。

### ● BRAdmin Professional を使用する (Windows® のみ)

BRAdmin Professionalは、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。Windows® システムが稼動するコンピュータからネットワーク上のブラザー製品の検索、状態の閲覧、ネットワーク設定の変更ができます。詳しくは **P.177** を参照してください。BRAdmin Professionalは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://solutions.brother.co.jp/>）よりダウンロードしてください。

### ● ウェブブラウザを使用する

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されているブラザー製品の管理ができます。コンピュータにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上のブラザー製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。

詳しくは **P.61** を参照してください。

### ● その他の設定方法を使用する

他の方法を用いて、本製品を設定することができます。詳しくは **P.76** を参照してください。

# 操作パネルで有線LANの設定をする

操作パネルにある各種ボタンと液晶ディスプレイ（LCD）を使用して、ネットワークを設定する方法について説明します。本製品の操作パネルのボタンを利用することで、コンピュータから操作しなくてもネットワークの各設定項目を修正できます。メニュー、7 FGRS の順に押します。

7. ネットワーク
1. 有線LAN
2. 無線LAN
3. Eメール/IFAX
▲▼で選択&OKボタン

このようにネットワークのメインメニューへ入ることができます。この章では有線LANに関する下記の設定について説明しています。無線LANの設定方法については、3章「無線LANの設定」P.78 を参照してください。

- 1. TCP/IP設定（有線LAN）..... P.25 を参照してください。
- 2. イーサネットの設定..... P.34 を参照してください。
- 3. ネットワーク設定の初期化..... P.59 を参照してください。
- 4. ネットワーク設定リストの出力..... P.60 を参照してください。

## 補足

一度ネットワーク上で有効な IP アドレスを本製品に割り当てた後は、お使いのウェブブラウザからネットワークを通じてすべての設定項目を変更可能です。また、本製品に付属のCD-ROM内に収録されているBRAdmin Lightを、ご使用いただくことで同様に設定が可能です。

## 操作パネルから文字を入力する

ボタンを押す回数に応じて入力できる文字が変わります。入力できる文字の種類は設定項目によって異なります。

ボタン	ひらがな	カタカナ	数字／記号
	あいうえお あいうえお	アイウエオ アイウエオ	1
	かきくけこ	カキケコ	abcABC2
	さしすせそ	サシセソ	defDEF3
	たちつてと	タチツテト	ghiGHI4
	なにぬねの	ナニヌネ	jklJKL5
	はひふへほ	ハヒフハホ	mnoMNO6
	まみむめも	マミムメモ	pqrPQRS7
	やゆよやゆよ	ヤユヨヤユヨ	tuvTUV8
	らりるれろ	ラ	wxyzWXYZ9
	わをんー	ワヲンー	0
	＊ ＊	＊ ＊	—
	—	—	.@-_' (スペース) ;:<=>?[]^!"#\$%&()*+./€

## 文字の入力方法（変更方法）


電話番号や文字は以下の操作で入力します。

したいこと	操作のしかた
文字を入れる	～ 、、 を押す
文字の種類を切り替える	を押す (かな→カナ→英数→かな)
電話番号に「ポーズ」を入れる ※ポーズ（約3.5秒の待ち時間）	を押す ※入力したポーズは電話帳やダイヤル入力時は「p」で表示されます。 発信元登録（  ）では入力できません。
文字を削除する	を押す ・カーソルが文字列の最後の後方にあるときは、カーソルの左の1文字を削除する ・カーソルが文字列上にあるときは、カーソル位置の1文字を削除する
文字を変更する	を押して変更したい文字にカーソルを移動させ、 を押した後に文字を入力する
漢字に変換する	を押したあと、    で漢字を選び、 を押す
スペース（空白）を入れる	を押してカーソルを右に移動させる (文字のときは文字変換後  (1回押) でスペースを入れることができます)
記号を入力する	を押して記号を選ぶ（英数入力時のみ）
同じボタンで続けて文字を入力する	を押してカーソルを1文字分移動させて入力する
入力した内容を確定させる	を押す

## 入力例

発信元登録や電話帳登録で「ブラザー 太郎」と入力するときは下記のように操作します。

1

を1回押し、文字の種類を「カタカナ」に切り替える  
画面右下に「▲カ」が表示されます。

名前: ■
入力&OKボタン ▲カ

2


下記の順にボタンを押し、カタカナで「ブラザー」を入力する

- ・「ブ」: を3回押し
- ・「ラ」: を1回押し
- ・「サ」: を1回押し
- ・「ー」: を1回押し
- ・「ー」: を4回押し

3

を2回押し、スペースをあける

4

を2回押し、文字の種類を「ひらがな」に切り替える  
画面右下に「▲あ」が表示されます。

名前: ブラザー ■
入力&OKボタン ▲あ

5

下記の順序にボタンを押し、ひらがなで「たろう」を入力する

- ・「た」: を1回押し
- ・「ろ」: を5回押し
- ・「う」: を3回押し

補足

「たろう」とすべて入力する前に「太郎」が表示された場合は、手順6に進みます。

6

を押し、で「太郎」を選択する

名前: ブラザー たろう 太郎 太郎 たら
▲▼で選択&OKボタン

7

OKを押す

## TCP/IPの設定（有線LAN）

TCP/IPを使用して印刷するには、本製品にIPアドレスとサブネットマスクを設定します。ルータの先に本製品が接続されている場合は、ルータのアドレス（ゲートウェイ）も設定します。

### 補足

本製品の初期設定は、次の通りです。

- IPアドレス：169.254.x.x（APIPA機能による自動割当）

### 注意

DHCP、BOOTP、RARPまたはAPIPA機能を使用しない場合は、自動的にIPアドレスを取得しないように、IPの取得方法をStatic（手動）に設定します。 **P.26**

このメニューは10の項目で構成されています。

- IP取得方法
- IPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイ
- ノード名
- WINS設定
- WINSサーバ
- DNSサーバ
- APIPA
- IPv6

### 補足

TCP/IPを設定する他の方法

- ウェブブラウザを使用する場合は **P.61** を参照してください。
- その他TCP/IPを設定する方法は **P.211** を参照してください。



## IP取得方法

1

メニュー、**7** PQRS、**1**、**1**、**1**の順に押す  
 ▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

▲ または ▼ を押して「Auto」、「Static」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」のいずれかを選択する  
 お買い上げ時は「Auto」になっています。

11. TCP/IP設定
1. IP取得方法
▲ Auto
▼ Static
▲▼で選択&OKボタン

3

**OK** を押す  
 IPアドレス取得方法が確定されます。  
 ・「Auto」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」を選択した場合は、次の手順4を実行します。  
 ・「Static」を選択した場合は、手順5に進みます。

4

IPアドレスの取得を試みる回数を設定して、**OK** を押す  
 お買い上げ時の設定は「00003」です。IPアドレスの取得に失敗する場合は、数値を大きくします。

5

⏏ 停止/終了  
**停止/終了** を押す  
 設定メニューを終了します。

### 補足

IP取得方法を「Auto」に設定すると、「DHCP」、「BOOTP」、「RARP」の順にネットワーク内のIPアドレス配布サーバを探して、IPアドレスを取得します。これらのサーバが見つからなかった場合は、「APIPA」機能により、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

## IPアドレス


本製品の現在のIPアドレスが表示されます。IPアドレスを変更する場合は、IP取得方法をStatic（手動）に指定してください。設定するIPアドレスについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。Static以外のIP取得方法が選ばれている場合は、DHCP、RARPまたはBOOTPのプロトコルを使用してIPアドレスを自動的に取得します。

**1** 、**7 PQRS**、**1**、**1**、**2 ABC**の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** **IPアドレスを入力する**  
 右記は例です。  
 設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。  
 そのときは **1** を押します。 **2 ABC** を押すと、設定画面へ戻ります。

11. TCP/IP設定 2. IPアドレス
192.168.001.003
入力OKボタン

**3**  を押す  
 IPアドレスが登録されます。

**4**  を押す  
 設定メニューを終了します。


## サブネットマスク


本製品の現在のサブネットマスクが表示されます。DHCP、RARPまたはBOOTP、APIPAを使用していない場合は、サブネットマスクを手動で入力してください。設定するサブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

**1** 、**7 PQRS**、**1**、**1**、**3 DEF**の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** **サブネットマスクを入力する**  
 右記は例です。  
 設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。  
 そのときは **1** を押します。 **2 ABC** を押すと、設定画面へ戻ります。

21. TCP/IP設定 3. サブネットマスク
255.255.255.0
入力OKボタン

**3**  を押す  
 サブネットマスクが登録されます。

**4**  を押す  
 設定メニューを終了します。


## ゲートウェイ


本製品の現在のゲートウェイアドレスが表示されます。DHCP、RARPまたはBOOTP、APIPAを使用していない場合はアドレスを手動で指定します。ゲートウェイやルータを使用しない場合はお買い上げ時の設定 (000.000.000.000) にしておいてください。アドレスが不明な場合はネットワーク管理者へお問い合わせください。

**1** 、**7** PQRS、**1**、**1**、**4** GH の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** **ゲートウェイアドレスを入力する**  
右記は例です。  
設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。  
そのときは **1** を押します。**2** を押すと、設定画面へ戻ります。

11. TCP/IP設定
4. ゲートウェイ
192. 168. 001. 001
入力&OKボタン

**3**  **を押す**  
ゲートウェイアドレスが登録されます。

**4**  **を押す**  
設定メニューを終了します。

## ノード名 (NetBIOS名)

ノード名をネットワークに登録するために使用します。(WINSサーバに登録されているNetBIOS名になります)  
お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxx”です。(「xxxxxxxxxxx」は MAC アドレス (イーサネットアドレス) の 12桁です。)

1

メニュー、**7 PQRS**、**1**、**1**、**5 JKL** の順に押す  
▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

**1** を押す  
**2 ABC** で設定メニューへ戻ります。

11. TCP/IP設定
BRNXXXXXXXXXXXX
▲ 1. 変更
▼ 2. 中止
▲▼で選択&OKボタン

3

ノード名を入力する

11. TCP/IP設定
5. ノード名
BRNXXXXXXXXXXXX
入力&OKボタン

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは **P.23** を参照してください。  
ノード名は、最大32文字まで入力できます。

4

**OK** を押す  
ノード名が登録されます。

5

Ⓢ 停止/終了 **を押す**  
設定メニューを終了します。

## WINS設定

この項目で本製品がWINSをどのように解決するかを設定します。

### Auto

DHCPサーバから自動的にプライマリー、セカンダリーのWINSサーバアドレスを取得します。「IP取得方法」が「Auto」に設定されている必要があります。**P.26**

### Static

手動でWINSサーバアドレスを設定します。

**1** 、**7** PQRS、**1**、**1**、**6** MNO の順に押す  
 または で選択して で決定することも可能です。

**2** または を押して「Auto」、「Static」のどちらかを選択する  
 お買い上げ時は「Auto」になっています。

11. TCP/IP設定
6. WINS設定
▲ Auto
▼ Static
▲▼で選択&OKボタン

**3** を押す  
 WINS 設定が登録されます。

**4** を押す  
 設定メニューを終了します。

## WINSサーバ

WINSサーバの設定をします。

### ● プライマリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリWINS（Windows® Internet Name Service）サーバのIPアドレスを登録します。  
0以外の値が設定されている場合、本製品はプライマリWINSサーバのIPアドレスとしてその値を登録します。

### ● セカンダリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリWINS（Windows® Internet Name Service）サーバのIPアドレスを登録します。セカンダリWINSサーバはプライマリWINSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからないときに機能します。  
0以外の値が設定されている場合、本製品はセカンダリWINSサーバのIPアドレスとしてその値を登録します。  
ネットワーク内にセカンダリのWINSサーバが存在しない場合は入力しなくても構いません。



メニュー、**7 PQRS**、**1**、**1**、**7 PQRS**の順に押す  
または、**▲** または **▼** で選択して **OK** で決定することも可能です。



**▲** または **▼** を押して「プライマリ」または「セカンダリ」のWINSサーバを選択する

21. TCP/IP設定
7. WINS サーバ
▲ プライマリ
▼ セカンダリ
▲▼で選択&OKボタン



**OK** を押す  
設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。  
そのときは**1**を押します。**2 ABC**を押すと、設定画面へ戻ります。



WINS サーバのアドレスを入力する

21. TCP/IP設定
7. WINS サーバ
000.000.000.000
入力&OKボタン



**OK** を押す  
WINS サーバのアドレスが登録されます。



**停止/終了** を押す  
設定メニューを終了します。

## DNSサーバ

DNS（ドメインネームシステム）サーバの設定をします。

### ● プライマリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリDNS（ドメインネームシステム）サーバのアドレスを指定します。



### ● セカンダリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリDNSサーバのアドレスを指定します。セカンダリDNSサーバはプライマリDNSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからない場合に機能します。




ネットワークのトラフィックが大きい環境で使用する場合に設定してください。

ネットワーク内にセカンダリのDNSサーバが存在しない場合は入力しなくても構いません。

**1** 、**7** 、**1** 、**1** 、**8**  の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。


**2**  または  を押して「プライマリ」または「セカンダリ」のDNSサーバを選択する


21. TCP/IP設定
8. DNS サーバ
▲ <b>プライマリ</b>
▼ セカンダリ
▲▼で選択&OKボタン

**3**  を押す  
 設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。  
 そのときは **1**  を押します。 **2**  を押すと、設定画面へ戻ります。

**4** DNSサーバのアドレスを入力する

21. TCP/IP設定
8. DNS サーバ
000.000.000.000
入力&OKボタン

**5**  を押す  
 DNSサーバのアドレスが登録されます。

**6**  を押す  
 設定メニューを終了します。

## APIPA

APIPAの設定を「オン」にすると、169.254.1.0から169.254.254.255の範囲でIPアドレスが自動的に割り当てられます。「オフ」に設定した場合は、IPアドレスを手動で設定してください。

1

メニュー、**7 PQRS**、**1**、**1**、**9 WXYZ**の順に押す  
 または **▼** で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

**▲** または **▼** を押して「オン」または「オフ」のどちらかを選択する  
 お買い上げ時は「オン」に設定されています。

11. TCP/IP設定
9. APIPA
▲ オン
▼ オフ
▲▼で選択&OKボタン

3

**OK** を押す  
 APIPA の設定が登録されます。

4

停止/終了  
**—** を押す  
 設定メニューを終了します。

## IPv6

本製品は次世代インターネットプロトコルIPv6に対応しています。IPv6プロトコルを使用する場合は、「オン」に設定してください。お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。IPv6 プロトコルの詳細については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（<http://solutions.brother.co.jp/>））をご覧ください。

1

メニュー、**7 PQRS**、**1**、**1**、**0**の順に押す  
 または **▼** で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

**▲** または **▼** を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する

11. TCP/IP設定
0. IPv6
▲ オン
▼ オフ
▲▼で選択&OKボタン

3

**OK** を押す  
 IPv6 の設定が登録されます。

4

停止/終了  
**—** を押す  
 設定メニューを終了します。

5

本製品の電源を入れ直す  
 設定が変更されます。



## イーサネットの設定

この設定の変更を有効にするためには、本製品を再起動する必要があります。

### 注意

誤った設定をした場合、本製品にアクセスできなくなることがあります。



メニュー、**7 PQRS**、**1**、**2 ABC**の順に押す

▲または▼で選択してOKで決定することも可能です。



▲または▼を押してリンクモードを選択する

選べるモードは以下のとおりです。

(お買い上げ時は Auto に設定されています)

- Auto
- 100B-FD
- 100B-HD
- 10B-FD
- 10B-HD

71. 有線LAN
2. イーサネット
▲ Auto
▼ 100B-FD
▲▼で選択&OKボタン



OKを押す

イーサネットの設定が登録されます。



停止/終了

を押す

設定メニューを終了します。



本製品の電源を入れ直す

設定が保存されます。

### ● Ethernet リンクモードについて

**Auto :**

100BASE-TX (全二重/半二重)、10BASE-T (全二重/半二重) モードを自動的に選択します。

**100B-FD/100B-HD/10B-FD/10B-HD :**

それぞれのリンクモードに固定されます。

- 100B-FD : 100BASE-TX Full Duplex
- 100B-HD : 100BASE-TX Half Duplex
- 10B-FD : 10BASE-T Full Duplex
- 10B-HD : 10BASE-T Half Duplex

## 有線LAN有効

本製品を有線LANに接続して使用する場合は、「オン」に設定してください。

1

メニュー



7 PQRS

1

4 GHI の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

2

▲ または ▼ を押して「オン」を選択する

71. 有線LAN  
4. 有線LAN有効

▲ オン  
▼ オフ

▲▼で選択&OKボタン

3

OK

を押す

有線 LAN が有効になります。

4

停止/終了



を押す

設定メニューを終了します。

## インターネットファクスの設定

インターネットファクス機能を利用するには、使用している環境に応じて以下の項目を設定します。

- メールアドレス
- SMTPサーバ
- SMTPポート
- SMTP Auth.
- POP3サーバ
- POP3ポート
- アカウント名
- パスワード
- APOP

### 補足

お使いのウェブブラウザを使って設定することもできます。詳しくは、**P.61** を参照してください。

## メールアドレス

1

メニュー、**7** PQRS、**3** DEF、**1** の順に押す

または、**2** ABC で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

**1** を押す

**2** ABC で設定メニューへ戻ります。

73. Eメール/IFAX  
XXXXX@XXXXX

▲ **1. 変更**  
▼ **2. 中止**

▲▼で選択&OKボタン

3

メールアドレスを入力する

73. Eメール/IFAX  
**1. メールアドレス**

XXXXX@XXXXX

入力&OKボタン

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、**P.23** を参照してください。  
メールアドレスは、最大60文字まで入力できます。

4

**OK** を押す

メールアドレスが登録されます。

5

ⓧ 停止/終了

**停止/終了** を押す

設定メニューを終了します。

## SMTP サーバ

この項目でネットワーク上のSMTPメールサーバ（送信用サーバ）のIPアドレスまたはサーバ名を指定します。この項目はインターネットファクス機能を使用する上で正しく入力されている必要があります。  
 （例：mail.xyz.comまたは192.168.001.099）

1

メニュー、7 PQRS、3 DEF、2 ABC、1 の順に押す  
 または、または で選択して OK で決定することも可能です。

2

または を押して「サーバ名」、「IPアドレス」のどちらかを選択する

32. サーバ 設定
1. SMTP サーバ
▲ サーバ 名
▼ IPアド レス
▲▼で選択&OKボタン

3

OK を押す

設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。そのときは 1 を押します。2 ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

4

「IPアドレス」を選択した場合は、SMTP サーバのアドレスを入力する  
 「サーバ名」を選択した場合は、SMTP サーバのサーバ名を入力する

サーバ名は、最大 64 文字まで入力できます。

32. サーバ 設定
1. SMTP サーバ
000.000.000.000
入力&OKボタン

32. サーバ 設定
1. SMTP サーバ
XXXXXX
入力&OKボタン

5

OK を押す

SMTP サーバのアドレスまたはサーバ名が登録されます。

6

停止/終了 を押す

設定メニューを終了します。

# SMTPポート

この項目でSMTPメールサーバ（送信用サーバ）のポートを指定します。

**補足** この項目はメールサーバ管理者またはお使いのインターネットサービスプロバイダから変更の指示があったときなどに必要に応じて設定してください。

- 1

メニュー

7 PQRS

3 DEF

2 ABC

2 ABC

の順に押す

またはで選択してで決定することも可能です。
- 2

SMTP ポート番号を入力する

SMTP ポート番号は、メールサーバ管理者またはプロバイダの指定するポート番号を入力してください。

32. サーバ 設定

2. SMTP ポート

XXXXX

入力OK
- 3

OK

を押す

SMTP ポート番号が登録されます。
- 4

停止/終了

を押す

設定メニューを終了します。

## SMTP認証

ユーザ認証を必要とするセキュリティの高いSMTPサーバを経由してEメールを送信するには、SMTP認証の設定が必要です。

### 補足

SMTPの認証方式はお使いのSMTPサーバの仕様に合わせて設定してください。詳しくは、**P.172**（Eメール通達のセキュリティを設定する）を参照してください。

# 1

メニュー、**7** PORS、**3** DEF、**2** ABC、**3** DEF の順に押す

▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。

# 2

▲ または ▼ を押して認証方式を選択し、**OK** を押す

- ・「SMTP認証」の場合：手順3に進みます。
- ・「POP bef. SMTP」の場合：手順7に進みます。

32. サーバ 設定
3. SMTP認証
▲ 認証しない *
▼ SMTP認証
▲▼で選択&OKボタン

# 3

本製品に割り当てられているメールアカウントのアカウント名を入力する

32. サーバ 設定
3. SMTP認証
アカウント名
XXXXX
入力&OKボタン

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、**P.23** を参照してください。  
アカウント名は、最大60文字まで入力できます。

# 4

**OK** を押す

アカウント名が登録されます。

# 5

SMTP サーバにアクセスするためのパスワードを入力し、

**OK** を押す

32. サーバ 設定
3. SMTP認証
アカウント パスワード
入力&OKボタン

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、**P.23** を参照してください。  
パスワードは、最大32文字まで入力できます。

# 6

再度パスワードを入力する

# 7

**OK** を押す

パスワードが登録されます。

# 8

⏏ 停止/終了

**OK** を押す

設定メニューを終了します。

## POP3サーバ

この項目でネットワーク上のPOP3メールサーバ（受信用サーバ）のIPアドレスまたはサーバ名を指定します。この項目はインターネットファクス機能を使用する上で正しく入力されている必要があります。  
（例：pop.xyz.comまたは192.168.001.099）

1

メニュー、7 PQRS、3 DEF、2 ABC、4 GHIの順に押す  
または、またはで選択してOKで決定することも可能です。

2

またはを押して「サーバ名」、「IPアドレス」のどちらかを選択する

32. サーバ 設定
4. POP3 サーバ
▲ サーバ 名
▼ IPアド レス
▲▼で選択&OKボタン

3

OKを押す

設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。そのときは1を押します。2 ABCを押すと、設定画面へ戻ります。

4

「IPアドレス」を選択した場合は、POP3 サーバのアドレスを入力する  
「サーバ名」を選択した場合は、POP3 サーバのサーバ名を入力する

サーバ名は、最大 64 文字まで入力できます。

32. サーバ 設定
4. POP3 サーバ
000.000.000.000
入力&OKボタン

32. サーバ 設定
4. POP3 サーバ
XXXXXX
入力&OKボタン

5

OKを押す

POP3 サーバのアドレスまたはサーバ名が登録されます。

6

停止/終了を押す

設定メニューを終了します。

## POP3ポート

この項目でPOP3メールサーバ（受信用サーバ）のポートを指定します。

### 補足

この項目はメールサーバ管理者から変更の指示があったときなどに必要に応じて設定してください。

1

メニュー、7 PQRS、3 DEF、2 ABC、5 JKL の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

2

### POP3 ポート番号を入力する

POP3 ポート番号は、メールサーバ管理者の指定するポート番号を入力してください。

32. サーバ 設定  
5. POP3 ポート

XXXXX

入力&OKボタン

3

OK を押す

POP ポート番号が登録されます。

4

停止 / 終了

を押す

設定メニューを終了します。



## アカウント名

POP3 メールサーバ（受信用サーバ）にアクセスするためには、アクセス用アカウント名とパスワードが必要になります。ここでは、アクセス用アカウント名（ユーザー名）の設定をします。

**1** 、**7** PQRS、**3** DEF、**2** ABC、**6** MNO の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** 本製品に割り当てられているメールアカウントのアカウント名を入力する

設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。そのときは **1** を押します。**2** を押すと、設定画面へ戻ります。


32. サーバ 設定  
6. アカウント名


XXXXX

入力&OK キー

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、**P.23** を参照してください。  
 アカウント名は、最大60文字まで入力できます。



**3**  を押す  
 アカウント名が登録されます。

**4**  を押す  
 設定メニューを終了します。

## パスワード

POP3 メールサーバ（受信用サーバ）にアクセスするためには、アクセス用アカウント名とパスワードが必要になります。ここでは、アクセス用アカウント名と対になるパスワードの設定をします。


**1** 、、、、の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** POP3 サーバにアクセスするためのパスワードを入力する  
 設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。そのときは  
 を押します。 を押すと、設定画面へ戻ります。

32. サーバ 設定  
 7. パスワード


パスワード：  
 入力&OKボタン


### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、**P.23**  を参照してください。  
 パスワードは、最大32文字まで入力できます。

**3**  を押す

**4** 再度パスワードを入力する

**5**  を押す  
 パスワードが登録されます。

**6**  を押す  
 設定メニューを終了します。

## APOP

アカウントやパスワードのセキュリティを保つために、APOP (Authenticated Post Office Protocol) を有効にできます。

### 補足

APOPはお使いのPOP3サーバの仕様に合わせて設定してください。詳しくは、[P.172](#) (Eメール通達のセキュリティを設定する) を参照してください。

1

メニュー、**7 PQRS**、**3 DEF**、**2 ABC**、**8 TUV** の順に押す

▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

▲ または ▼ を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する

お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

32. サーバ 設定  
8. APOP  
▲ オン  
▼ オフ \*  
▲▼で選択&OKボタン

3

**OK** を押す

APOP の設定が登録されます。

4

⏏ 停止/終了  
**停止** を押す

設定メニューを終了します。

## インターネットファクス、メール受信の設定

本製品でメールを受信するには、以下の5つの項目を設定する必要があります。

- 自動受信
- ポーリング間隔
- ヘッダ印刷
- エラーメール削除
- 受信確認

### 補足

お使いのウェブブラウザを使って設定することもできます。詳しくは、**P.61** を参照してください。

### 自動受信（自動メールチェック機能）

自動受信を「オン」に設定すると、本製品は次項の「ポーリング間隔」で設定した時間ごとにPOP3サーバへメールチェックします。もしメールがなければ「メールはありませんでした」と表示されます。

1

メニュー  
、**7 PQRS**、**3 DEF**、**3 DEF**、**1** の順に押す  
または、**▼** で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

**▲** または **▼** を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する  
お買い上げ時は、「オン」に設定されています。

33. メール受信設定

1. 自動受信

▲ **オン** \*

▼ オフ

▲▼で選択&OKボタン

3





**OK** を押す  
自動受信の設定が登録されます。

4

停止/終了  
**—** を押す  
設定メニューを終了します。


## ポーリング間隔（自動メールチェックの頻度）


POP3サーバに対し、何分ごとにメールチェックするかを指定します。初期設定では10分です。

**1** 、**7 PQRS**、**3 DEF**、**3 DEF**、**2 ABC** の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** メールボックスのチェック頻度を、分単位で入力する  
(01 分～ 60 分)  
お買い上げ時は、10 分に設定されています。

33. メール 受信設定
2. ポーリング 間隔
ポーリング : 10分
入力OKボタン

**3**  を押す  
ポーリング間隔の設定が登録されます。



**4**  を押す  
設定メニューを終了します。

## ヘッダ印刷

メール内容のうち、ヘッダ部分を印刷させるかを指定します。初期設定では「なし」になっています。

- 全て.....ヘッダすべてを印刷
- ヘッダのみ.....タイトル、あて先、差出人を印刷
- なし.....なし

**1** 、**7** PQRS、**3** DEF、**3** DEF の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2**  または  を押して「全て」、「ヘッダのみ」「なし」のいずれかを選択する  
お買い上げ時は、「なし」に設定されています。


33. メール 受信設定


3. ヘッダ印刷

▲ ヘッダのみ

▼ なし \*

▲▼で選択&OKボタン



**3**  を押す  
ヘッダ印刷の設定が登録されます。

**4**  を押す  
設定メニューを終了します。

## エラーメール削除


エラーメール削除を「オン」に設定することで、本製品がメールボックスチェック時に、POP3サーバから取得できなかったメールを削除することができます。

**1** 、**7** PQRS、**3** DEF、**3** DEF、**4** GHI の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2**  または  を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する  
お買い上げ時は、「オン」に設定されています。

33. メール 受信設定	
4. エラーメール削除	
▲	オン *
▼	オフ
▲▼で選択&OKボタン	


**3**  を押す  
エラーメール削除の設定が登録されます。



**4**  を押す  
設定メニューを終了します。

## 受信確認


この機能により、インターネットファクス機能による受信を送信者に通知することができます。


- オン ..... 全てのインターネットファクスメッセージに対して送信元に受信確認を送付します。
- MDN ..... MDN（受信確認リクエスト）機能を使用して送られてきたインターネットファクスメッセージの送信元に対してのみ受信確認を送付します。
- オフ ..... 受信確認の送付を一切行いません。

**1** 、**7 PQRS**、**3 DEF**、**3 DEF**、**5 JKL** の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2**  または  を押して「オン」、「MDN」、「オフ」のいずれかを選択する  
 お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

33. メール 受信設定
5. 受信確認
▲ MDN
▼ オフ *
▲▼で選択&OKボタン

**3**  を押す  
 受信確認の設定が登録されます。

**4**  を押す  
 設定メニューを終了します。



## インターネットファクス、メール送信の設定

本製品でメールを送信するには、以下の3つの項目を設定する必要があります。

- メールタイトル
- サイズ制限
- 受信確認要求

### 補足

お使いのウェブブラウザを使って設定することもできます。詳しくは、**P.61** を参照してください。

### メールタイトル

コンピュータなどへの送信時に、件名として表示されるテキストです。初期設定では「Internet Fax Job」になっています。

1

メニュー、**7 PQRS**、**3 DEF**、**4 GHI**、**1** の順に押す  
 または **▲▼** で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

**1** を押す  
**2 ABC** で設定メニューへ戻ります。

34. メール送信設定
Internet Fax Job
▲ 1. 変更
▼ 2. 中止
▲▼で選択&OKボタン

3

送信メールに記載するタイトル情報を入力する  
 お買い上げ時は、「Internet Fax Job」に設定されています。

34. メール送信設定
1. メールタイトル
Internet Fax Job
入力&OKボタン

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、**P.23** を参照してください。  
 メールタイトルは、最大40文字まで入力できます。

4

**OK** を押す  
 メールタイトルが登録されます。

5

**停止/終了** を押す  
 設定メニューを終了します。

## サイズ制限

サイズ制限を「オン」にしておくと、1 MB を超えるサイズのメールを送信しようとしたとき「メモリーがいっぱいです」と表示され、メールは送信されず、エラーレポートが出力されます。サイズ制限を「オン」にした場合は、ページを分割して送るなどして、ひとつのメールを1 MB以下に抑える必要があります。



メニュー、**7** PQRS、**3** DEF、**4** GHI、**2** ABC の順に押す  
 ▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。



▲ または ▼ を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する  
 お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

34. メール 送信設定	
2. サイズ 制限	
▲	オン
▼	オフ *
▲▼で選択&OKボタン	




**OK** を押す  
 サイズ制限の設定が登録されます。





⏏ 停止/終了  
**停止** を押す  
 設定メニューを終了します。


## 受信確認要求


この機能により、インターネットファクス機能による受信を送信者に通知することができます。  
この機能を「オン」にすることで、インターネットファクス送信時に受信確認要求の情報をあわせて送信します。受信側の機器ではMDN（受信確認機能）の設定が有効になっている必要があります。  
詳しくは、 画面で見るマニュアル（HTML形式）の「受信確認について」を参照してください。

**1** 、**7** PQRS、**3** DEF、**4** GHI、**3** DEF の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2**  または  を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する  
お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

34. メール 送信設定  
3. 受信確認要求  
▲ オン  
▼ オフ \*

**3**  を押す  
受信確認要求の設定が登録されます。

**4**  を押す  
設定メニューを終了します。

## リレー配信の設定

本製品でリレー配信するには、以下の3つの項目を設定する必要があります。

- ・リレー配信許可
- ・許可ドメイン
- ・リレー配信レポート



### 補足

この機能により、インターネット経由で受け取ったドキュメントを通常の電話回線を使用して他のファクス機器に転送することができます。


### リレー配信許可


この機能により、インターネット経由で受け取ったドキュメントを通常の電話回線を使用して、他のファクス機に転送することができます。

**1** 、**7** PQRS、**3** DEF、**5** JKL、**1** の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2**  または  を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する  
お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

35. リレー 設定  
1. リレー 許可  
▲ オン  
▼ オフ \*

**3**  を押す  
リレー配信許可の設定が登録されます。

**4**  を押す  
設定メニューを終了します。

## 許可ドメイン

最大10件まで本製品を経由した転送を許可する信頼できるドメイン名を登録しておくことができます。ここに登録されていないドメインからのインターネットファクスは転送できません。登録されているドメインからのインターネットファクスはファクス機器に転送することができます。

### 補足

ドメイン名とは

一般的に、例えばtaro@brother.co.jpというメールアドレスの場合、@より後ろのbrother.co.jpがドメイン名になります。

1

メニュー、7 PQRS、3 DEF、5 JKL、2 ABC の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

2

▲ または ▼ を押してドメインを登録する番号を選択する

10 件まで登録できます。

35. リレー 設定  
2. 許可 ドメイン  
リレー-01:  
リレー-02:

▲▼で選択&OKボタン

3

OK を押す

4

ドメイン名を入力する

35. リレー 設定  
2. 許可 ドメイン

リレー-01:

▲▼で選択&OKボタン

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは、P.23 を参照してください。ドメイン名は、最大30文字まで入力できます。

5

OK を押す

許可ドメインの設定が登録されます。

6

停止/終了



を押す

設定メニューを終了します。


## リレー配信レポート


リレー配信転送レポートは、本製品を経由して転送が行われたときに出力されます。また、このレポートはネットワークPCファクス機能を使用したドキュメントの送信確認の際にも出力されます。

**1** 、**7** PQRS、**3** DEF、**5** JKL、**3** DEF の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2**  または  を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する  
お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

35. リレー 設定
3. リレー レポート
▲ オン
▼ オフ *
▲▼で選択&OKボタン

**3**  を押す  
リレー配信レポートの設定が登録されます。

**4**  を押す  
設定メニューを終了します。

## スキャン to FTPの初期設定を変更する

本製品のスキャン機能のうち、スキャン to FTP、スキャン to ネットワークファイルでは、解像度とファイル形式の初期設定を以下の手順で変更できます。

1

メニュー、7 PQRS、5 JKL の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

2

▲ または ▼ を押してカラー / グレー / モノクロと解像度を選択する

下記の中から選択してください。

- ・ カラー 100 dpi
- ・ カラー 200 dpi
- ・ カラー 300 dpi
- ・ カラー 600 dpi
- ・ グレー 100 dpi
- ・ グレー 200 dpi
- ・ グレー 300 dpi
- ・ モノクロ 200 dpi
- ・ モノクロ 200×100dpi

3

OK を押す

4

▲ または ▼ を押して画像の形式を選択する

- ・ カラー / グレーを選択した場合は、[PDF]、[セキュリティ PDF]、[JPEG]、[XPS] を選択できます。
- ・ モノクロを選択した場合は、[PDF]、[セキュリティ PDF]、[TIFF] を選択できます。

5

OK を押す

6

⏏ 停止 / 終了 を押す

## スキャン to ネットワークファイルの初期設定を変更する

本製品のスキャン機能のうち、スキャン to FTP、スキャン to ネットワークファイルでは、解像度とファイル形式の初期設定を以下の手順で変更できます。

1

メニュー 、**7 PQRS**、**6 MINO** の順に押す

 または  で選択して  で決定することも可能です。


2

 または  を押してカラー / グレー / モノクロと解像度を選択する

下記の中から選択してください。

- カラー 100 dpi
- カラー 200 dpi
- カラー 300 dpi
- カラー 600 dpi
- グレー 100 dpi
- グレー 200 dpi
- グレー 300 dpi
- モノクロ 200 dpi
- モノクロ 200×100dpi

3


 を押す

4

 または  を押して画像の形式を選択する

- カラー / グレーを選択した場合は、[PDF]、[セキュリティ PDF]、[JPEG]、[XPS] を選択できます。
- モノクロを選択した場合は、[PDF]、[セキュリティ PDF]、[TIFF] を選択できます。

5

 を押す

6

 停止 / 終了 を押す



## タイムゾーンの設定

お住まいの国のタイムゾーンを設定します。ここで設定される値は、世界標準時間との時差になります。(例: 日本UTC+9:00)  
ここで設定したタイムゾーンは、インターネット経由で送信したドキュメントに使用されます。

### 補足

- UTC（協定世界時）  
GMT（グリニッジ標準時）とほぼ同じ時刻ですが、全世界で時刻を記録する際に使われる公式な世界標準時刻のことで、1972年1月1日より使用されています。
- お使いのウェブブラウザを使って設定することもできます。詳しくは **P.61** を参照してください。

1

メニュー、**7 PQRS**、**7 PQRS** の順に押す

▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

▲ または ▼ を押してタイムゾーンを設定する

▲ または ▼ を押すごとに 30 分ずつ時差が増減します。

77. タイムゾーン	
UTC+09:00	*
UTC+08:30	
▲▼で選択&OKボタン	

3

**OK** を押す

タイムゾーンが登録されます。

4

停止/終了

**停止/終了** を押す

設定メニューを終了します。

## ネットワーク設定のリセット

現在のネットワーク設定をすべてお買い上げ時の設定に初期化できます。リセットすると本製品は自動的に再起動します。

### 補足

この設定では、IPアドレスやメールアドレスなど、すでに設定しているネットワークのすべての情報を初期化します。有線LANと無線LANの設定については、個別に初期化することができます。有線LANの初期化については次項を参照してください。無線LANの初期化については **P.145** を参照してください。



メニュー、**7 PQRS**、**0** の順に押す

▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。



**1** を押す

**2 ABC** を押すと、設定メニューに戻ります。

70. ネットワーク設定リセット

▲ **1. リセット**

▼ **2. 中止**

▲▼で選択&OKボタン



**1** を押す

• **2 ABC** を押すと、設定メニューに戻ります。

• **1** を押すと、数秒後に本製品が再起動します。

70. ネットワーク設定リセット

再起動しますか?

▲ **1. リセット**

▼ **2. 中止**

▲▼で選択&OKボタン

## 有線LAN設定の初期化

現在の有線LAN設定をすべてお買い上げ時の設定に初期化できます。



メニュー、**7 PQRS**、**1**、**3 DEF** の順に押す

▲ または ▼ で選択して **OK** で決定することも可能です。



**1** を押す

**2 ABC** を押すと有線 LAN の初期化をキャンセルし、設定メニューに戻ります。

71. 有線LAN

3. 初期設定に戻す

▲ **1. 決定**

▼ **2. キャンセル**

▲▼で選択&OKボタン



⏻ 停止/終了

**1** を押す

# ネットワーク設定リストの出力

現在のネットワークに関する設定内容を印刷できます。

**補足**  
ノード名（NetBIOS名）：ネットワーク設定リストにはノード名が表示されます。お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxx”です。（「xxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）

- 1

メニュー

6 MNO

7 PQRS

を押す

▲

または

▼

で「ネットワーク設定リスト」を選択して

OK

で決定することも可能です。
- 2

スタート

を押す

ネットワーク設定リストが印刷されます。

67. ネットワーク設定リスト

スタートボタンを押してください

# ウェブブラウザで管理する

## 概要

標準のウェブブラウザで、HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用して、ネットワークに接続されているプラザ製品を管理することができます。

Windows®の場合はMicrosoft Internet Explorer 6.0以降またはFirefox 1.0以降、Macintoshの場合はSafari 1.3以降を推奨します。

### 補足

- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびCookieを有効にして使用してください。
- 他のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP 1.0およびHTTP 1.1と互換性があることを確認してください。

ウェブブラウザを使用して、次の情報を本製品から取得することができます。

- 本製品のステータス、設定、メンテナンスに関する詳細情報の取得
- 本製品とプリントサーバのソフトウェアバージョン情報の取得
- 本製品の設定変更
- ネットワークの設定変更
- テストページ、プリンタ設定一覧、ネットワーク設定リストの印刷
- ネットワーク設定リセット

### 条件

本製品とコンピュータのTCP/IP設定が完了していること。

### 設定の流れ

1. TCP/IPプロトコルによってコンピュータがネットワーク接続されていることを確認します。
2. ウェブブラウザを起動し、本製品のIPアドレスまたはノード名（NetBIOS名）を入力します。

## ウェブブラウザを使用して本製品の設定を変更する

### ウェブブラウザを使用して本製品にアクセスする方法

#### 1 ウェブブラウザを起動する

#### 2 ウェブブラウザのアドレス入力欄に、 http://XXXXX を入力する

- XXXXXはご使用になる本製品の IPアドレスです。



例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合  
ウェブブラウザに http://192.168.1.3 と入力します。

- 本製品のIPアドレスの確認は、**P.27** を参照してください。
- Windows®のドメイン/ワークグループ環境の場合は、ノード名（NetBIOS名）を使用することもできます。
- DNSを使用している場合は、DNS名を入力します。

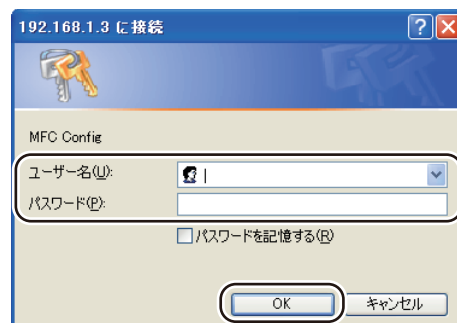
#### 3 目的の管理機能へのリンクをクリックする

ネットワークの設定を表示または変更する場合は、[ネットワーク設定] をクリックします。



#### 4 [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] をクリックする


お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。



#### 5 必要に応じて設定を変更する

#### 補足

- プロトコル設定を変更した場合は、変更内容を有効にするため [OK] をクリックして、本製品を再起動してください。

- hosts ファイルを編集した場合や、または DNS サーバを使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、ネットワーク設定リストで確認できます。ネットワーク設定リストを印刷するには、**P.60** を参照してください。NetBIOS名は、ノード名の最初の15文字が割り当てられます。お買い上げ時のNetBIOS名は、“BRNxxxxxxxxxxx”です。（「xxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の12桁です。）
- Mac OS X ユーザーの方は、ステータスマニタの本製品アイコンをクリックしてウェブブラウザを起動することで、本製品にアクセスすることができます。  
詳しくは  画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

## パスワードについて

ウェブブラウザでは、2段階のパスワードによる管理が可能です。一般ユーザーで管理できるのは「基本設定」「ファクス設定」「コピー設定」です。

### 一般ユーザー

ユーザー名：user  
パスワード：access

ネットワーク管理者用のパスワード管理では、全ての機能を管理できます。

### 管理者

ユーザー名：admin  
パスワード：access

## ウェブブラウザで【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】の設定を変更する

本製品のウェブページから「管理者設定」 - 「FTP/ ネットワークファイル スキャン設定」をクリックすると以下の画面が表示され、【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】の設定を変更することができます。また、15文字以内で2種類のオリジナルファイル名を登録することができます。



## ウェブブラウザで【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】のプロファイルを設定する

本製品のウェブページから「管理者設定」 - 「FTP/ ネットワークファイル スキャンプロファイル」をクリックすると以下の画面が表示され、【スキャン to FTP】または【スキャン to ネットワークファイル】のプロファイルを設定することができます。

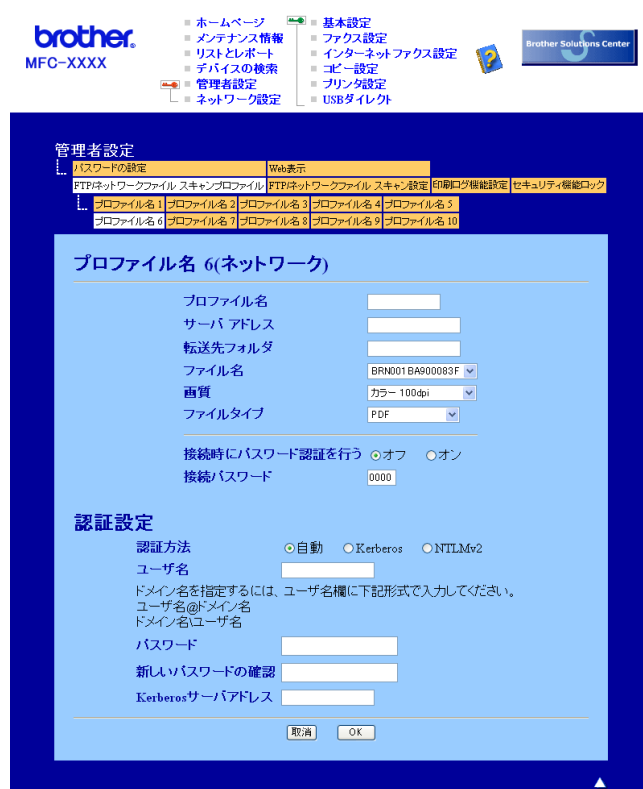


プロファイル名をクリックすると以下の画面が表示されます。必要に応じて設定してください。

【スキャン to FTP】の場合



【スキャン to ネットワークファイル】の場合

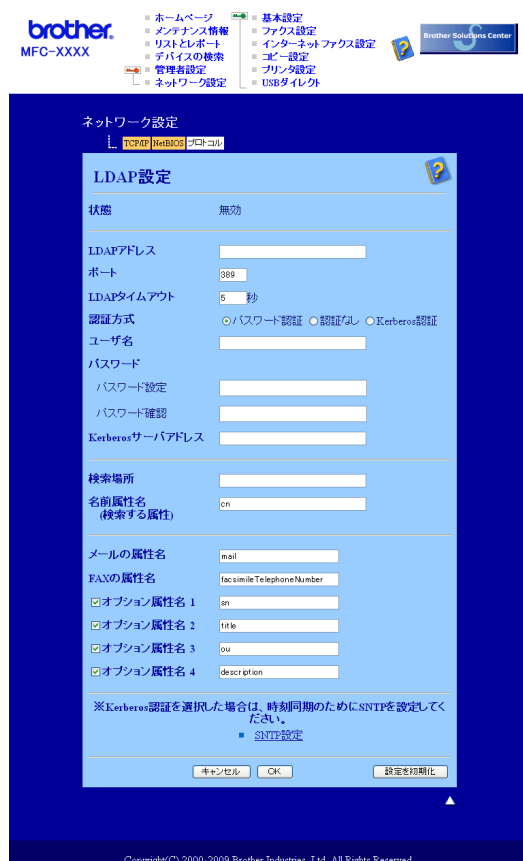


## LDAPサーバを設定する

本製品のウェブページから「ネットワーク設定」-「プロトコル設定」をクリックすると以下の画面が表示され、LDAPサーバの設定を変更することができます。LDAPのチェックボックスにチェックを入れてから「詳細設定」をクリックしてください。



Windows®LDAPサーバに接続できない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせいただき、LDAPセキュリティオプションを確認してください。






- 状態 有効/無効
- LDAPアドレス
- ポート（初期値は389）
- LDAPタイムアウト
- 認証方式
- ユーザ名
- パスワード
- Kerberosサーバアドレス
- 検索場所
- 名前属性名（検索する属性）
- メールの属性名
- FAXの属性名

設定後にLDAPサーバ接続確認画面が表示されます。ステータスがOKとなっていることを確認してください。

### 補足

- LDAP サーバが Kerberos 認証されていた場合は、認証方式で Kerberos を選択するようにおすすめします。その場合、LDAPサーバと本体の認証が強化されます。
- 画面右上のヘルプ  をクリックすると設定項目の詳細が表示されます。

# LDAPサーバを使用する

## 概要

本製品は、LDAPプロトコルによりサーバからファクス番号やEメールアドレスを検索することができます。ウェブブラウザでLDAPサーバの設定をします。

## ウェブブラウザを使用してLDAPサーバの設定を変更する

本製品は、ウェブブラウザを使用することでLDAPサーバ設定を変更することができます。詳しい設定方法は、**P.65** を参照してください。

## LDAPの操作方法

1

電話帳検索/  
短縮を押す

検索

1. LDAPサーバ 電話帳
2. 本体電話機

▲▼で選択&amp;OKボタン

2

1を押し、探したい名前を入力する

- 漢字を入力する場合、文字を入力すると、漢字の候補が表示されます。漢字を選択するときは  
▲ ▼ ▲ ▼ で選択します。
- 入力方法については、「操作パネルから文字を入力する」**P.23** を参照してください。
- 半角15文字まで入力することができます。

3

電話帳検索/  
短縮 または OKを押す

LDAPサーバに該当するアドレスがない場合は、[データが見つかりません] のメッセージが約2秒間表示されます。

4

▲ または ▼ で目的の名前を選択し、OKを押す

- 入力した文字から始まる相手先名が50音順またはアルファベット順に表示されます。
- ▲ を押すと、詳細画面になります。

検索:カ

中井

中井

▼中西

▲▼で選択&amp;OKボタン

5

▲ または ▼ で目的のファクス番号、もしくはEメールアドレスを選択して、OKを押す

6

⇕スタート  
相手先の表示を確認して [スタート] を押す

### 補足

- 本製品は、LDAPv3をサポートしています。
- LDAPサーバと通信するためには、Kerberos認証、もしくはシンプル認証を使用してください。
- SSL/TLSには対応していません。

## セキュリティ機能ロック

ウェブブラウザを使用してユーザーの名前（ID）とパスワードを登録することで、ユーザーごとに利用できる以下の機能をそれぞれ制限することができます。

- PCプリント
- USBダイレクトプリント
- コピー
- 印刷枚数の制限
- ファクス送信
- ファクス受信
- スキャン

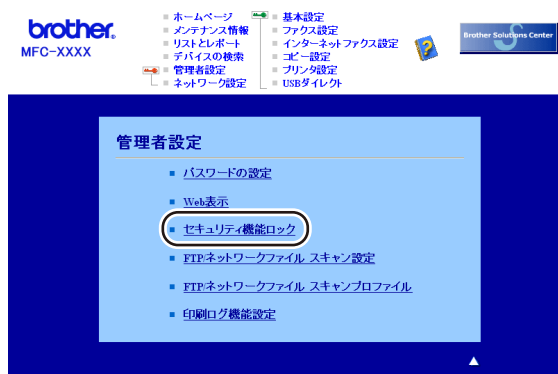
受信したファクスを印刷せずにメモリーに蓄積し、管理者やマネージャーだけが印刷できるようようにすることで、見積書や財務情報などの管理も安心です。また、印刷枚数やコピーの利用を制限することで不正な出力を防止し、経費削減にもつながります。

## セキュリティ機能ロックを設定する

### 基本設定

1

本製品のウェブページから「管理者設定」-「セキュリティ機能ロック」をクリックする



2

「セキュリティ機能ロック」から「オン」を選択し、「管理者パスワード」を入力する

- パスワードは4桁の数字で入力します。



3

「制限ID番号/ID名」と「パスワード」を入力する

- 14文字まで登録できます。
- 同じユーザー名は登録できません。
- パスワードは4桁の数字で入力します。



4

## 制限したい機能のチェックをはずす

印刷枚数を制限する場合は、[枚数制限 オン] をチェックし最大印刷可能枚数を入力してください。

制限ID番号/ID名	パスワード	印刷			枚数制限 Max	その他		ページカウンタ カウンタリセット	合計
		PC プリント	USBダ イレクト プリント	コピー オン		ファ クス 送信	ファ クス 受信		
一般モード									0
1 プラザモード	XXXXX	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
2 ユーザー1	XXXXX	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	100	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
3 ユーザー2	XXXXX	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	50	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
4 ユーザー3	XXXXX	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	25	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
5 ユーザー4	XXXXX	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	25	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
6 ユーザー5	XXXXX	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	75	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
7		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
8		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0

5

[OK] をクリックして、ウェブブラウザを閉じる

## コンピュータのログイン名でプリントを制限する

コンピュータへログインするために使用しているユーザー名で、プリント制限の認証を行うことができます。

1

セキュリティ機能ロックの基本画面から  
[ログイン名によるPC プリント制限] を  
クリックする

2

[ログイン名] を入力し、セキュリティ機能  
ロックで登録した [制限 ID 番号] を選  
択する

## 補足

一つの [制限ID番号] にグループとして複数の  
[ログイン名] を登録することも可能です。

ログイン名	制限ID番号	ログイン名	制限ID番号
1 プラザモード	01	26	
2 PCユーザー1	02	27	
3 PCユーザー2	02	28	
4 PCユーザー3	02	29	
5		30	

3

[OK] をクリックして、ウェブブラウザを閉じる

## その他の設定

管理者設定

パスワードの設定 Web表示

FTP/ネットワークファイル スキャンプロファイル FTP/ネットワークファイル スキャン設定 印刷ログ機能設定 セキュリティ機能ロック

### セキュリティ機能ロック

セキュリティ機能ロック ☒ オフ ☐ オン カウンタ自動リセット設定

管理者パスワード  ログイン名によるPCプリント制限

新しいパスワードの確認

制限ID番号/ID名	パスワード	印刷			その他			ページカウンタ
		PCプリント	USBダイレクトプリント	コピー	枚数制限	ファクス送信	ファクス受信	スキャン
③ 一般モード		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1 ブラザー太郎	xxxx	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2 ユーザー1	xxxx	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3 ユーザー2	xxxx	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4 ユーザー3	xxxx	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5 ユーザー4	xxxx	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
6 ユーザー5	xxxx	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
22		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
23		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
24		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
25		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

④ 前回ログ参照

⑤ CSVファイルへ出力

取消 OK

Copyright(C) 2000-2009 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved

- ①定期的にページカウンタをリセットするための設定をします。
- ②すべてのページカウンタを「0」に戻します。
- ③機能を制限するときにチェックボックスのチェックを外します。
- ④ページカウンタがリセットされる以前のログを表示します。
- ⑤制限ID番号/ID名と現在のページカウンタの情報をエクスポートします。

## Eメール通達機能について

Eメール通達機能では、あらかじめ登録しておいたネットワーク管理者に、本製品の状態やトラブルが起きたときにその内容をEメールでお知らせすることができます。

例えば、トナー切れや紙づまりが起きたときなどに、登録しておいたメールアドレスにお知らせメールが届きます。

Eメール通達機能を利用するには、メールアドレスとSMTPサーバの設定が必要です。使用している環境に応じて設定してください。

ユーザー認証を必要とするSMTPサーバを経由して、Eメール通達機能を使用するには、「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法を使用する必要があります。これらの方法は、無許可のユーザーがメールサーバに不正アクセスするのを防ぐものです。ウェブブラウザおよびBRAdmin Professionalを使用して設定することができます。

## 補足

POP3/SMTP認証の設定をEメールサーバのいずれかに合わせる必要があります。使用前の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

# BRAdmin Lightで設定する

## BRAdmin Lightのインストール

BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されたブラザー製品を設定するユーティリティソフトです。ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IPアドレスなどのネットワークの基本設定が行えます。Mac OS Xを使用している場合は、ドライバをインストールするとBRAdmin Lightも同時にインストールされます。

### 補足

- TCP/IP ネットワークで接続された本製品を自動的に検索し、IP アドレスなどのネットワーク設定を変更できるので、ネットワーク管理が簡単に行えるようになります。
- BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP/Windows Vista®, Windows Server® 2003/2008 および Mac OS X 10.3.9 以降に対応しています。
- さらに高度なプリンタ管理を必要とする場合は、BRAdmin Professional (Windows® 版のみ) をご利用ください。BRAdmin Professionalは、サポートサイト (ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>)) よりダウンロードしてご使用ください。

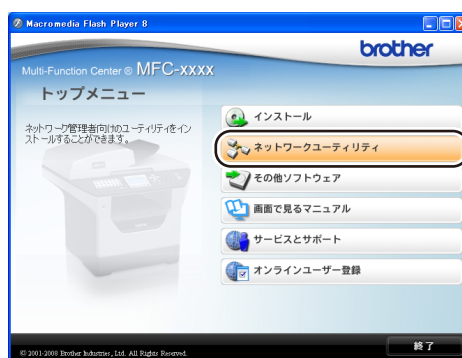
## BRAdmin Light (Windows®版) をインストールする

1

付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

2

「ネットワークユーティリティ」をクリックする



3

「BRAdmin Light」をクリックし、画面の指示にしたがってインストールする



### 補足

アンチウイルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Lightの「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的に無効にしてください。

## ネットワークインターフェースの設定

TCP/IPを利用して印刷するには、本製品にIPアドレスを割り当てる必要があります。

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IPアドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定します。

### 補足

#### ゲートウェイの設定

ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つIPアドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルータのIPアドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書をご覧ください。

IPアドレスは以下の方法で割り当てます。

- IPアドレス配布サーバを利用している場合  
本製品は各種のIPアドレス自動設定機能に対応しています。DHCP、BOOTP、RARPなどのIPアドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動したときに自動的にIPアドレスが割り当てられます。
- IPアドレス配布サーバを利用していない場合  
DHCP、BOOTP、RARPなどのIPアドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA機能により、本製品が自動的にIPアドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境のIPアドレスの設定規則に適さない場合は、BRAdmin LightやBRAdmin Professionalを使用して本製品のIPアドレスを設定してください。

### 補足

#### お買い上げ時のIPアドレス

IPアドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

- IPアドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA機能による自動割当）

現在の設定値を調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。詳しくは **P.60** を参照してください。



## Windows®版で設定する

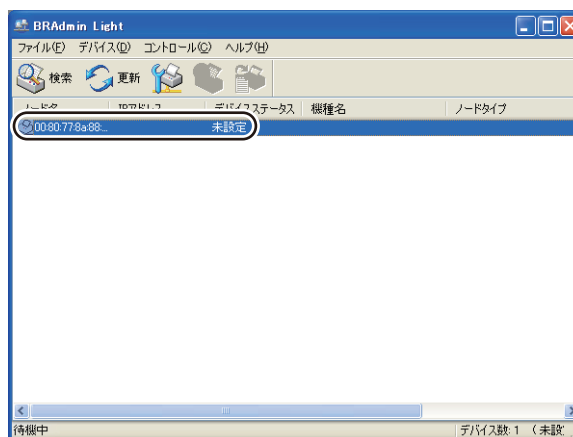
1

【スタート】メニューから【すべてのプログラム（プログラム）】－【Brother】－【BRAdmin Light】－【BRAdmin Light】の順に選択する

新しいデバイスを自動的に検索します。

2

【デバイスステータス】が「未設定」となっている本製品をダブルクリックする



## 注意

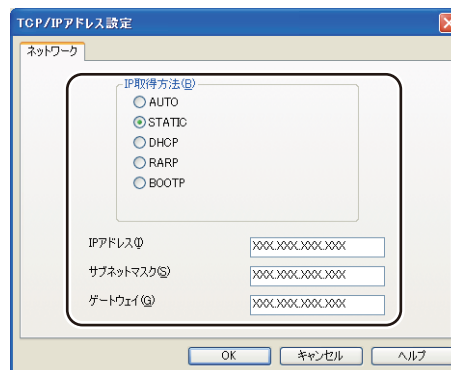
ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合やIPアドレスの自動設定機能によりIPアドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに「未設定」とは表示されません。その場合は、設定を変更せずに本製品を利用することをおすすめします。

## 補足

現在設定されているノード名やMACアドレスを調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。詳しくはP.60を参照してください。  
お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxx”です。（「xxxxxxxxxxx」はMACアドレス（イーサネットアドレス）の12桁です。）  
「未設定」と表示されていないデバイスに設定するときに、パスワードを設定している場合は、パスワードの入力が必要です。（お買い上げ時のパスワードは“access”です。）

3

【IP取得方法】から【STATIC】を選択し、【IPアドレス】【サブネットマスク】【ゲートウェイ】を入力する



4

【OK】をクリックする

本製品にIPアドレスが正しく設定されると、ウィンドウにノード名およびプリンタ名が表示されます。

## 補足

BRAdmin Lightを使用せずにIPアドレスを設定するときは以下の方法でもIPアドレスの設定ができます。

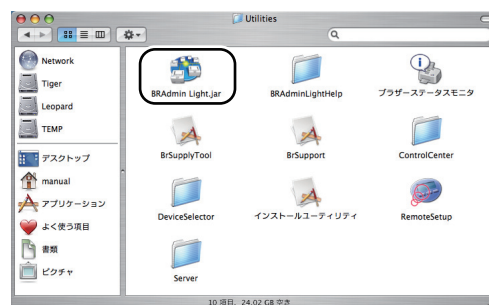
- ・操作パネルで設定する場合はP.26を参照してください。
- ・DHCP、RARP、BOOTPを使用する場合はP.26 P.211を参照してください。

## Macintosh版で設定する

BRAdmin Lightは、ドライバをインストールすると自動的にインストールされます。

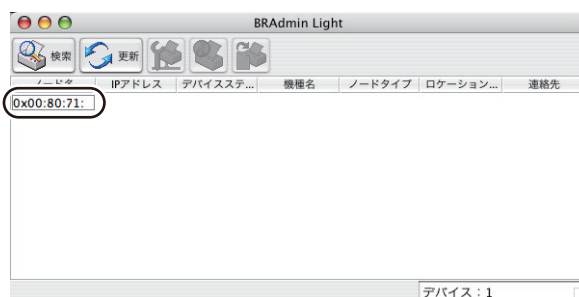
1

デスクトップ上の [Macintosh HD] から、  
[ライブラリ] - [Printers] -  
[Brother] - [Utilities] -  
[BRAdmin Light.jar] の順に選択する  
BRAdmin Light が起動し、新しいデバイスを自動  
的に検索します。



2

[デバイスステータス] が [未設定] と  
なっている本製品をダブルクリックする



### 注意

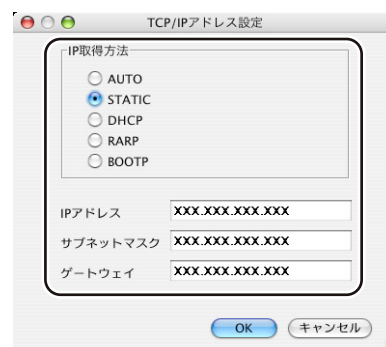
ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合やIPアドレスの自動設定機能によりIPアドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに「未設定」とは表示されません。  
その場合は、設定を変更せずに本製品を利用することをおすすめします。

### 補足

現在設定されているノード名やMACアドレスを調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。  
詳しくは **P.60** を参照してください。  
お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxxx” です。(「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス (イーサネットアドレス) の 12桁です。)

3

「IP 取得方法」 から [STATIC] を選択  
し、[IP アドレス] [サブネットマスク]  
[ゲートウェイ] を入力する



4

[OK] をクリックする  
アドレス情報が本製品に保存されます。

# ネットワークリモートセットアップで管理する

ネットワークリモートセットアップ機能とは、本製品の設定をネットワークに接続しているコンピュータから変更したり、本製品の電話帳を編集したりできます。

## Windows®で設定する（Windows Server® 2003/2008以外）

### リモートセットアップを起動する



【スタート】メニューから【すべてのプログラム（プログラム）】－【Brother】－【MFC-XXXX LAN】－【リモートセットアップ】の順に選択する

本製品への接続を開始し、設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップのダイアログボックスが表示されます。

リモートセットアップの使い方、変更できる設定については、画面で見るマニュアル（HTML 形式）の「リモートセットアップ」を参照してください。

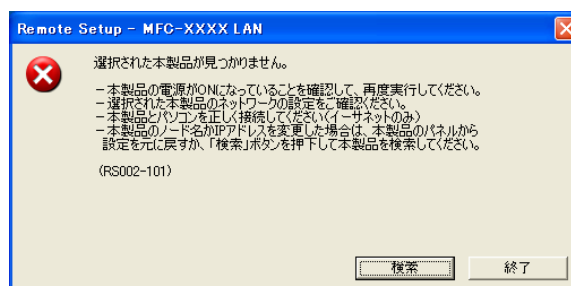
#### 補足

本製品にパスワードを設定している場合は、ネットワークリモートセットアップの起動時に、パスワードを入力する必要があります。（お買い上げ時のパスワードは“access”です。）

### 本製品との接続に失敗した場合



エラーメッセージの【検索】をクリックする



表示される機器の一覧から、設定を変更する機器を選択し、【OK】をクリックする

選択した機器への接続を開始します。

再度機器を検索する場合は、【検索】をクリックしてください。



#### 補足

表示される一覧に、接続先の機器が表示されない場合

【手動設定】をクリックして表示されるダイアログボックスで、接続先のIPアドレスまたはノード名を入力して設定してください。

## Macintoshで設定する

### リモートセットアップを起動する

1

【Macintosh HD】－【ライブラリ】－【Printers】－【Brother】－【Utilities】から【Remote Setup】アイコンをダブルクリックする

本製品への接続を開始し、設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップの画面が表示されます。

詳細な説明については  画面で見るマニュアル（HTML形式）の「リモートセットアップ」を参照してください。

#### 補足

ネットワークリモートセットアップの起動時に、パスワードを入力する必要があります。  
（お買い上げ時のパスワードは“access”です。）

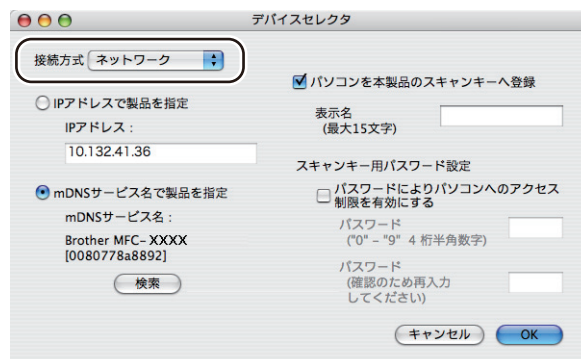
### 本製品との接続に失敗した場合

1

【Macintosh HD】－【ライブラリ】－【Printers】－【Brother】－【Utilities】－【DeviceSelector】の【デバイスセクタ】をダブルクリックする

2

接続方式から【ネットワーク】を選択する



3

【検索】をクリックする

4

表示される機器の一覧から、接続する機器を選択し、【OK】をクリックする  
選択した機器への接続を開始します。

5

デバイスセクタの設定を確認し、【OK】をクリックする  
再度機器を検索する場合は、【検索】をクリックしてください。


# 3章

## 無線LANの設定

■ 無線LAN設定について .....	79
概要 .....	79
無線LANの用語 .....	80
無線LAN設定の流れ .....	82
ネットワーク環境を確認する .....	84
無線LAN設定の方法を確認する .....	85
■ 操作パネルから手動で無線LAN設定をする .....	87
■ 操作パネルと無線LANアクセスポイントの簡単設定を使用する .....	91
■ WPS (Wi-Fi Protected Setup) のPIN方式を使用する .....	93
■ ブラザーインストーラを使用する (Windows®) .....	95
インフラストラクチャモードでの無線LAN設定 .....	96
アドホックモードでの無線LAN設定 .....	107
■ ブラザーインストーラを使用する (Macintosh) .....	115
インフラストラクチャモードでの無線LAN設定 .....	116
アドホックモードでの無線LAN設定 .....	125
■ 操作パネルで無線LANの設定を変更する .....	133
操作パネル .....	133
■ TCP/IPの設定 (無線LAN) .....	134
IP取得方法 .....	135
IPアドレス .....	136
サブネットマスク .....	136
ゲートウェイ .....	137
ノード名 (NetBIOS名) .....	137
WINS設定 .....	138
WINSサーバ .....	139
DNSサーバ .....	140
APIPA .....	141
IPv6 .....	141
■ 無線LANの状態 .....	142
接続状態 .....	142
電波状態 .....	142
SSID .....	142
通信モード .....	143
■ 無線LAN有効 .....	144
■ 無線LANの初期化 .....	145

## 無線LAN設定について

### 概要

本製品を無線LANに接続して使用する場合は、 **かんたん設置ガイド**または「操作パネルから手動で無線LAN設定をする」**P.87**に記載されている操作パネルの「ネットワーク」設定メニューから無線接続ウィザードを使用する方法をおすすめします。本製品をお使いの無線LANに簡単に接続することができます。

無線LAN設定とその構成方法などについてはこの章の各項目を参照してください。

TCP/IPの設定については「ネットワークインターフェースの設定」**P.73**を参照してください。

ネットワーク設定ソフトウェアおよびドライバのインストールに関しては、「Windows®環境で使う」の「ネットワークプリンタとして使う」**P.147**または「Macintosh環境で使う」の「ネットワークプリンタとして使う」**P.165**を参照してください。

### 注意

- 本製品を無線LANアクセスポイント（または無線LAN対応のコンピュータ）の近くに設置してください。
- 本製品の近くに、微弱な電波を発する電気製品（特に電子レンジやデジタルコードレス電話）を置かないでください。
- 本製品と無線 LAN アクセスポイントの間に、金属、アルミサッシ、鉄筋コンクリート壁があると、接続しにくくなる場合があります。
- 環境によっては、有線 LAN 接続や USB 接続と比べて、通信速度が劣る場合があります。写真などの大きなデータを印刷する場合は、有線LANまたはUSB接続で印刷することをおすすめします。
- 本製品は有線 LAN と無線 LAN の両方で使用できますが、同時に使用することはできません。どちらか一方を選択する必要があります。

## 無線LANの用語

無線LANを構成するには、お使いのコンピュータを既存の無線LAN設定に合わせます。ここでは、無線LANの構成に役立つ用語と概念を説明します。

### SSID（ネットワーク名）とチャンネル

無線LANの接続先を指定するにはSSIDとチャンネルを設定する必要があります。

#### ● SSID

それぞれの無線LANでは独自のSSIDを持っています。SSIDは無線LANアクセスポイントまたはアドホックモードのネットワーク機器に割り当てられていますので、接続する予定のネットワークの無線LANアクセスポイントまたはアドホックモードのネットワーク機器と同じSSIDに設定してください。

#### ● チャンネル

無線LANではチャンネルを使用します。IEEE802.11 b では14チャンネル、IEEE802.11 g では13チャンネルまで使用できますが、近所で無線LANアクセスポイントが使用されている場合、電波干渉を生じさせないために使用するチャンネル間を5チャンネル離して設定するのが理想的です。

### 認証方式と暗号化方式について

有線LANとは異なり、通信範囲が物理的に限られていない無線LAN環境下では、セキュリティに関する設定を行い、傍受や不正アクセスを未然に防ぐ必要があります。セキュリティに関する設定には、認証方式（ネットワークにアクセスしようとしている機器にアクセス権があるかどうかを判断する方法）と暗号化方式（データを暗号化することにより第三者による傍受を防ぐ方法）の設定があります。

本製品を無線LANに確実に接続するためには、これらの設定を正しく行う必要があります。

ここでは、本製品がサポートする認証方式および暗号化方式を紹介します。

#### ● 認証方式

本製品がサポートする認証方式は次の通りです。

- オープンシステム：

認証を行わず、すべてのアクセスを許可します。

- 共有キー：

あらかじめ秘密のネットワークキーを設定しておいて、同じキーを使用している機器にのみアクセスを許可します。本製品では共有キーとしてWEPキーを使用しています。

- WPA-PSK/WPA2-PSK：

8文字から63文字のネットワークキーを使用して認証を行います。高いセキュリティを実現できます。WPA-PSK/WPA2-PSKによる認証を使用する場合には、接続する相手の機器もWPA-PSK/WPA2-PSKに対応している必要があります。

WPA2-PSKは、WPA-PSK方式よりセキュリティの高い認証方式になっています。

- LEAP：

Cisco LEAP（ライト拡張認識プロテクト）は、認証用にユーザー IDとパスワードを使用します。

- EAP-FAST：

対称鍵アルゴリズムを使用して、認証プロセスのトンネル化を実現するEAPプロトコルです。

認証用にユーザー IDとパスワードを使用します。

- EAP-FAST/NONE

CCX v3ネットワークのためのEAP-FAST認証。

- EAP-FAST/MS-CHAP v2

CCX v4ネットワークのためのEAP-FAST認証。内部認証方式としてMS-CHAP v2を使用します。

- EAP-FAST/GTC

CCX v4ネットワークのためのEAP-FAST認証。内部認証方式としてGTCを使用します。



● 暗号化方式

本製品は下記の暗号化方式をサポートしています。

- なし： 暗号化を行いません。
- WEP： Wired Equivalency Protocolの略。無線LANの暗号化技術です。  
無線LANでの通信は傍受（内容を盗み見られること）が容易なため、送信されるデータを暗号化して傍受者に内容を知られないようにすることで、有線LANでの通信と同様の安全性を持たせます。
- TKIP： Temporal Key Integrity protocolの略。暗号キーの更新も含めて、重要データの暗号化を強化します。  
無線LANのセキュリティ保護に使用される次世代のWEPで、WEPの弱点を修正しています。
- AES： Advanced Encryption Standardの略。無線LANのプライバシー保護の新しい方法です。  
米国政府の次世代標準暗号化方式で、TKIPより強力な暗号化方法を提供します。
- CKIP： Cisco Key Integrity Protocolの略。Cisco 社独自のセキュリティプロトコルです。  
キー メッセージ整合性チェックとメッセージ シーケンス番号を使用して、インフラストラクチャモードでのセキュリティを強化しています。  
CKIPはCisco版のTKIPです。

暗号化キー（ネットワークキー）

本製品で使用する暗号化方式において、設定する暗号化キーは次の通りです。

- WEP暗号化方式  
WEP暗号化キーは次の規定に従い、64bit または128bit キーに対応する値をASCII 文字か16 進数フォーマットで入力します。
  - 64 (40) bit ASCII 文字：半角5 文字で入力します。  
例) "Hello" (大文字と小文字は区別されます)
  - 64 (40) bit 16 進数：10 桁の16 進数で半角入力します。  
例) "71f2234aba"
  - 128 (104) bit ASCII 文字：半角13 文字で入力します。  
例) "Wirelesscomms" (大文字と小文字は区別されます)
  - 128 (104) bit 16 進数：26 桁の16 進数で半角入力します。  
例) "71f2234ab56cd709e5412aa3ba"
- TKIP/AES暗号化方式  
PSK（事前共有キー）をASCII文字/半角8～63文字以内で入力します。  
TKIPやAESの暗号キーは、PSK（事前共有キー）などを元に生成され、定期的に更新されます。
- CKIP暗号化方式  
LEAP認証用で使用するIDには64文字以内、パスワードには32文字以内のASCII文字を半角で入力します。  
CKIPの暗号化キーは、IDとパスワードなどを元に生成され、定期的に更新されます。
- EAP-FAST  
EAP-FAST認証用で、使用するユーザー IDには64文字以内、パスワードには32文字以内で入力します。

本書の用語について

本書では、無線LAN に関する用語は、社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）発行の「無線LAN のセキュリティに関するガイドライン（改訂版）」で推奨されている統一用語を使用しています。

主な推奨用語	各メーカーで使用されている用語
SSID	ネットワーク名、ESS-ID、ESSID
アドホックモード	ピアツーピア通信、無線LAN/パソコン通信
インフラストラクチャモード	アクセスポイント通信、アクセスポイント経由通信
キーインデックス	WEPキー番号、キー番号
共有キー認証	シェアードキー認証
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LAN アクセスポイント	無線LANルータ、ワイヤレス・ブロードバンドルータ
無線LAN端末	無線LAN子機、ワイヤレスステーション



## 無線LAN設定の流れ

### インフラストラクチャモードの場合

#### 1 ネットワーク環境を確認します。P.84

インフラストラクチャモード  
無線LANアクセスポイントとコンピュータが接続されている

または

アドホックモード P.83  
無線LANアクセスポイントなしで無線通信可能なコンピュータが接続されている



#### 2 無線 LAN の設定方法を確認します。P.85

操作パネルから無線  
接続ウィザードを使用（推奨）

無線LANアクセスポ  
イントの簡単設定を  
使用

WPS※<sup>1</sup>のPIN方式を  
使用  
（※1 Wi-Fi Protected  
Setup）

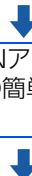


ブラザーインストーラ  
を使用



一時的にLANケーブ  
ルを使用

無線LANアクセスポ  
イントの簡単設定を  
使用



#### 3 本製品の無線 LAN 設定をします。

本製品の無線LANを設定する

P.87


P.91

P.93

Windows® P.96  
Macintosh P.116

Windows® P.103  
Macintosh P.122



ドライバおよびソフトウェアをインストールする（ かんたん設置ガイド参照）



OK! 無線 LAN 設定とドライバおよびソフトウェアのインストールが完了です。

## アドホックモードの場合

### 1 ネットワーク環境を確認します。P.84

#### アドホックモード

無線LANアクセスポイントなしで無線通信可能なコンピュータが接続されている

または

#### インフラストラクチャモード P.82

無線LANアクセスポイントとコンピュータが接続されている

### 2 無線 LAN の設定方法を確認します。P.85

操作パネルから無線接続ウィザードを使用（推奨）



ブラザーインストーラを使用

### 3 本製品の無線 LAN 設定をします。

#### 本製品の無線LANを設定する

P.87

Windows® P.107  
Macintosh P.125

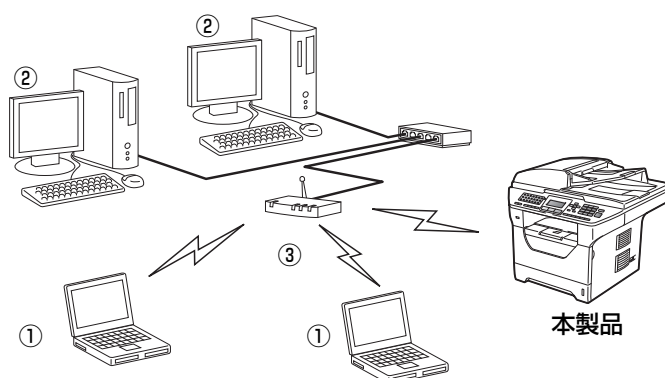
ドライバおよびソフトウェアをインストールする（ かんたん設置ガイド参照）

**OK!** 無線 LAN 設定とドライバおよびソフトウェアのインストールが完了です。

## ネットワーク環境を確認する

### ネットワーク上の無線LANアクセスポイントとコンピュータが接続されている場合 (インフラストラクチャモード)

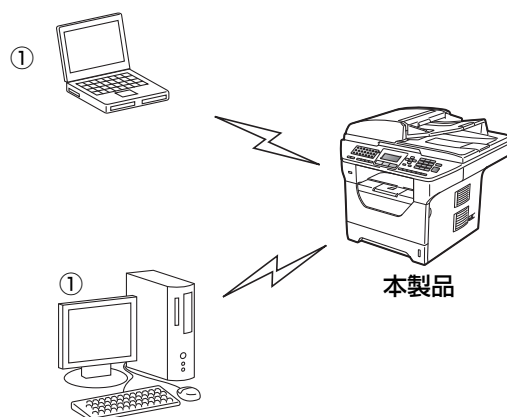
インフラストラクチャモードは、各無線LAN端末が無線LANアクセスポイントを経由することによって、データ通信を行う通信方法です。無線LANアクセスポイントは、有線ネットワークにも機能します。本製品をインフラストラクチャモードに設定している場合は、印刷データを送信する全ての印刷ジョブを、無線LANアクセスポイントを経由してから受け取ります。



- ①無線LANで無線LANアクセスポイントに接続されているコンピュータ
- ②有線LANで無線LANアクセスポイントに接続されているコンピュータ
- ③無線LANアクセスポイント

### ネットワーク上に無線LANアクセスポイントがなく、無線通信可能なコンピュータが接続されている場合 (アドホックモード)

アドホックモードのネットワーク（ピアツーピアネットワークともいいます）では、無線LANアクセスポイントが存在しません。それぞれの無線LAN機器は個別に直接通信します。本製品をアドホックモードに設定している場合は、印刷データを送信するコンピュータからすべての印刷ジョブを直接受け取ります。



- ①無線LAN対応コンピュータ

## 無線LAN設定の方法を確認する

本製品の無線LAN設定をする場合は、次の4つの方法があります。

- 本製品の操作パネルから手動で無線LAN設定をする（推奨）
- 無線LANアクセスポイントの簡単設定（AOSS™、WPS※<sup>1</sup>のPBC※<sup>2</sup>方式）、SecureEasySetup™）を使用する
- WPS※<sup>1</sup>のPIN※<sup>3</sup>方式を使用する
- 本製品に付属のCD-ROM内のプラザーインストーラを使用する

※1 Wi-Fi Protected Setup

※2 Push Button Configuration

※3 Personal Identification Number（個人暗証番号）

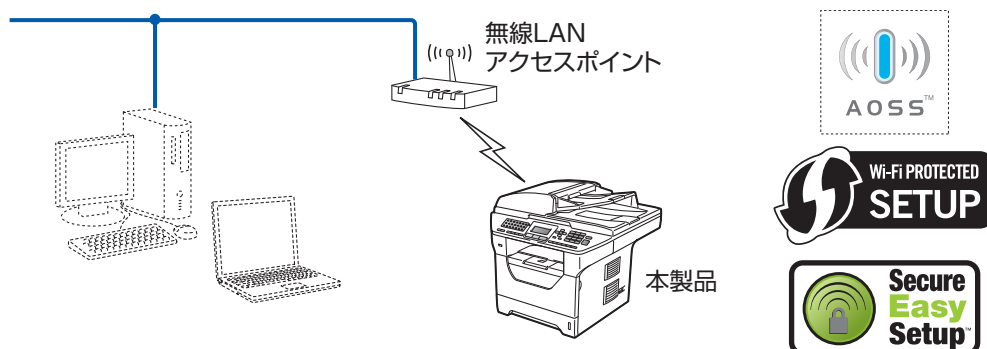
設定手順はご使用のネットワーク環境によって異なります。

### 操作パネルから手動で無線LAN設定をする

本製品の無線LAN設定をする場合は、操作パネルから無線接続ウィザードを使用することをおすすめします。インストールを始める前にお使いの無線LAN環境を確認してください。「操作パネルから手動で無線LAN設定をする」**P.87**を参照してください。

### 操作パネルと無線LANアクセスポイントの簡単設定を使用する（インフラストラクチャモードのみ）

本製品を接続する無線LANアクセスポイントがAOSS™、WPS（PBC※<sup>1</sup>方式）、SecureEasySetup™のいずれかに対応している場合は、操作パネルから無線LANアクセスポイントの簡単設定を使用して、自動で本製品の無線LAN設定ができます。

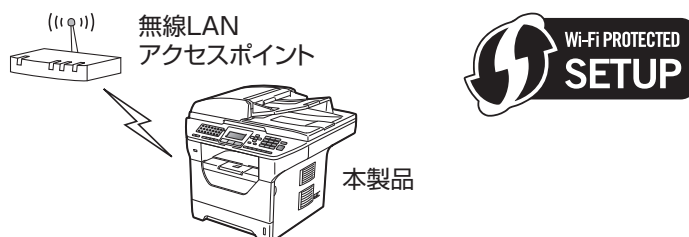


※1 Push Button Configuration

### WPS (Wi-Fi Protected Setup) のPIN方式を使用する（インフラストラクチャモードのみ）

本製品を接続する無線LANアクセスポイントがWPSに対応している場合は、WPSのPIN※<sup>1</sup>方式を使用して本製品の無線LAN設定をすることもできます。

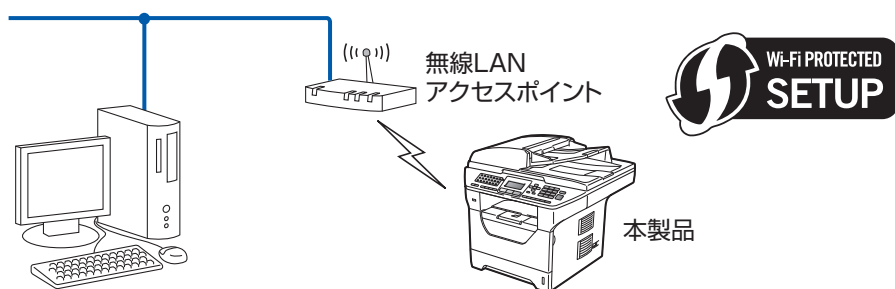
#### ● 無線LANアクセスポイントをレジストラ※<sup>2</sup>として使用する場合の接続



※1 Personal Identification Number（個人暗証番号）

※2 レジストラとは無線LANの登録管理機器です。

## ● コンピュータからなど別の機器をレジストラ<sup>※1</sup>として使用する場合の接続



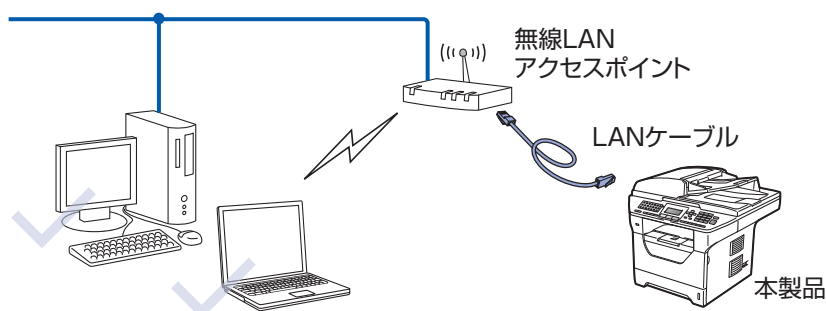
※1 レジストラとは無線LANの登録管理機器です。

## ブラザーインストーラを使用する

付属のCD-ROM内のブラザーインストーラを使用して、本製品の無線LAN設定をすることもできます。このインストーラを使用すると、画面の指示に従って操作するだけで本製品を無線LANに簡単に接続します。インストールを始める前にお使いの無線LAN環境を確認してください。

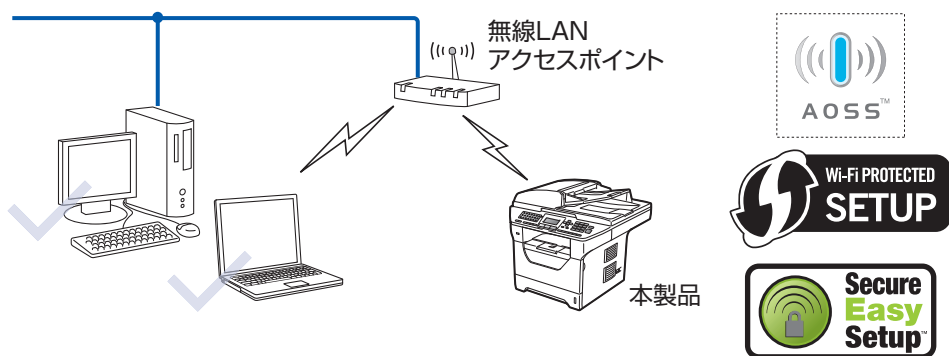
## ● LAN ケーブルを使用して手動で無線 LAN 設定をする（インフラストラクチャモードのみ）

無線LANアクセスポイントと本製品を一時的にLANケーブルを使用して接続し、本製品の無線LAN設定をします。無線LANアクセスポイントと同じネットワーク上のコンピュータから本製品を遠隔設定することができます。



## ● 無線 LAN アクセスポイントの簡単設定を使用して自動で無線 LAN 設定をする（インフラストラクチャモードのみ）

本製品に接続する無線LANアクセスポイントがAOSS<sup>TM</sup>、WPS（PBC<sup>※1</sup>方式）、SecureEasySetup<sup>TM</sup>のいずれかに対応している場合に、無線LANアクセスポイントの簡単設定を使用して、本製品の無線LAN設定をします。



※1 Push Button Configuration

## ● 手動で無線 LAN 設定をする（アドホックモードのみ）

本製品に接続する無線LAN対応コンピュータのみを使用して、本製品の無線LAN設定をします。



## 操作パネルから手動で無線LAN設定をする

本製品の操作パネルからウィザード形式で、SSID、認証方式、暗号化方式、ネットワークキーを設定します。手動で設定するには、お使いの無線ネットワークの情報が必要です。まず、無線LAN アクセスポイント（ルータなど）の設定内容を確認し、記入してください。

### 注意

- 本製品を無線 LAN に接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、無線 LAN の設定を確認してください。
- 本製品の無線 LAN 設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59 を参照してください。

### 補足

操作パネルの文字の入力方法については、「操作パネル」P.133 を参照してください。

#### SSID（ネットワーク名）

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー（ネットワークキー）※4
インフラストラクチャ	オープンシステム認証	WEP※2	
		なし	—
	共有キー認証	WEP※2	
		AES	
		TKIP※3	
	LEAP	CKIP	
アドホック	EAP-FAST/NONE EAP-FAST/MS-CHAPv2 EAP-FAST/GTC	AES	
		TKIP	
		なし	—

- ※1 WPA/WPA2-PSK は、Wi-Fi が提唱する事前共有キーを使用した認証方式です。TKIP や AES の暗号キーを使用し、本製品をアクセスポイントに接続します。  
WPA2-PSK(AES)と WPA-PSK(TKIP/AES)は、半角8～63文字以内のネットワークキーを使用して認証を行います。
- ※2 WEP 暗号化キーは次の規定に従い、64bit または 128bit キーに対応する値を ASCII 文字か 16 進数フォーマットで入力します。
- 64 (40) bit ASCII 文字：半角5文字で入力します。  
例) "Hello" (大文字と小文字は区別されます)
  - 64 (40) bit 16進数：10 桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234aba"
  - 128 (104) bit ASCII文字：半角13文字で入力します。  
例) "Wirelesscomms" (大文字と小文字は区別されます)
  - 128 (104) bit 16進数：26桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234ab56cd709e5412aa3ba"
- ※3 WPA-PSKのみ対応しています。
- ※4 LEAPとEAP-FASTに関しては、ユーザー IDとパスワードを記入してください。

例:

SSID (ネットワーク名)
HELLO

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー (ネットワークキー)
インフラストラクチャ	WPA2-PSK	AES	12345678

1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

2

メニュー、7 PQRS、2 ABC、2 ABC の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN 無線LAN有効 ?
▲ オン *
▼ オフ
▲▼で選択&OKボタン

3

▲ または ▼ で「オン」を選択し、OK を押す

無線 LAN の設定ウィザードが起動し、本製品から接続できる無線ネットワークが自動的に検索されます。

72. 無線LAN 2. 無線接続ウィザード
SSID検索中

4

▲ または ▼ で接続先の SSID を選択し、OK を押す

72. 無線LAN SSID
▲ XXXXX
▼ XXXXX
▲▼で選択&OKボタン

## 補足

接続先のSSID が表示されない場合は、以下の手順で設定してください。

- (1) ▲ または ▼ で<New SSID> を選択し、OK を押す
- (2) ダイヤルボタンで接続先のSSID を入力し、OK を押す
- (3) ▲ または ▼ で通信モードを選択し、OK を押す

「インフラストラクチャ」または「アドホック」のいずれかを選択します。







※ 「アドホック」を選択した場合は、手順7に進みます。

## 5












### 認証方式と暗号化方式を設定する

接続情報については、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。









#### オープンシステム認証で暗号化なしの場合

- (1)  または  で [オープンシステム認証] を選択し、 を押す
- (2)  または  で [なし] を選択し、 を押す








#### オープンシステム認証で暗号化方式がWEPの場合

- (1)  または  で [オープンシステム認証] を選択し、 を押す
- (2)  または  で [WEP] を選択し、 を押す
- (3)  または  で使用する WEP キーを選択し、 を押す  
キーが [\*\*\*\*\*] と表示されている場合は、[1. 変更 2. 変更しない] と表示されるので、  
 を押してください。
- (4) WEP キーを入力し、 を押す









#### 共有キー認証で暗号化方式がWEPの場合

- (1)  または  で [共有キー認証] を選択し、 を押す
- (2)  または  で使用する WEP キーを選択し、 を押す  
キーが [\*\*\*\*\*] と表示されている場合は、[1. 変更 2. 変更しない] と表示されるので、  
 を押してください。
- (3) WEP を入力し、 を押す






#### WPA/WPA2-PSKで暗号化方式がTKIPまたはAESの場合

- (1)  または  で [WPA/WPA2-PSK] を選択し、 を押す
- (2)  または  で [TKIP] または [AES] を選択し、 を押す
- (3) ネットワークキーキーを入力し、 を押す

#### EAP-FASTで暗号化方式がTKIPまたはAESの場合

- (1)  または  で [EAP-FAST/NONE]、[EAP-FAST/MSCHAP] または [EAP-FAST/GTC] を選択し、  
 を押す
- (2)  または  で [TKIP] または [AES] を選択し、 を押す
- (3) ユーザー ID を入力し、 を押す
- (4) パスワードを入力し、 を押す

#### LEAPで暗号化方式がCKIPの場合

- (1)  または  で [LEAP] を選択し、 を押す
- (2) ユーザー ID を入力し、 を押す
- (3) パスワードを入力し、 を押す



6

1

を押す

- 2 を押すとSSIDの選択に戻ります。手順5からやり直してください。
- 本製品と接続先の機器（無線 LAN アクセスポイントなど）が無線で接続されます。  
正常に接続されると、液晶ディスプレイに「接続しました」と表示されます。

補足

- 接続できなかった場合は、ネットワーク設定をリセットし **P.59**、手順2からやり直してください。
- アクセスポイントに DHCP 機能がない場合、製品の IP アドレス、サブネットマスクなど、手動で設定してください。

72. 無線LAN  
設定を適用しますか?

▲ 1. はい


▼ 2. いいえ

▲▼で選択&OKボタン

OK!

無線 LAN 設定は完了しました。

続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。

詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

本書の使い方  
目次

ネットワークで  
使う前に

ネットワークの設定

無線LANの設定

Windows®環境で  
使う

Macintosh®環境で  
使う

セキュリティ機能

困ったときは  
(トラブル対処方法)

付録

90

## 操作パネルと無線LANアクセスポイントの簡単設定を使用する

無線LANアクセスポイントがAOSS™、WPS (Wi-Fi Protected Setup) (PBC※<sup>1</sup> 方式)、SecureEasySetup™のいずれかに対応している場合は、コンピュータを使用しないで、簡単に本製品の無線LAN設定ができます。

操作パネルの「SES/WPS/AOSS」設定メニューから設定し、無線LANアクセスポイントが簡単設定方式のどのモード(AOSS™、WPSまたはSecureEasySetup™)を使用しているかを自動検出します。

無線LANアクセスポイントと本製品のボタンを押すと、無線LAN設定およびセキュリティ設定が行われます。無線LANアクセスポイントの簡単設定の操作手順については、無線LANアクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

※1 Push Button Configuration

### 補足

AOSS™、WPSまたはSecureEasySetup™に対応している無線LANアクセスポイントには、次のマークが示されています。



### 注意

■本製品を無線LANに接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、無線LANの設定を確認してください。

■本製品の無線LAN設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59を参照してください。

## 1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチをONにする

## 2

メニュー、7 PORS、2 ABC、3 DEFの順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN 無線LAN有効 ?	
▲	オン *
▼	オフ
▲▼で選択&OKボタン	

## 3

▲ または ▼ で「オン」を選択し、OKを押す

72. 無線LAN 3. SES/WPS/AOSS	
無線接続中	

### 補足

一度設定に失敗しネットワーク設定をリセットせずにやり直している場合など、無線LAN有効が「オン」になっている場合は、このメッセージは表示されません。手順4へ進んでください。

## 4

AOSS™、WPS または SecureEasySetup™ に対応している無線LANアクセスポイントの自動検出を行う

検出は2分間継続して行われます。検出時間内に手順5を実施してください。

5

**無線 LAN アクセスポイントの SES、WPS または AOSS™ ボタンを数秒間押す**

詳しい設定方法は、お使いの 無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

6

**「接続しました」と表示されるまで待つ**

無線 LAN アクセスポイントとの接続に成功すると、「接続しました」と表示されます。

これで本製品を無線 LAN で使用できます。

- 「接続エラー」と表示された場合は、対応するモードが実行中の無線 LAN アクセスポイントを 2 つ以上検出しています。AOSS™、WPS または SecureEasySetup™ の無線 LAN アクセスポイントを 1 つにして、手順 2 からやり直してください。
- 「AP が見つかりません」と表示された場合は、本製品は無線 LAN アクセスポイントに正常に接続されていません。本製品を無線 LAN アクセスポイントの近くに動かして、手順 3 からやり直してください。
- 「接続に失敗しました」と表示された場合は、本製品は無線 LAN アクセスポイントに正常に接続されていません。手順 2 からやり直してください。
- 「無線接続中」と表示された後「接続に失敗しました」と表示された場合は、本製品は無線 LAN アクセスポイントに正常に接続されていません。手順 2 からやり直してください。やり直しても同じメッセージが表示される場合は、ネットワーク設定をリセットして **P.59**、手順 2 からやり直してください。


**● 操作パネルの「SES/WPS/AOSS」メニューで表示されるメッセージ**

メッセージ	状態	解決方法
無線接続中	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線 LAN アクセスポイントを検索中</li> <li>無線 LAN アクセスポイントにアクセス中</li> <li>無線 LAN アクセスポイントから設定をダウンロード中</li> </ul>	—
AOSS 接続中 WPS 接続中 SES 接続中	無線 LAN アクセスポイントに接続中	—
接続しました	接続成功	—
接続エラー	無線 LAN アクセスポイントを複数検出	AOSS™、WPS または SecureEasySetup™ の無線 LAN アクセスポイントを 1 つにして、手順 2 からやり直す
AP が見つかりません	接続可能な無線 LAN アクセスポイントが見つからなかった場合	本製品を無線 LAN アクセスポイントの近くに動かして、手順 2 からやり直す
接続に失敗しました	接続失敗	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順 2 からやり直す</li> <li>やり直しても同じメッセージが表示される場合は、ネットワーク設定をリセットして <b>P.59</b>、手順 2 からやり直す</li> </ul>

OK!

**無線 LAN 設定は完了しました。**

続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。

詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

## WPS (Wi-Fi Protected Setup) のPIN方式を使用する

無線LANアクセスポイントがWPS (Wi-Fi Protected Setup) (PIN※<sup>1</sup>方式) に対応している場合は、PIN方式を利用して簡単に本製品の無線LAN設定ができます。PIN (個人暗証番号) 方式とは、Wi-Fi アライアンスが開発した接続方法のひとつです。登録者 (本製品) が作成するPINをレジストラ (無線LANの登録管理機器) に入力すれば、無線LAN設定およびセキュリティ設定が行われます。

無線LANアクセスポイントのWPSの操作手順については、無線LANアクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

※1 Personal Identification Number (個人暗証番号)

### 補足

WPSに対応している無線LANアクセスポイントには、次のマークが示されています。



### 注意

■本製品を無線LANに接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、無線LANの設定を確認してください。

■本製品の無線LAN設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59を参照してください。

# 1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチをONにする

# 2

メニュー、7 PQRS、2 ABC、4 GHI の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN  
4. WPS (PIN方式)

WPS接続中

# 3

▲ または ▼ で「オン」を選択し、OKを押す

72. 無線LAN  
無線LAN有効 ?

▲ オン \*

▼ オフ

▲▼で選択&OKボタン

### 補足

一度設定に失敗しネットワーク設定をリセットせずにやり直している場合など、無線LAN有効が「オン」になっている場合は、このメッセージは表示されません。手順4へ進んでください。

# 4

本製品がWPSのPIN方式に切り替わり、8桁のPIN (個人暗証番号) が表示され、WPS (PIN方式) に対応している無線LANアクセスポイントの自動検出を行う

検出は5分間継続して行われます。検出時間内に手順5を実施してください。

72. 無線LAN  
4. WPS (PIN方式)

パスワード: XXXXXXXX

WPS接続中

5

**無線 LAN アクセスポイントと同じネットワーク上にあるコンピュータからウェブブラウザを起動する****ウェブブラウザの入力欄に http://XXXXX を入力する**XXXXX は、レジストラ※<sup>1</sup>として使用される機器の IP アドレスです。

※1 通常は無線LANアクセスポイントがレジストラです。

6

**WPS 設定ページへ進み、手順 4 で表示された 8 桁の PIN（個人暗証番号）をレジストラに入力し、画面上の指示に従って操作する****補足**

- WPS 設定ページは、無線 LAN アクセスポイントのメーカーによって異なります。詳しくは、無線 LAN アクセスポイントに付属の取扱説明書を参照してください。
  - Windows Vista® のコンピュータをレジストラとして使用する場合は、あらかじめネットワークに登録しておく必要があります。詳しくは、無線 LAN アクセスポイントに付属の取扱説明書を参照してください。
- (1) [スタート] - [ネットワーク] の順にクリックします。
  - (2) [無線デバイスを追加します] をクリックします。
  - (3) 本製品を選択し、[次へ] をクリックします。
  - (4) 手順3で表示されたPINを入力し、[次へ] をクリックします。
  - (5) 接続するネットワークを選択し、[次へ] をクリックします。
  - (6) [閉じる] をクリックします。

7

**「接続しました」と表示されるまで待つ**

無線 LAN アクセスポイントとの接続に成功すると、「接続しました」と表示されます。


これで本製品を無線 LAN で使用できます。

- 「接続 失敗」または「APが見つかりません」と表示された場合は、本製品は無線LANアクセスポイントに正常に接続されていません。手順2からやり直してください。やり直しても同じメッセージが表示される場合は、本製品のネットワーク設定をリセット **P.59** し、手順2からやり直してください。

OK!

**無線 LAN 設定は完了しました。**

続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。


詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

## ブザーインストーラを使用する (Windows®)

本製品に付属のCD-ROM内に収録されているブザーインストーラを使用して、ネットワーク環境に本製品を接続することができます。

手動で設定するには、お使いの無線ネットワークの情報がが必要です。まず、無線LAN アクセスポイント（ルータなど）の設定内容を確認し、記入してください。

### 補足

操作パネルから無線LAN設定をする（推奨）場合は、「操作パネルから手動で無線LAN設定をする」**P.87** または  かんたん設置ガイドを参照してください。

### 注意

本製品を無線LANに接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、無線LANの設定を確認してください。

#### SSID（ネットワーク名）

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー（ネットワークキー）※4
インフラストラクチャ	オープンシステム認証	WEP※2	
		なし	—
	共有キー認証	WEP※2	
		AES	
	WPA/WPA2-PSK※1	TKIP※3	
		CKIP	
アドホック	オープンシステム認証	AES	
		TKIP	
		WEP※2	
		なし	—

※1 WPA/WPA2-PSKは、Wi-Fiが提唱する事前共有キーを使用した認証方式です。TKIPやAESの暗号キーを使用し、本製品をアクセスポイントに接続します。

WPA2-PSK(AES)と WPA-PSK(TKIP/AES)は、半角8～63文字以内のネットワークキーを使用して認証を行います。

※2 WEP暗号化キーは次の規定に従い、64bitまたは128bitキーに対応する値をASCII文字か16進数フォーマットで入力します。

- 64 (40) bit ASCII文字：半角5文字で入力します。  
例) "Hello" (大文字と小文字は区別されます)
- 64 (40) bit 16進数：10桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234aba"
- 128 (104) bit ASCII文字：半角13文字で入力します。  
例) "Wirelesscomms" (大文字と小文字は区別されます)
- 128 (104) bit 16進数：26桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234ab56cd709e5412aa3ba"

※3 WPA-PSKのみ対応しています。

※4 LEAPとEAP-FASTに関しては、ユーザーIDとパスワードを記入してください。

例:

SSID (ネットワーク名)
HELLO

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー (ネットワークキー)
インフラストラクチャ	WPA2-PSK	AES	12345678

## インフラストラクチャモードでの無線LAN設定

### LANケーブルを使用して手動で無線LAN設定をする

#### 注意

- 本製品の無線 LAN 設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59 を参照してください。
- パーソナルファイアウォール (Windows®ファイアウォールなど) を有効にしている場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。無線LANの設定が完了した後で、パーソナルファイアウォールを有効にしてください。
- 設定にはLANケーブルが必要です。
- 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

#### 1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

#### 2

コンピュータの電源を入れる

管理者権限をもつユーザでログオンします。

#### 3

本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

トップメニューが表示されます。

#### 補足

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ (コンピュータ)」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

#### 4

「インストール」をクリックする





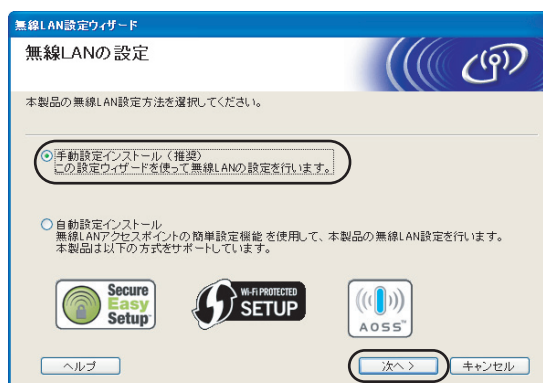
5

【無線 LAN 設定ウィザード】をクリックする



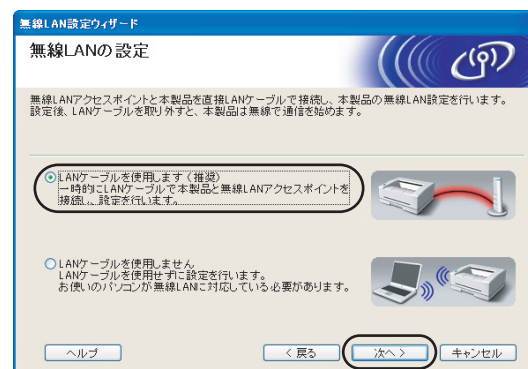
6

【手動設定インストール (推奨)】を選択し、【次へ】をクリックする



7

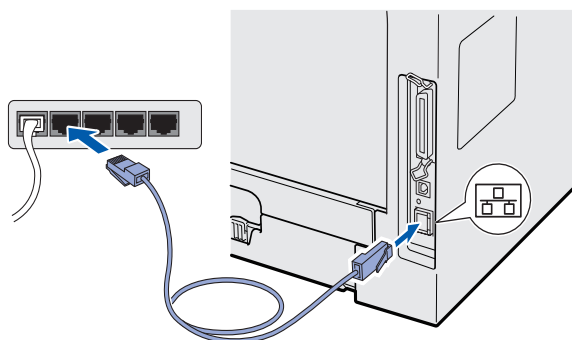
【LAN ケーブルを使用します (推奨)】を選択し、【次へ】をクリックする





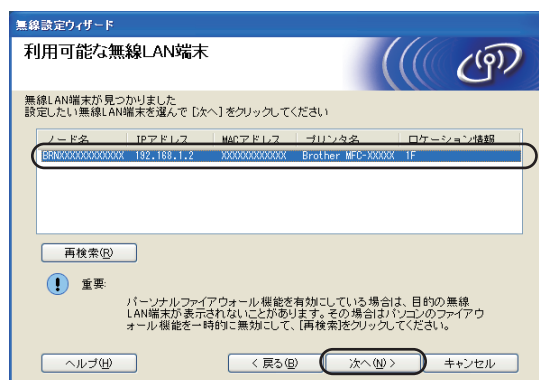
## 8

LAN ケーブルで本製品を無線 LAN アクセスポイントに接続し、[次へ] をクリックする



## 9

無線 LAN 端末が複数ある場合は、一覧から本製品を選択し、[次へ] をクリックする

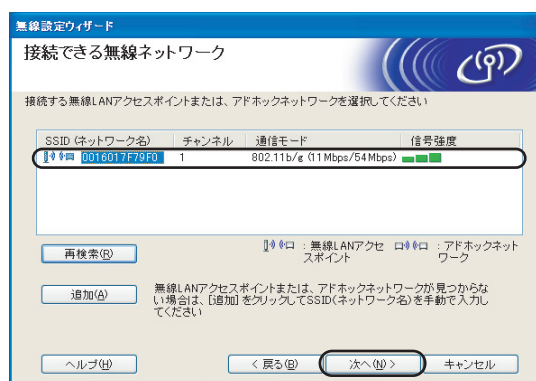


### 補足

- お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxx”です。
- 一覧が空白の場合は、無線 LAN アクセスポイントおよび本製品の電源スイッチが ON になっていることを確認し、[再検索] をクリックします。
- ネットワーク設定リストを印刷して本製品の IP アドレスとノード名を確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。

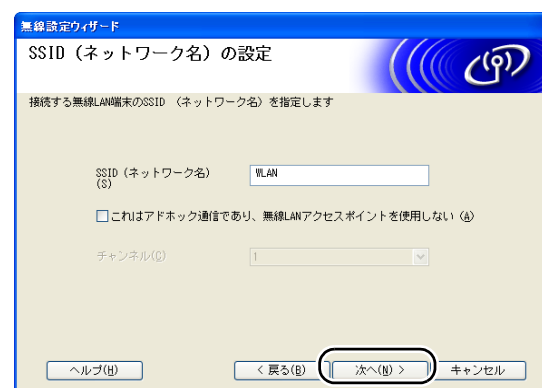
## 10

無線 LAN アクセスポイントが複数ある場合は、一覧から本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントを選択し、[次へ] をクリックする



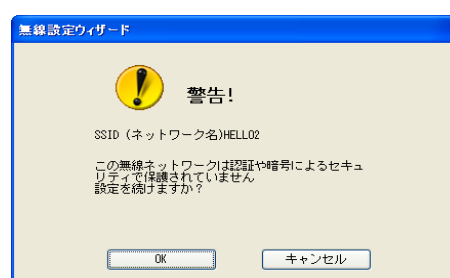
## 補足

- 一覧が空白の場合は、無線 LAN アクセスポイントの電源スイッチが ON になっていること、SSID が割り当てられていることを確認します。さらに本製品と無線 LAN アクセスポイントが無線通信の範囲内に設置されていることを確認し、[再検索] をクリックします。
- SSIDを出力しないように無線LANアクセスポイントが設定されている場合は、無線LANアクセスポイントのSSIDが表示されません。その場合は、[追加] をクリックすると、手動で追加できます。画面上の指示に従って「SSID(ネットワーク名)」を入力し、[次へ] をクリックします。



## 注意

無線 LAN が認証や暗号化によってセキュリティで保護されていない場合は、右の画面が表示されます。[キャンセル] をクリックしてインストールを中止し、無線 LAN アクセスポイントのセキュリティを設定することをおすすめします。セキュリティを設定しないで使用した場合、通信内容を盗み見られたり、ネットワークに不正に侵入される恐れがあります。無線LANアクセスポイントのセキュリティ設定後に、再度インストールを進めてください。



## 11

本製品が接続する無線 LAN アクセスポイントに設定している認証方式、暗号化方式、ネットワークキーなどを設定し、[次へ] をクリックする

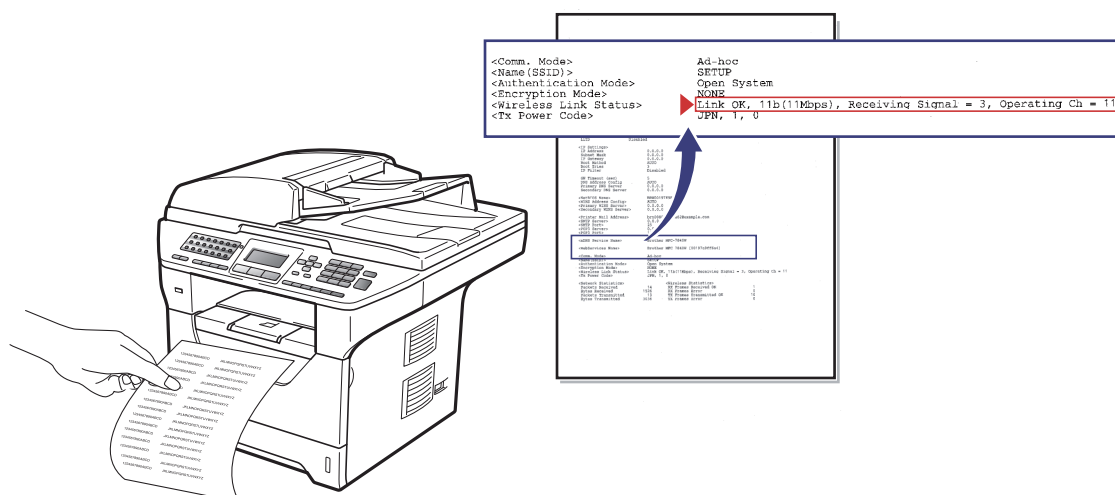
## 補足

- 複数のキーインデックスを設定したいときは、[詳細] をクリックします。
- ネットワークの認証または暗号化設定が分からないときは、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
- WEPキーを設定するときは、手順12のLAN設定内容リストで「Wireless Link Status」が「Link OK」と印刷されていてもネットワークがつかない場合、WEPキーを再度確認してください。WEPキーの大文字と小文字も確認してください。

## 12

設定を確認し、[次へ] をクリックする

本製品に無線 LAN 設定の内容が送信されます。  
[キャンセル] をクリックすると、設定は無効になります。



## 補足

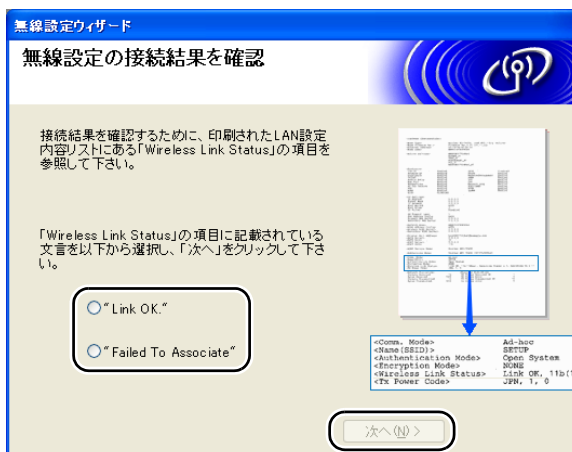
- 本製品のIPアドレスを変更する場合は、[IPアドレスの変更] をクリックして手動で設定してください。
- 本製品に無線 LAN 設定の内容が送信されると、自動的にネットワークインターフェースが無線 LAN に変わります。

## 13

## 設定を確認し、[次へ] をクリックする

LAN 設定内容リストで接続結果が印刷されます。

- 「Link OK」の場合は、手順15に進みます。
- 「Failed To Associate」の場合は、手順14に進みます。



## 14

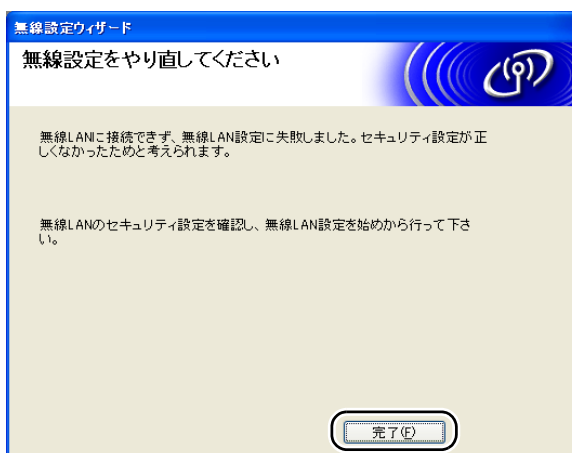
## [完了] をクリックする

無線 LAN 設定に失敗しました。

本製品の無線 LAN 設定を初期化して、再度設定してください。

詳細については、**P.145**「無線 LAN の初期化」を参照してください。

設定を確認後、手順 5 に進みます。



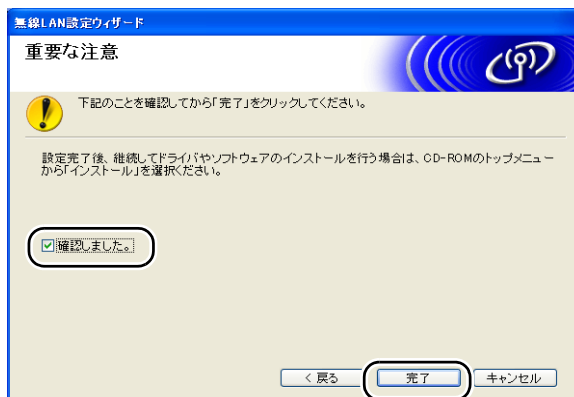
## 15

## 無線 LAN アクセスポイントと本製品から接続している LAN ケーブルを外し、[次へ] をクリックする



## 16

【確認しました】をチェックして、【完了】をクリックする



## 補足

無線LAN設定に失敗した場合は、ネットワーク設定をリセット **P.59** し、再度設定してください。

OK!

無線 LAN 設定は完了しました。

続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。

詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

## 無線LANアクセスポイントの簡単設定を使用して自動で無線LAN設定をする

**注意**

■ 本製品の無線 LAN 設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59 を参照してください。

■ 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

**1**

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

**2**

メニュー、7 PQRS、2 ABC、7 PQRS の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN  
7. 無線LAN有効  
▲ オン  
▼ オフ  
▲▼で選択&OKボタン

**3**

▲ または ▼ を押して「オン」を選択し、OK を押す  
お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

**4**

Ⓢ 停止/終了  
を押す

**5**

コンピュータの電源を入れる  
管理者権限をもつユーザでログオンします。

**6**

本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする  
トップメニューが表示されます。

**補足**

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ（コンピュータ）」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

**7**

【インストール】をクリックする



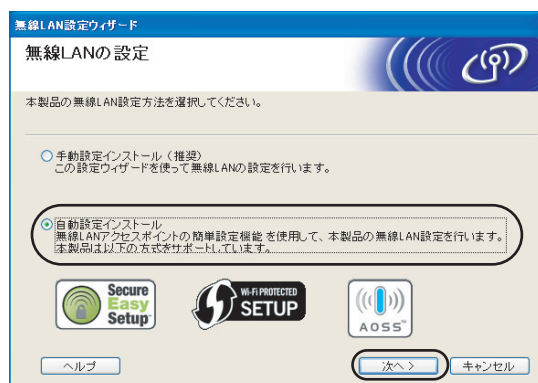
8

【無線 LAN 設定ウィザード】をクリックする



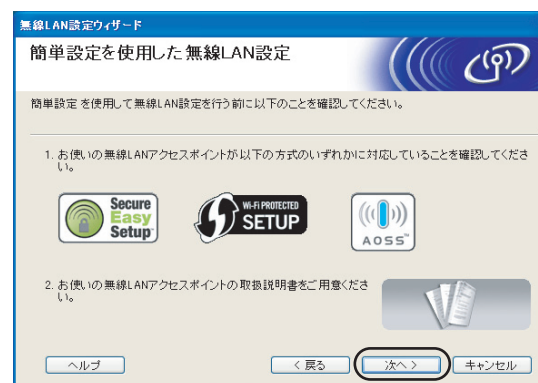
9

【自動設定インストール】を選択し、【次へ】をクリックする



10

画面の内容を確認し、【次へ】をクリックする

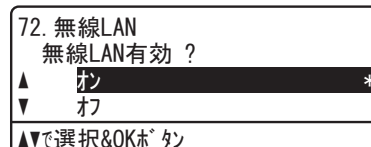


11

メニュー、7 PORS、2 ABC、3 DEF の順に押す  
 ▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

12

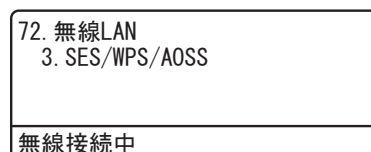
▲ または ▼ を押して「オン」を選択し、  
 OK を押す



13

AOSS™、WPS または SecureEasySetup™  
 に対応している無線 LAN アクセスポイントの  
 自動検出を行う

検出は2分間継続して行われます。検出時間内に手順  
 13を実施してください。





## 14

## 無線 LAN アクセスポイントの SES、WPS または AOSS™ ボタンを数秒間押す

詳しい設定方法は、お使いの 無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

## 15

## 「接続しました」と表示されるまで待つ

無線 LAN アクセスポイントとの接続に成功すると、「接続しました」と表示されます。

これで本製品を無線 LAN で使用できます。

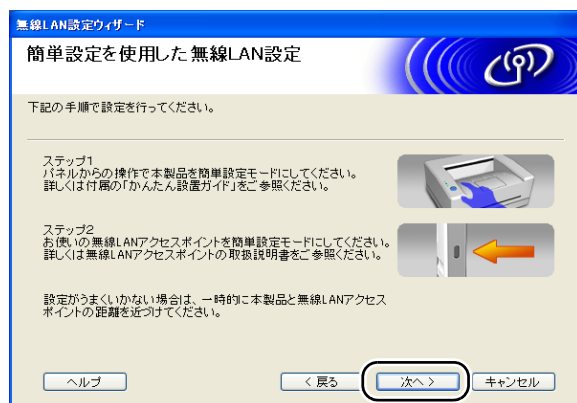
- 「接続エラー」と表示された場合は、対応するモードが実行中の無線 LAN アクセスポイントを 2 つ以上検出しています。AOSS™、WPS または SecureEasySetup™ の無線 LAN アクセスポイントを 1 つにして、手順 11 からやり直してください。
- 「APが見つかりません」と表示された場合は、本製品は無線 LAN アクセスポイントに正常に接続されていません。本製品を無線 LAN アクセスポイントの近くに動かして、手順 3 からやり直してください。
- 「接続に失敗しました」と表示された場合は、本製品は無線 LAN アクセスポイントに正常に接続されていません。手順 11 からやり直してください。やり直しても同じメッセージが表示される場合は、ネットワーク設定をリセットして **P.59**、手順 11 からやり直してください。
- 「無線接続中」と表示された後「接続に失敗しました」と表示された場合は、本製品は無線 LAN アクセスポイントに正常に接続されていません。手順 11 からやり直してください。

## ● 操作パネルの「SES/WPS/AOSS」メニューで表示されるメッセージ

メッセージ	状態	解決方法
無線接続中	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線 LAN アクセスポイントを検索中</li> <li>無線 LAN アクセスポイントにアクセス中</li> <li>無線 LAN アクセスポイントから設定をダウンロード中</li> </ul>	—
AOSS接続中 WPS接続中 SES接続中	無線 LAN アクセスポイントに接続中	—
接続しました	接続成功	—
接続エラー	無線 LAN アクセスポイントを複数検出	AOSS™、WPS または SecureEasySetup™ の無線 LAN アクセスポイントを 1 つにして、手順 11 からやり直す
APが見つかりません	接続可能な無線 LAN アクセスポイントが見つからなかった場合	本製品を無線 LAN アクセスポイントの近くに動かして、手順 11 からやり直す
接続に失敗しました	接続失敗	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順 11 からやり直す</li> <li>やり直しても同じメッセージが表示される場合は、ネットワーク設定をリセットして <b>P.59</b>、手順 2 からやり直す</li> </ul>

## 16

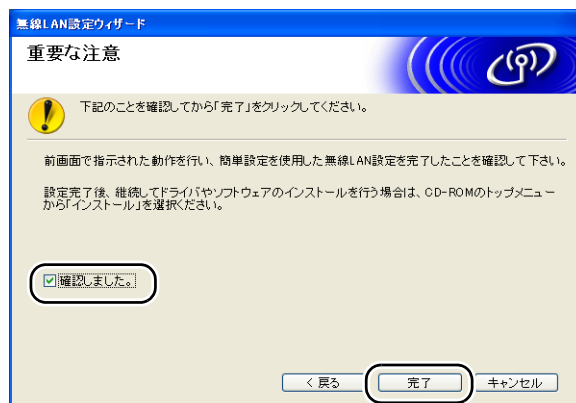
## [次へ] をクリックする





## 17

【確認しました】をチェックして、【完了】をクリックする



## 補足

無線LAN設定に失敗した場合は、ネットワーク設定をリセット **P.59** し、再度設定してください。

OK! 無線 LAN 設定は完了しました。

続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。  
詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

## アドホックモードでの無線LAN設定

### 手動で無線LAN設定をする

#### 注意

- 本製品の無線 LAN 設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59 を参照してください。
- パーソナルファイアウォール（Windows®ファイアウォールなど）を有効にしている場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。無線LANの設定が完了した後で、パーソナルファイアウォールを有効にしてください。
- 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

2

メニュー、7 PQRS、2 ABC、7 PQRS の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN  
7. 無線LAN有効  
▲ オン  
▼ オフ  
▲▼で選択&OKボタン

3

▲ または ▼ を押して「オン」を選択し、OK を押す

お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

4

停止/終了  
を押す

5

コンピュータの電源を入れる

管理者権限をもつユーザでログオンします。

6

本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

トップメニューが表示されます。

#### 補足

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ（コンピュータ）」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

# 7

【インストール】をクリックする



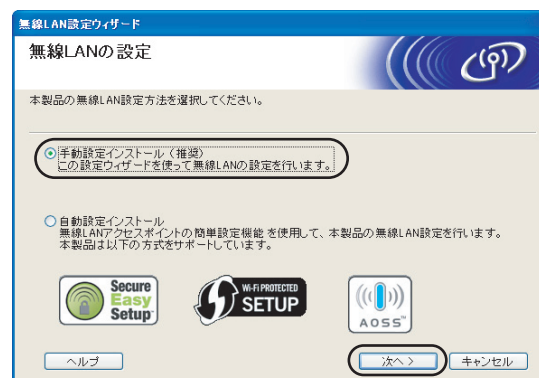
# 8

【無線LAN 設定ウィザード】をクリックする



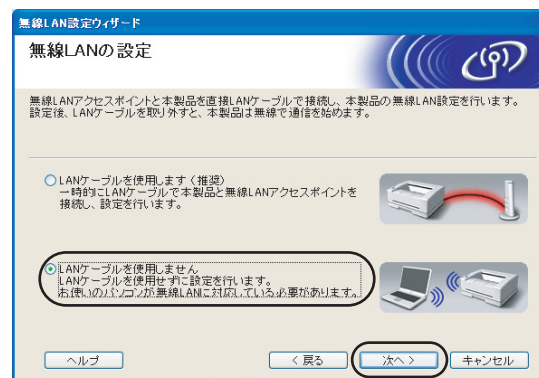
# 9

【手動設定インストール (推奨)】を選択し、  
【次へ】をクリックする



# 10

【LAN ケーブルを使用しません】を選択し、  
【次へ】をクリックする

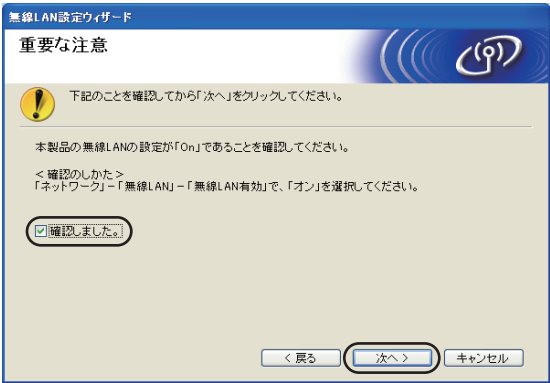


11

「重要な注意」の内容をお読みになり、[確認しました。] をチェックして、[次へ] をクリックする

補足

手順2、3で無線LAN設定は有効になっています。



12

コンピュータの無線 LAN 設定を一時的に変更するため、現在の設定をメモする

注意

SSIDやチャンネルなど、必ずコンピュータの現在の設定をメモしておいてください。コンピュータを元の無線LAN設定に戻すときに必要です。

SSID (ネットワーク名)

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー (ネットワークキー)
アドホック	オープンシステム認証	WEP※1	
		なし	—

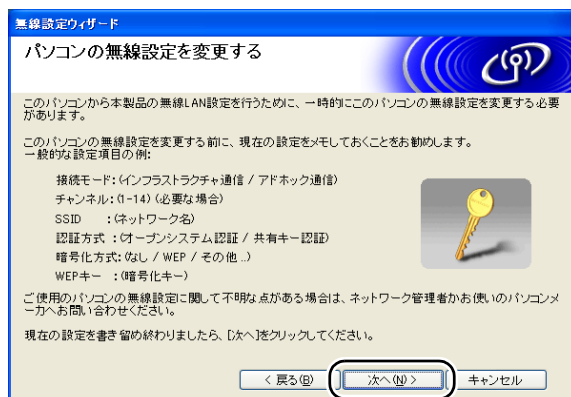
- ※1 WEP暗号化キーは次の規定に従い、64bitまたは128bitキーに対応する値をASCII文字か16進数フォーマットで入力します。
- 64 (40) bit ASCII文字：半角5文字で入力します。  
例) "Hello" (大文字と小文字は区別されます)
  - 64 (40) bit 16進数：10桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234aba"
  - 128 (104) bit ASCII文字：半角13文字で入力します。  
例) "Wirelesscomms" (大文字と小文字は区別されます)
  - 128 (104) bit 16進数：26桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234ab56cd709e5412aa3ba"

例：

SSID (ネットワーク名)
HELLO

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー (ネットワークキー)
アドホック	オープンシステム認証	WEP	12345

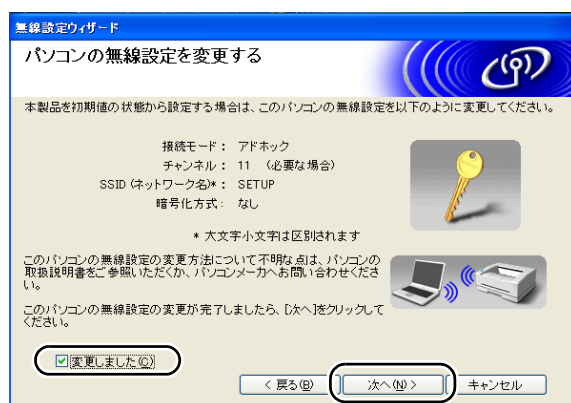
## 13 メモし終わったら、[次へ] をクリックする



## 14 無線 LAN 設定されていない本製品と接続するために、コンピュータの無線 LAN 設定を一時的に画面に表示されている設定に変更する

(右の画面は一例です。実際の画面に表示されている設定に変更してください。)

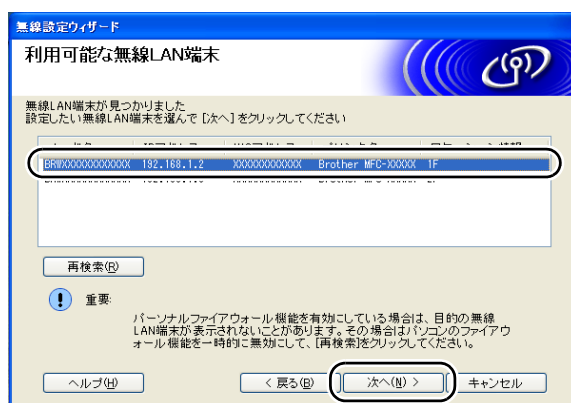
無線 LAN 設定の変更が完了したら、[変更しました] をチェックし、[次へ] をクリックする



### 補足

- 無線 LAN 設定の変更後、コンピュータの再起動を促すメッセージが表示された場合は、コンピュータを再起動後、手順6に戻ってやり直します。ただし、手順12～14は [次へ] をクリックするだけで次に進んでください。
- コンピュータの無線 LAN 設定を変更する場合は、「コンピュータの無線 LAN 設定を変更する」P.114 を参照してください。

## 15 無線 LAN 端末が複数ある場合は、一覧から本製品を選択し、[次へ] をクリックする

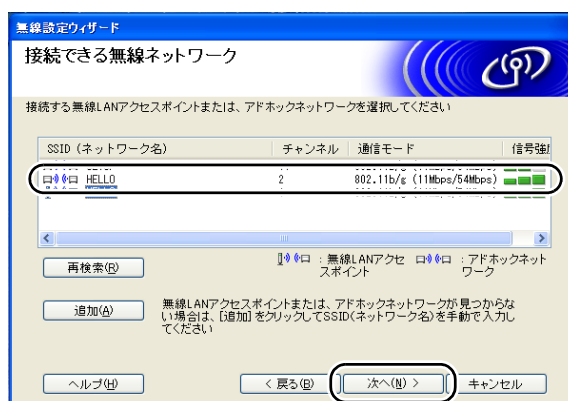


### 補足

- お買い上げ時のノード名は、無線LANの場合は“BRWxxxxxxxxxxxx”です。
- 一覧が空白の場合は、本製品の電源スイッチがONになっていることを確認し、[再検索] をクリックします。
- ネットワーク設定リストを印刷して本製品の IP アドレスとノード名を確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。

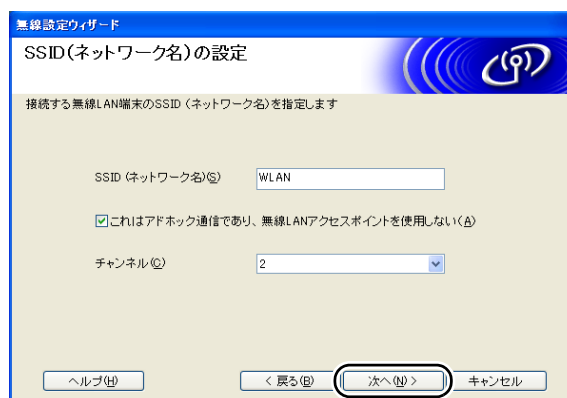
## 16

無線 LAN アクセスポイントまたはアドホックネットワークが複数ある場合は、一覧から本製品を接続するアドホックネットワークを選択し、[次へ] をクリックする



## 補足

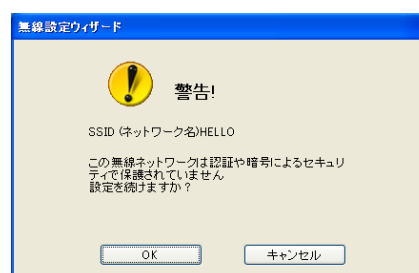
- 本製品のお買い上げ時のSSIDは“SETUP”です。このSSIDは選択しないでください。
- 一覧が空白の場合は、本製品が無線通信の範囲内に設置されていることを確認し、[再検索] をクリックします。
- 接続するアドホックネットワークが一覧にない場合は、[追加] をクリックすると、手動で追加できます。「これはアドホック通信であり、無線 LAN アクセスポイントを使用しない」をチェックし、「SSID(ネットワーク名)」と「チャンネル」を入力し、[次へ] をクリックします。



## 注意

無線 LAN が認証や暗号化によってセキュリティで保護されていない場合は、右の画面が表示されます。[キャンセル] をクリックし、セキュリティを設定することをおすすめします。[追加] をクリックして手動でアドホックネットワークを追加し、セキュリティを設定してください。

設定を続ける場合は [OK] をクリックして、手順18に進みます。ただし、セキュリティを設定しないで使用した場合、通信内容を盗み見られたり、ネットワークに不正に侵入される恐れがあります。



## 17

本製品が接続するアドホックネットワークに設定している認証方式、暗号化方式、ネットワークキーなどを設定し、[次へ] をクリックする

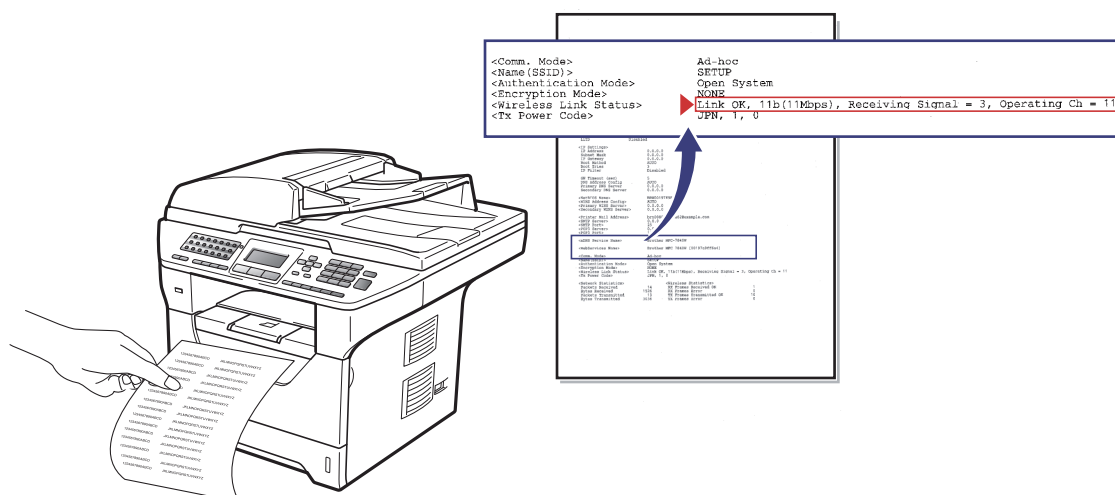
## 補足

- 複数のキーインデックスを設定したいときは、[詳細] をクリックします。
- ネットワークの認証または暗号化設定が分からないときは、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
- WEPキーを設定するときは、手順12のLAN設定内容リストで「Wireless Link Status」が「Link OK」と印刷されていてもネットワークがつかない場合、WEPキーを再度確認してください。WEPキーの大文字と小文字も確認してください。

## 18

設定を確認し、[次へ] をクリックする

本製品に無線LAN設定の内容が送信されます。  
[キャンセル] をクリックすると、設定は無効になります。



## 補足

本製品のIPアドレスを変更する場合は、[IPアドレスの変更] をクリックして手動で設定してください。

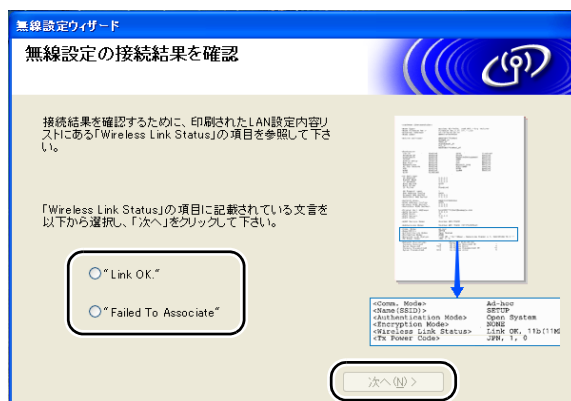


## 19

## 設定を確認し、[次へ] をクリックする

LAN 設定内容リストで接続結果が印刷されます。

- ・「Link OK」の場合は、手順21に進みます。
- ・「Failed To Associate」の場合は、手順20に進みます。



## 20

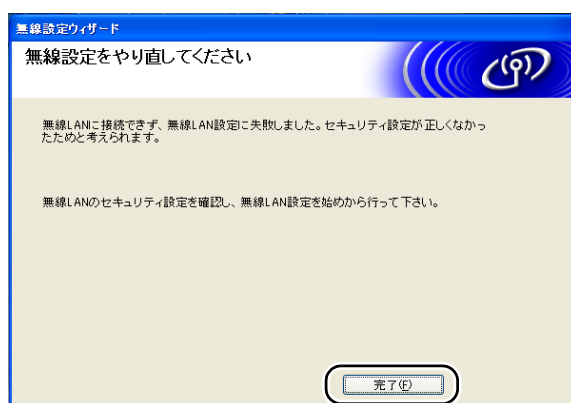
## [完了] をクリックする

無線 LAN 設定に失敗しました。

本製品の無線 LAN 設定を初期化して、再度設定してください。

詳細については、**P.145**「無線 LAN の初期化」を参照してください。

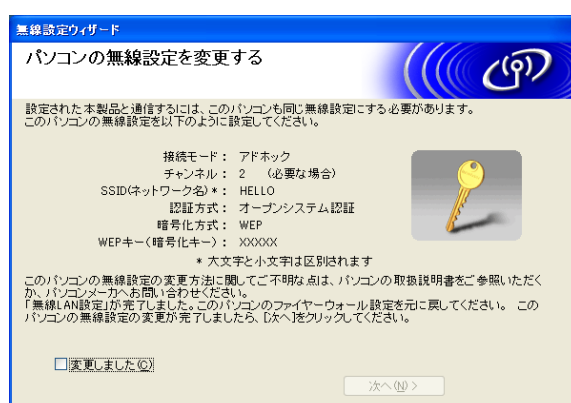
設定を確認後、手順 8 に進みます。



## 21

## 右の画面が表示されるまでしばらく待ち、本製品と通信する場合は、コンピュータの無線 LAN 設定を画面に表示されている設定に変更する

(右の画面は一例です。実際の画面に表示されている設定に変更してください。)

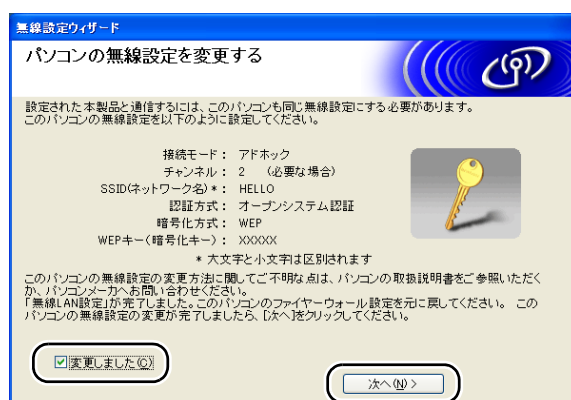


### 補足

コンピュータの無線LAN設定を変更する場合は、「コンピュータの無線LAN設定を変更する」**P.114**を参照してください。

## 22

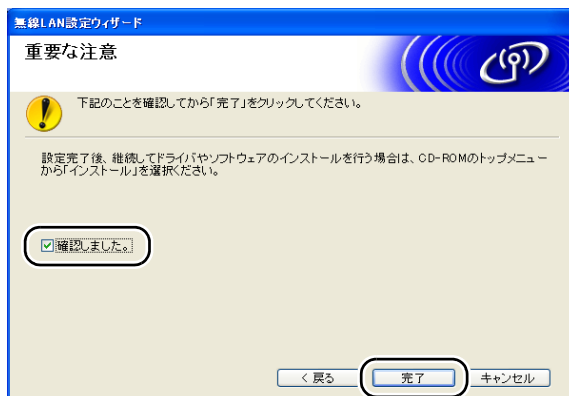
## コンピュータの無線 LAN 設定の変更が完了したら、[変更しました] をチェックして、[次へ] をクリックする





## 23

【確認しました】をチェックして、【完了】をクリックする



## 補足

無線LAN設定に失敗した場合は、ネットワーク設定をリセット **P.59** し、再度設定してください。

- OK!** 無線 LAN 設定は完了しました。
- 続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。
- 詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

## コンピュータの無線LAN設定を変更する

### ● Windows Vista® の場合

- ① [スタート] - [コントロールパネル] の順にクリックします。
- ② 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリックします。
- ③ 「ネットワークに接続」をクリックします。  
一覧に本製品のSSIDが表示されます。
- ④ 「SETUP」を選択し、「接続」をクリックします。
- ⑤ 「接続します」をクリックします。  
IPアドレスが「0.0.0.0」から「169.254.xxx.xxx」へ変更されます。(xxxは1～254までの数字) 画面に表示されるまでに数分かかることがあります。
- ⑥ 「閉じる」をクリックします。
- ⑦ 「ワイヤレスネットワーク接続 (SETUP)」の「状態の表示」をクリックします。
- ⑧ 「詳細」をクリックし、「ネットワーク接続の詳細」を確認します。


### ● Windows® XP SP2 以降のユーザーの場合

- ① [スタート] - [コントロールパネル] の順にクリックします。
- ② 「ネットワーク接続」をクリックします。
- ③ 「ワイヤレス ネットワーク接続」アイコンを右クリックし、「利用できるワイヤレス ネットワークの表示」をクリックします。  
一覧に本製品のSSIDが表示されます。
- ④ 「SETUP」を選択し、「接続」をクリックします。
- ⑤ ワイヤレスネットワーク接続状況を確認します。  
IPアドレスが「0.0.0.0」から「169.254.xxx.xxx」へ変更されます。(xxxは1～254までの数字) 画面に表示されるまでに数分かかることがあります。

## ブザーインストーラを使用する (Macintosh)

本製品に付属のCD-ROM内に収録されているブザーインストーラを使用して、ネットワーク環境に本製品を接続することができます。手動で設定するには、お使いの無線ネットワークの情報が必要です。まず、無線LAN アクセスポイント（ルータなど）の設定内容を確認し、記入してください。

### 補足

操作パネルから無線LAN設定をする（推奨）場合は、「操作パネルから手動で無線LAN設定をする」[P.87](#) または  かんたん設置ガイドを参照してください。

### 注意

本製品を無線LANに接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、無線LANの設定を確認してください。

#### SSID（ネットワーク名）

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー（ネットワークキー）※4
インフラストラクチャ	オープンシステム認証	WEP※2	
		なし	—
	共有キー認証	WEP※2	
		AES	
	WPA/WPA2-PSK※1	TKIP※3	
		CKIP	
アドホック	オープンシステム認証	AES	
		TKIP	
		WEP※2	
		なし	—

※1 WPA/WPA2-PSKは、Wi-Fiが提唱する事前共有キーを使用した認証方式です。TKIPやAESの暗号キーを使用し、本製品をアクセスポイントに接続します。

WPA2-PSK(AES)と WPA-PSK(TKIP/AES)は、半角8～63文字以内のネットワークキーを使用して認証を行います。

※2 WEP暗号化キーは次の規定に従い、64bitまたは128bitキーに対応する値をASCII文字か16進数フォーマットで入力します。

- 64 (40) bit ASCII文字：半角5文字で入力します。  
例) "Hello" (大文字と小文字は区別されます)
- 64 (40) bit 16進数：10桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234aba"
- 128 (104) bit ASCII文字：半角13文字で入力します。  
例) "Wirelesscomms" (大文字と小文字は区別されます)
- 128 (104) bit 16進数：26桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234ab56cd709e5412aa3ba"

※3 WPA-PSKのみ対応しています。

※4 LEAPとEAP-FASTに関しては、ユーザーIDとパスワードを記入してください。

例:

SSID (ネットワーク名)			
HELLO			

接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー (ネットワークキー)
インフラストラクチャ	WPA2-PSK	AES	12345678

## インフラストラクチャモードでの無線LAN設定

### LANケーブルを使用して手動で無線LAN設定をする

#### 注意

- 本製品の無線 LAN 設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59 を参照してください。
- パーソナルファイアウォールを有効にしている場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。無線LANの設定が完了した後で、パーソナルファイアウォールを有効にしてください。
- 設定にはLANケーブルが必要です。
- 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

2

Macintosh の電源を入れる

管理者権限をもつユーザでログインします。

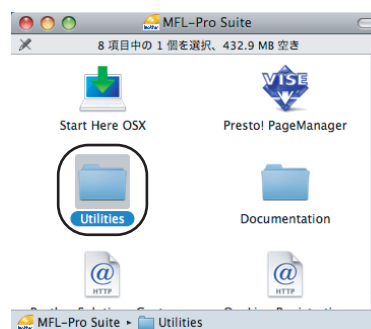
3

本製品に付属の CD-ROM を Macintosh の CD-ROM ドライブにセットする

4

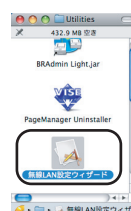
[MFL-Pro Suite] アイコンをダブルクリックする

[Utilities] アイコンをダブルクリックする



5

[無線 LAN 設定ウィザード] をダブルクリックする



6

【手動設定インストール（推奨）】を選択し、  
【次へ】をクリックする



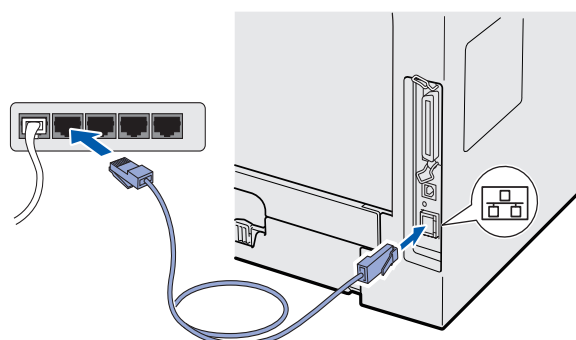
7

【LAN ケーブルを使用します（推奨）】を選択し、  
【次へ】をクリックする



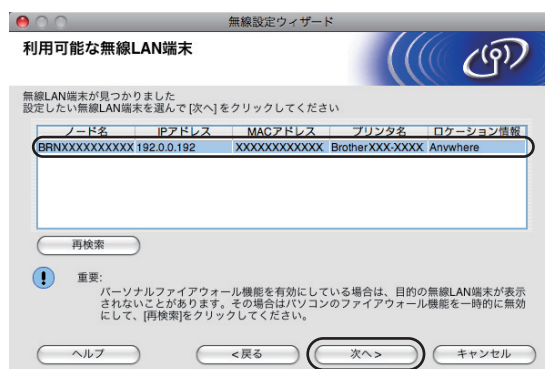
8

LAN ケーブルで本製品を無線 LAN アクセ  
スポイントに接続し、【次へ】をクリックす  
る



## 9

無線 LAN 端末が複数ある場合は、一覧から本製品を選択し、[次へ] をクリックする



## 補足

- お買い上げ時のノード名は、“BRNxxxxxxxxxxx”です。
- 一覧が空白の場合は、無線 LAN アクセスポイントおよび本製品の電源スイッチが ON になっていることを確認し、[再検索] をクリックします。
- ネットワーク設定リストを印刷して本製品の IP アドレスとノード名を確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。

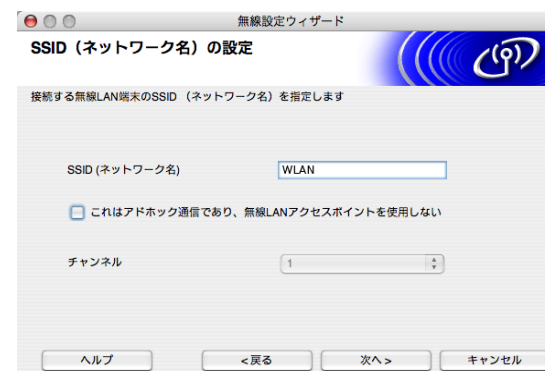
## 10

無線 LAN アクセスポイントが複数ある場合は、一覧から本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントを選択し、[次へ] をクリックする



## 補足

- 一覧が空白の場合は、無線 LAN アクセスポイントの電源スイッチが ON になっていること、SSID が割り当てられていることを確認します。さらに本製品と無線 LAN アクセスポイントが無線通信の範囲内に設置されていることを確認し、[再検索] をクリックします。
- SSID を出力しないように無線 LAN アクセスポイントが設定されている場合は、無線 LAN アクセスポイントの SSID が表示されません。その場合は、[追加] をクリックすると、手動で追加できます。画面上の指示に従って「SSID (ネットワーク名)」を入力し、[次へ] をクリックします。



## 注意

無線 LAN が認証や暗号化によってセキュリティで保護されていない場合は、右の画面が表示されます。  
[キャンセル] をクリックしてインストールを中止し、無線 LAN アクセスポイントのセキュリティを設定することをおすすめします。セキュリティを設定しないで使用した場合、通信内容を盗み見られたり、ネットワークに不正に侵入される恐れがあります。  
無線 LAN アクセスポイントのセキュリティ設定後に、再度インストールを進めてください。



## 11

本製品が接続する無線 LAN アクセスポイントに設定している認証方式、暗号化方式、ネットワークキーなどを設定し、[次へ] をクリックする



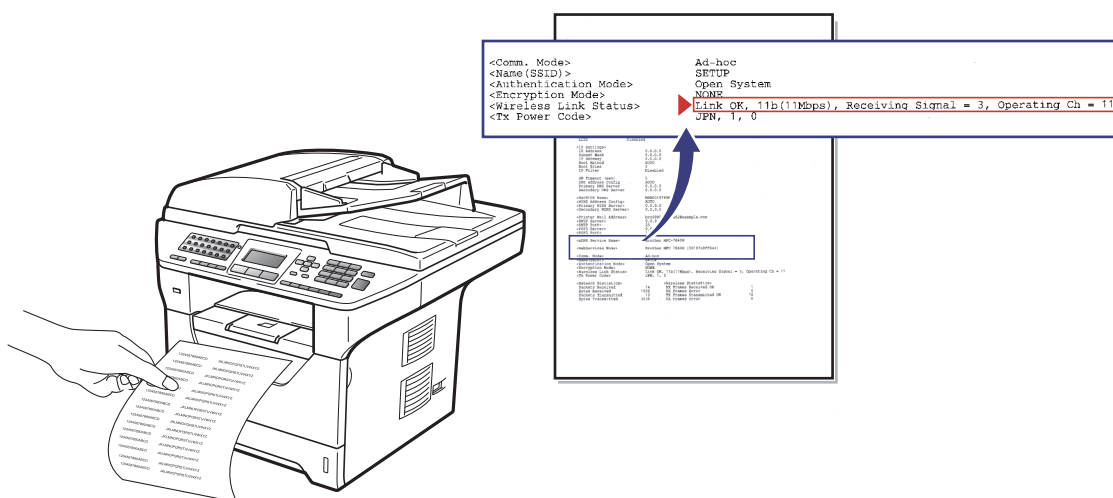
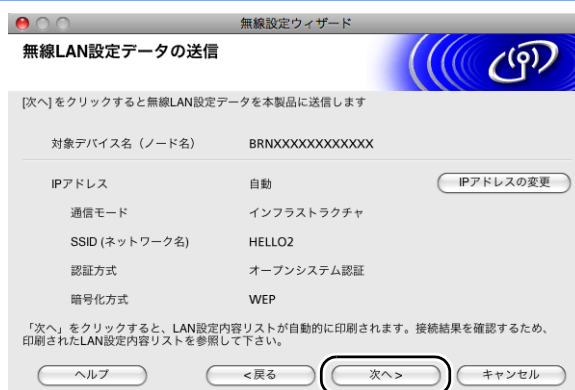
## 補足

- 複数のキーインデックスを設定したいときは、[詳細] をクリックします。
- ネットワークの認証または暗号化設定が分からないときは、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
- WEPキーを設定するときは、手順12のLAN設定内容リストで<Wireless Link Status>が「Link OK」と印刷されていてもネットワークがつかない場合、WEPキーを再度確認してください。WEPキーの大文字と小文字も確認してください。

## 12

## 設定を確認し、[次へ] をクリックする

本製品に無線 LAN 設定の内容が送信されます。  
[キャンセル] をクリックすると、設定は無効になります。



## 補足

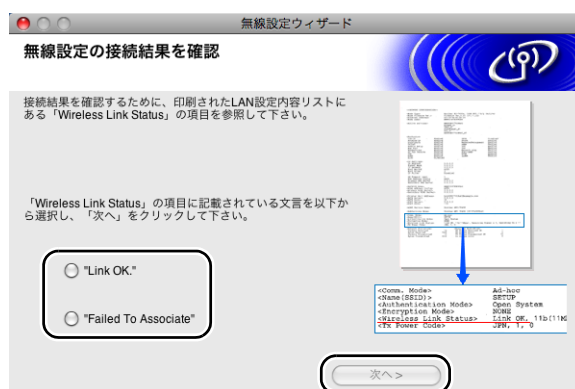
- 本製品のIPアドレスを変更する場合は、[IPアドレスの変更] をクリックして手動で設定してください。
- 本製品に無線 LAN 設定の内容が送信されると、自動的にネットワークインターフェースが無線 LAN に変わります。

## 13

## 設定を確認し、[次へ] をクリックする

LAN 設定内容リストで接続結果が印刷されます。

- 「Link OK」の場合は、手順15に進みます。
- 「Failed To Associate」の場合は、手順14に進みます。





## 14

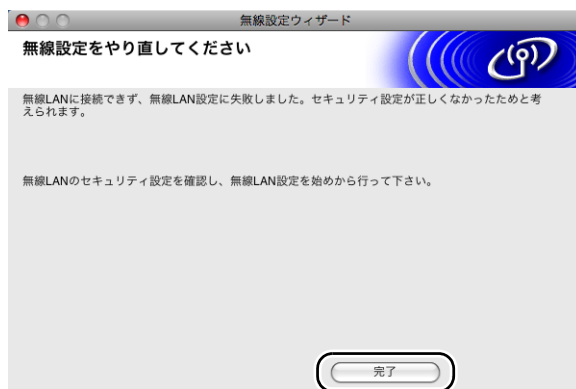
## [完了] をクリックする

無線 LAN 設定に失敗しました。

本製品の無線 LAN 設定を初期化して、再度設定してください。

詳細については、**P.145**「無線 LAN の初期化」を参照してください。

設定を確認後、手順 5 に進みます。



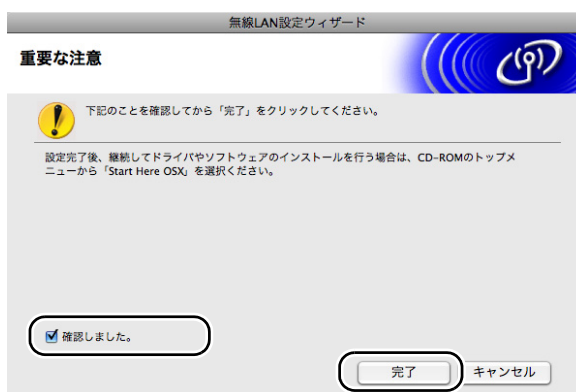
## 15

## 無線 LAN アクセスポイントと本製品から接続している LAN ケーブルを外し、[次へ] をクリックする



## 16

## [確認しました] をチェックして、[完了] をクリックする




## 補足

無線LAN設定に失敗した場合は、ネットワーク設定をリセット **P.59** し、再度設定してください。

OK!

無線 LAN 設定は完了しました。

続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。

詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。



## 無線LANアクセスポイントの簡単設定を使用して自動で無線LAN設定をする

## 注意

■本製品の無線 LAN 設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59 を参照してください。

■実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

2

メニュー、7 PQRS、2 ABC、7 PQRS の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN  
7. 無線LAN有効  
▲ オン  
▼ オフ  
▲▼で選択&OKボタン

3

▲ または ▼ を押して「オン」を選択し、OK を押す

お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

4

Ⓢ 停止/終了  
を押す

5

Macintosh の電源を入れる

管理者権限をもつユーザでログインします。

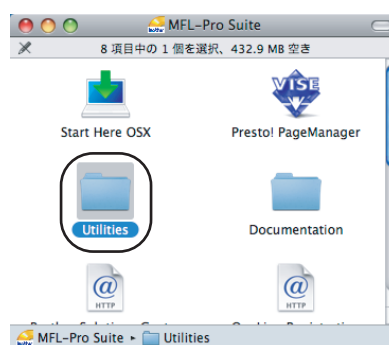
6

本製品に付属の CD-ROM を Macintosh の CD-ROM ドライブにセットする

7

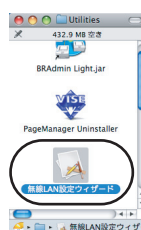
[MFL-Pro Suite] アイコンをダブルクリックする

[Utilities] アイコンをダブルクリックする



8

[無線 LAN 設定ウィザード] をダブルクリックする



## 9

【自動設定インストール】を選択し、【次へ】をクリックする



## 10

画面の内容を確認し、【次へ】をクリックする



## 11

メニュー、7 PORS、2 ABC、3 DEFの順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN  
3. SES/WPS/AOSS

無線接続中

## 12

AOSS™、WPS または SecureEasySetup™ に対応している無線 LAN アクセスポイントの自動検出を行う

検出は2分間継続して行われます。検出時間内に手順13を実施してください。

## 13

無線 LAN アクセスポイントの SES、WPS または AOSS™ ボタンを数秒間押す

詳しい設定方法は、お使いの無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

## 14

「接続しました」と表示されるまで待つ

無線 LAN アクセスポイントとの接続に成功すると、「接続しました」と表示されます。

これで本製品を無線 LAN で使用できます。

- 「接続エラー」と表示された場合は、対応するモードが実行中の無線 LAN アクセスポイントを2つ以上検出しています。AOSS™、WPSまたはSecureEasySetup™の無線LANアクセスポイントを1つにして、手順11からやり直してください。
- 「APが見つかりません」と表示された場合は、本製品は無線LANアクセスポイントに正常に接続されていません。本製品を無線LANアクセスポイントの近くに動かして、手順3からやり直してください。
- 「接続に失敗しました」と表示された場合は、本製品は無線LANアクセスポイントに正常に接続されていません。手順11からやり直してください。
- 「無線接続中」と表示された後「接続に失敗しました」と表示された場合は、本製品は無線LANアクセスポイントに正常に接続されていません。手順11からやり直してください。やり直しても同じメッセージが表示される場合は、ネットワーク設定をリセットして P.59、手順11からやり直してください。

## ● 操作パネルの「SES/WPS/AOSS」メニューで表示されるメッセージ

メッセージ	状態	解決方法
無線接続中	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線LANアクセスポイントを検索中</li> <li>無線LANアクセスポイントにアクセス中</li> <li>無線LANアクセスポイントから設定をダウンロード中</li> </ul>	—
AOSS接続中 WPS接続中 SES接続中	無線 LAN アクセスポイントに接続中	—
接続しました	接続成功	—
接続エラー	無線 LAN アクセスポイントを複数検出	AOSS™、WPS または SecureEasySetup™ の無線 LAN アクセスポイントを 1 つにして、手順 11 からやり直す
APが見つかりません	接続可能な無線 LAN アクセスポイントが見つからなかった場合	本製品を無線 LAN アクセスポイントの近くに動かして、手順 11 からやり直す
接続に失敗しました	接続失敗	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順11からやり直す</li> <li>やり直しても同じメッセージが表示される場合は、ネットワーク設定をリセットして <b>P.59</b>、手順2からやり直す</li> </ul>

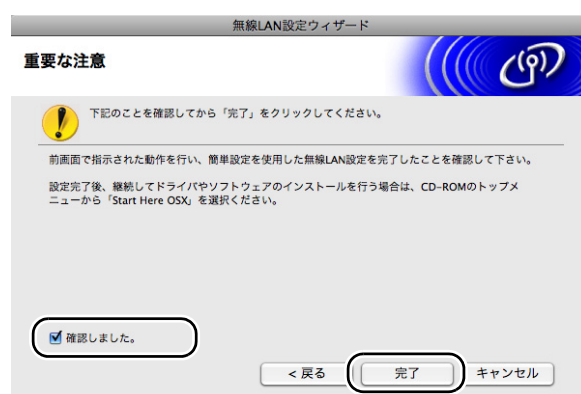
15

【次へ】をクリックする



16

【確認しました】をチェックして、【完了】をクリックする



補足

無線LAN設定に失敗した場合は、ネットワーク設定をリセット **P.59** し、再度設定してください。

OK! 無線 LAN 設定は完了しました。

続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。  
詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

## アドホックモードでの無線LAN設定

### 手動で無線LAN設定をする

#### 注意

- 本製品の無線 LAN 設定が既に設定されている場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。詳しくは、「ネットワーク設定のリセット」P.59 を参照してください。
- パーソナルファイアウォールを有効にしている場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。無線 LAN の設定が完了した後で、パーソナルファイアウォールを有効にしてください。
- 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

2

メニュー、7 PQRS、2 ABC、7 PQRS の順に押す

または、で選択して OK で決定することも可能です。

72. 無線LAN  
7. 無線LAN有効  
▲ オン  
▼ オフ  
▲▼で選択&OKボタン

3

または、を押して「オン」を選択し、OK を押す

お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

4

停止/終了  
を押す

5

Macintosh の電源を入れる

管理者権限をもつユーザでログインします。

6

本製品に付属の CD-ROM を Macintosh の CD-ROM ドライブにセットする

7

[MFL-Pro Suite] アイコンをダブルクリックする

[Utilities] アイコンをダブルクリックする



8

【無線 LAN 設定ウィザード】をダブルクリックする



9

【手動設定インストール (推奨)】を選択し、【次へ】をクリックする



10

【LAN ケーブルを使用しません】を選択し、【次へ】をクリックする



11

「重要な注意」の内容をお読みになり、【確認しました。】をチェックして、【次へ】をクリックする

補足

手順2、3で無線LAN設定は有効になっています。



12

Macintosh の無線 LAN 設定を一時的に変更するため、現在の設定をメモする

注意

SSIDやチャンネルなど、必ずMacintoshの現在の設定をメモしておいてください。コンピュータを元の無線LAN設定に戻すときに必要です。

一般的な設定項目の例を次に示します。このページを印刷してメモの際にご利用ください。

SSID (ネットワーク名)			
接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー (ネットワークキー)
アドホック	オープンシステム認証	WEP※1	
		なし	—

※1 WEP暗号化キーは次の規定に従い、64bitまたは128bitキーに対応する値をASCII文字か16進数フォーマットで入力します。

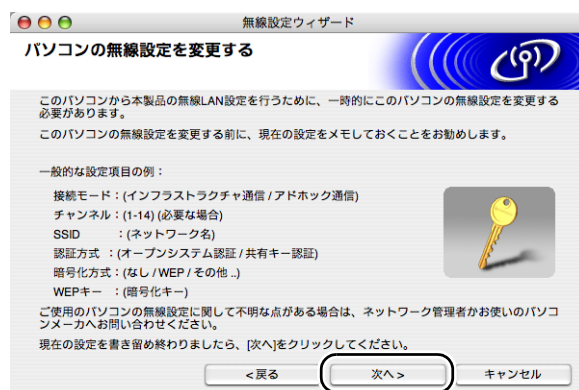
- 64 (40) bit ASCII文字：半角5文字で入力します。  
例) "Hello" (大文字と小文字は区別されます)
- 64 (40) bit 16進数：10桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234aba"
- 128 (104) bit ASCII文字：半角13文字で入力します。  
例) "Wirelesscomms" (大文字と小文字は区別されます)
- 128 (104) bit 16進数：26桁の16進数で半角入力します。  
例) "71f2234ab56cd709e5412aa3ba"

例：

SSID (ネットワーク名)			
HELLO			
接続モード	認証方式	暗号化方式	暗号化キー (ネットワークキー)
アドホック	オープンシステム認証	WEP	12345

## 13

メモし終わったら、[次へ] をクリックする





## 14

## 無線 LAN 設定されていない本製品と接続するために、Macintosh の無線 LAN 設定を一時的に画面に表示されている設定に変更する

(右の画面は一例です。実際の画面に表示されている設定に変更してください。)

## 無線 LAN 設定の変更が完了したら、[変更しました] をチェックし、[次へ] をクリックする

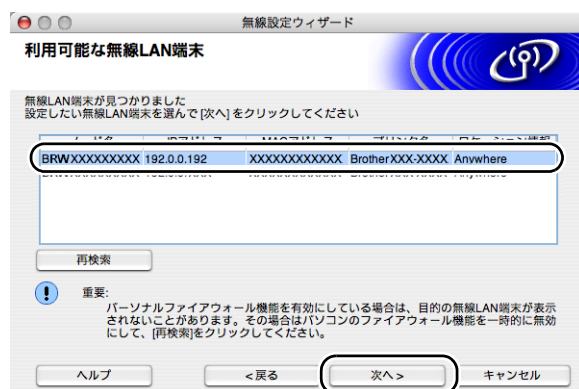


## 補足

- 無線 LAN 設定の変更後、Macintosh の再起動を促すメッセージが表示された場合は、Macintosh を再起動後、手順6に戻ってやり直します。ただし、手順12～14は [次へ] をクリックするだけで次に進んでください。
- Macintosh の無線 LAN 設定を変更する場合は、「Macintosh の無線 LAN 設定を変更する」P.132 を参照してください。

## 15

## 無線 LAN 端末が複数ある場合は、一覧から本製品を選択し、[次へ] をクリックする

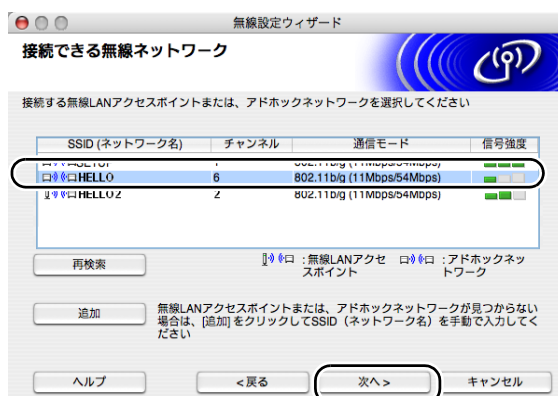


## 補足

- お買い上げ時のノード名は、無線LANの場合は“BRWxxxxxxxxxxxx”です。
- 一覧が空白の場合は、本製品の電源スイッチがONになっていることを確認し、[再検索]をクリックします。
- ネットワーク設定リストを印刷して本製品の IP アドレスとノード名を確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。

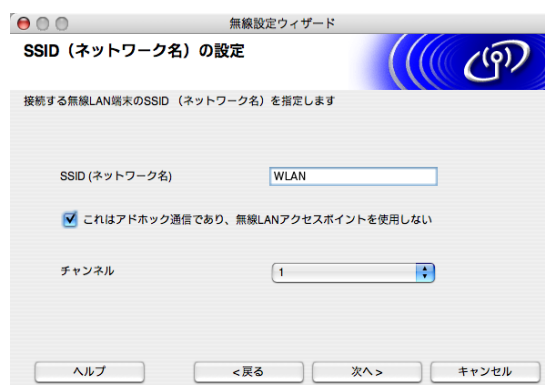
## 16

無線LANアクセスポイントまたはアドホックネットワークが複数ある場合は、一覧から本製品を接続するアドホックネットワークを選択し、[次へ] をクリックする



## 補足

- 本製品のお買い上げ時のSSIDは“SETUP”です。このSSIDは選択しないでください。
- 一覧が空白の場合は、本製品が無線通信の範囲内に設置されていることを確認し、[再検索] をクリックします。
- 接続するアドホックネットワークが一覧にない場合は、[追加] をクリックすると、手動で追加できます。「これはアドホック通信であり、無線LANアクセスポイントを使用しない」をチェックし、「SSID (ネットワーク名)」と「チャンネル」を入力し、[次へ] をクリックします。



## 注意

無線LANが認証や暗号化によってセキュリティで保護されていない場合は、右の画面が表示されます。[キャンセル] をクリックし、セキュリティを設定することをおすすめします。[追加] をクリックして手動でアドホックネットワークを追加し、セキュリティを設定してください。

設定を続ける場合は[OK] をクリックして、手順18に進みます。ただし、セキュリティを設定しないで使用した場合、通信内容を盗み見られたり、ネットワークに不正に侵入される恐れがあります。





## 17

本製品が接続するアドホックネットワークに設定している認証方式、暗号化方式、ネットワークキーなどを設定し、[次へ] をクリックする



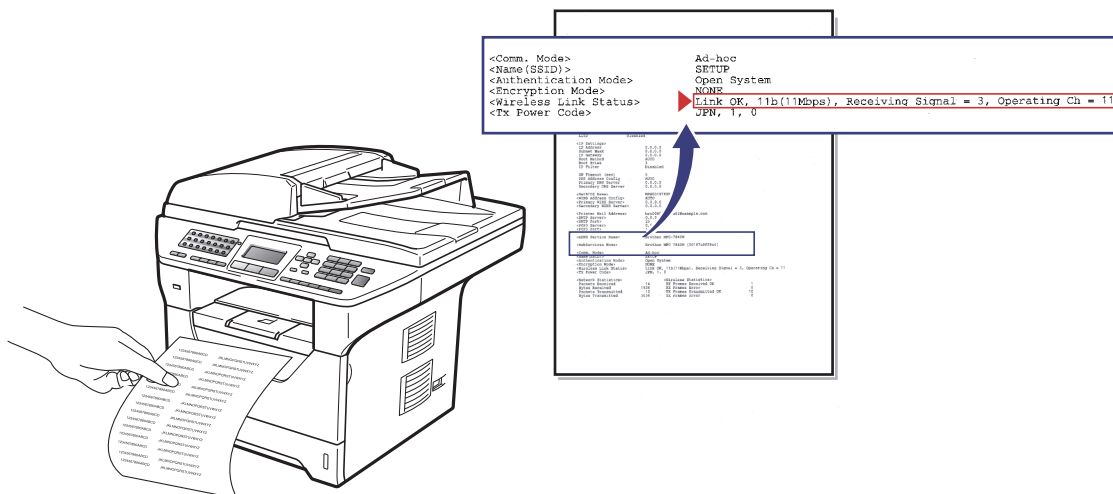
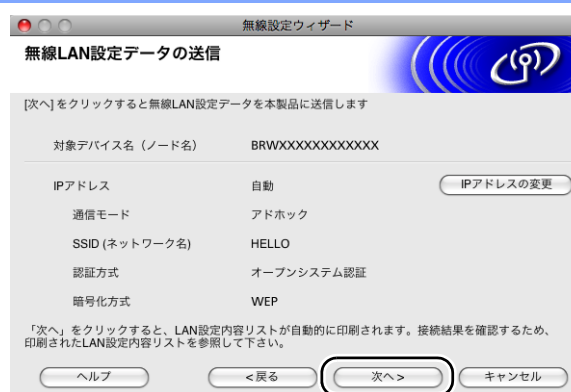
## 補足

- 複数のキーインデックスを設定したいときは、[詳細] をクリックします。
- ネットワークの認証または暗号化設定が分からないときは、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
- WEPキーを設定するときは、手順12のLAN設定内容リストで<Wireless Link Status>が「Link OK」と印刷されていてもネットワークがつかない場合、WEPキーを再度確認してください。WEPキーの大文字と小文字も確認してください。

## 18

設定を確認し、[次へ] をクリックする

本製品に無線LAN設定の内容が送信されます。  
[キャンセル] をクリックすると、設定は無効になります。



## 補足

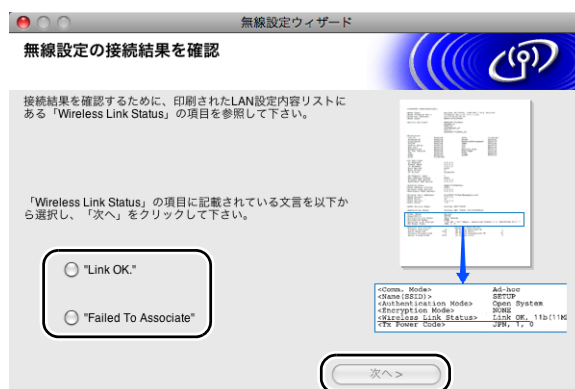
本製品のIPアドレスを変更する場合は、[IPアドレスの変更] をクリックして手動で設定してください。

## 19

## 設定を確認し、[次へ] をクリックする

LAN 設定内容リストで接続結果が印刷されます。

- 「Link OK」の場合は、手順21に進みます。
- 「Failed To Associate」の場合は、手順20に進みます。



## 20

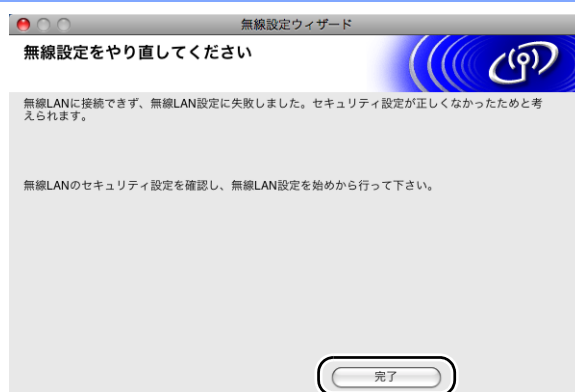
## [完了] をクリックする

無線 LAN 設定に失敗しました。

本製品の無線 LAN 設定を初期化して、再度設定してください。

詳細については、**P.145**「無線 LAN の初期化」を参照してください。

設定を確認後、手順 5 に進みます。



## 21

## 右の画面が表示されるまでしばらく待ち、本製品と通信する場合は、コンピュータの無線 LAN 設定を画面に表示されている設定に変更する

(右の画面は一例です。実際の画面に表示されている設定に変更してください。)



### 補足

Macintoshの無線LAN設定を変更する場合は、「Macintoshの無線LAN設定を変更する」**P.132**を参照してください。

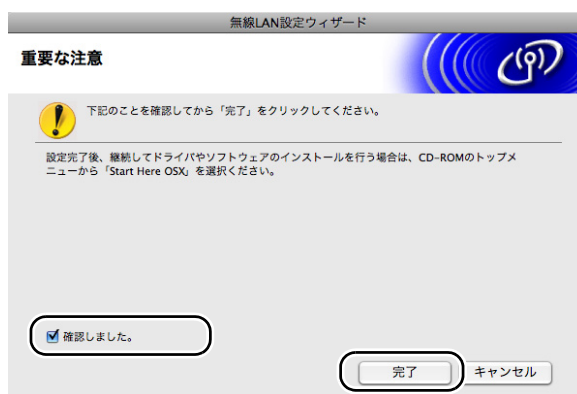
## 22

## Macintosh の無線 LAN 設定の変更が完了したら、[変更しました] をチェックして、[次へ] をクリックする



## 23

【確認しました】をチェックして、【完了】をクリックする



## 補足

無線LAN設定に失敗した場合は、ネットワーク設定をリセット **P.59** し、再度設定してください。

- OK!** 無線 LAN 設定は完了しました。
- 続いて本製品に付属の CD-ROM から、本製品を動作させるために必要なドライバおよびソフトウェアをインストールします。
- 詳しくは、 **かんたん設置ガイド**を参照してください。

## Macintoshの無線LAN設定を変更する

- ① メニューバーの [AirMac] アイコンをクリックし、[“インターネット接続”を開く] をクリックします。
- ② [ネットワーク] タブをクリックし、利用可能な無線LAN端末を確認します。  
ネットワークオプションに本製品が表示されます。
- ③ 「SETUP」を選択します。  
無線LANに正常に接続されています。

# 操作パネルで無線LANの設定を変更する

ここでは、操作パネルにある各種ボタンと液晶ディスプレイ(LCD)を使用して、無線LANを設定する方法について説明します。本製品の操作パネルのボタンを利用することで、コンピュータから操作しなくてもネットワークの各設定項目を修正できます。

## 操作パネル

操作パネルは、各設定項目を表示したり、ダイヤルボタンやワンタッチダイヤルなどで入力した文字を表示します。

操作パネルを使用すれば、「ネットワーク」設定メニューの「無線LAN」設定メニューを通じてネットワーク設定をすることができます。

メニュー、7 FWD、2 ABC の順に押します。

72. 無線LAN
1. TCP/IP設定
2. 無線接続ワイヤード
3. SES/WPS/AOSS
▲▼で選択&OKボタン

「無線LAN」メニューでは、次の項目が設定できます。

- 1. TCP/IP設定（無線LAN）..... P.134 を参照してください。
- 2. 無線LAN設定..... P.87 を参照してください。
- 3. 無線LANの状態表示..... P.142 を参照してください。
- 4. 無線LANの初期化..... P.145 を参照してください。

### 補足

一度ネットワーク上で有効な IP アドレスを本製品に割り当てた後は、お使いのウェブブラウザからネットワークを通じてすべての設定項目を変更可能です。また、本製品に付属のCD-ROM内に収録されているBRAdmin Lightを、ご使用いただくことで同様に設定が可能です。

## TCP/IPの設定（無線LAN）

無線LANでTCP/IPを使用して印刷するには、本製品にIPアドレスとサブネットマスクを設定します。ルータの先に本製品が接続されている場合は、ルータのアドレス（ゲートウェイ）も設定します。

### 補足

本製品の初期設定は、次の通りです。

- IPアドレス：169.254.x.x（APIPA機能による自動割当）

### 注意

■DHCP、BOOTP、RARPまたはAPIPA機能を使用していない場合は、初期設定のIPアドレスは192.0.0.192になります。

■DHCP、BOOTP、RARPまたはAPIPA機能を使用しない場合は、自動的にIPアドレスを取得しないように、IPの取得方法を手動（static（固定））に設定します。**P.135**

このメニューは10の項目で構成されています。

- IP取得方法
- IPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイ
- ノード名
- WINS設定
- WINSサーバ
- DNSサーバ
- APIPA
- IPv6

### 補足

TCP/IPを設定する他の方法

- ウェブブラウザを使用する場合は**P.61**を参照してください。
- その他TCP/IPを設定する方法は**P.211**を参照してください。

## IP取得方法

1

メニュー、**7** PORS、**2** ABC、**1**、**1** の順に押す  
 または **▼** で選択して **OK** で決定することも可能です。

2

**▲** または **▼** で押して「Auto」、「Static」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」のいずれかを選択する  
 お買い上げ時は「Auto」になっています。

21. TCP/IP設定	
1. IP取得方法	
▲	Auto
▼	Static
▲▼で選択&OKボタン	

3

**OK** を押す  
 IP アドレス取得方法が確定されます。  
 ・「Auto」、「RARP」、「BOOTP」または「DHCP」を選択した場合は、次の手順4を実行します。  
 ・「Static」を選択した場合は、手順5に進みます。

4

IP アドレスの取得を試みる回数を設定して、**OK** を押す  
 お買い上げ時の設定は「00003」です。IP アドレスの取得に失敗する場合は、数値を大きくします。

5

Ⓢ 停止/終了  
**OK** を押す  
 設定メニューを終了します。

### 補足

IP取得方法を「Auto」に設定すると、「DHCP」、「BOOTP」、「RARP」の順にネットワーク内のIPアドレス配布サーバを探して、IPアドレスを取得します。これらのサーバが見つからなかった場合は、「APIPA」機能により、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

## IPアドレス


本製品の現在のIPアドレスが表示されます。IPアドレスを変更する場合は、IP取得方法をStatic（手動）に指定してください。設定するIPアドレスについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。Static以外のIP取得方法が選ばれている場合は、DHCP、RARPまたはBOOTPのプロトコルを使用してIPアドレスを自動的に取得します。

**1** 、**7** PQRS、**2** ABC、**1**、**2** ABC の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** **IPアドレスを入力する**  
 右記は例です。  
 設定済みの場合は、「変更しますか 1. はい 2. いいえ」と表示されます。  
 そのときは **1** を押します。**2** を押すと、設定画面へ戻ります。

21. TCP/IP設定
2. IPアドレス
192.168.001.003
入力OKボタン

**3**  を押す  
 IPアドレスが登録されます。

**4**  を押す  
 設定メニューを終了します。


## サブネットマスク


本製品の現在のサブネットマスクが表示されます。DHCP、RARPまたはBOOTP、APIPAを使用していない場合、サブネットマスクを手動で入力してください。設定するサブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

**1** 、**7** PQRS、**2** ABC、**1**、**3** DEF の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2** **サブネットマスクを入力する**  
 右記は例です。  
 設定済みの場合は、「変更しますか 1. はい 2. いいえ」と表示されます。  
 そのときは **1** を押します。**2** を押すと、設定画面へ戻ります。

21. TCP/IP設定
3. サブネットマスク
255.255.255.0
入力OKボタン

**3**  を押す  
 サブネットマスクが登録されます。

**4**  を押す  
 設定メニューを終了します。

## ゲートウェイ

本製品の現在のゲートウェイアドレスが表示されます。DHCP、RARPやBOOTPを使用していない場合はアドレスを手動で指定します。ゲートウェイやルータを使用しない場合はお買い上げ時の設定(000.000.000.000)にしておいてください。アドレスが不明な場合はネットワーク管理者へお問い合わせください。

- 1** 、**7** PQRS、**2** ABC、**1**、**4** GH の順に押す  
 または で選択して で決定することも可能です。

- 2** **ゲートウェイアドレスを入力する**  
 右記は例です。  
 設定済みの場合は、「変更しますか 1. はい 2. いいえ」と表示されます。  
 そのときは **1** を押します。**2** を押すと、設定画面へ戻ります。

21. TCP/IP設定
4. ゲートウェイ
192. 168. 001. 001
入力&OKボタン

- 3** を押す  
 ゲートウェイアドレスが登録されます。

- 4** を押す  
 設定メニューを終了します。

## ノード名 (NetBIOS名)

ノード名をネットワークに登録するために使用します (WINSサーバに登録されているNetBIOS名になります)。お買い上げ時のノード名は、無線LANの場合は“BRWxxxxxxxxxxxx”です。

- 1** 、**7** PQRS、**2** ABC、**1**、**5** JKL の順に押す  
 または で選択して で決定することも可能です。

- 2** **1** を押す  
**2** ABC で設定メニューへ戻ります。

21. TCP/IP設定
5. ノード名
▲ 1. 変更
▼ 2. 中止
▲▼で選択&OKボタン

- 3** **ノード名を入力する**

21. TCP/IP設定
5. ノード名
BRWXXXXXXXXXXXX
入力&OKボタン

### 補足

ボタンを押す回数に応じて、入力できる文字が変わります。詳しくは **P.133** を参照してください。  
 ノード名は、最大32文字まで入力できます。

- 4** を押す  
 ノード名が登録されます。

- 5** を押す  
 設定メニューを終了します。



## WINS設定

この項目で本製品がWINSをどのように解決するかを設定します。



### Auto

DHCPサーバから自動的にプライマリー、セカンダリーのWINSサーバアドレスを取得します。「IP取得方法」が「Auto」に設定されている必要があります。**P.135**

### Static


手動でWINSサーバアドレスを設定します。

**1** 、**7** PQRS、**2** ABC、**1**、**6** MNO の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。

**2**  または  を押して「Auto」、「Static」のどちらかを選択する  
お買い上げ時は「Auto」になっています。

21. TCP/IP設定
6. WINS設定
▲ Auto
▼ Static
▲▼で選択&OKボタン

**3**  を押す  
WINS 設定が登録されます。

**4**  を押す  
設定メニューを終了します。

# WINSサーバ

WINSサーバの設定をします。

## ● プライマリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリWINS（Windows® Internet Name Service）サーバのIPアドレスを登録します。  
0以外の値が設定されている場合、本製品はプライマリWINSサーバのIPアドレスとしてその値を登録します。

## ● セカンダリ WINS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリWINS（Windows® Internet Name Service）サーバのIPアドレスを登録します。セカンダリWINSサーバはプライマリWINSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからないときに機能します。  
0以外の値が設定されている場合、本製品はセカンダリWINSサーバのIPアドレスとしてその値を登録します。  
ネットワーク内にセカンダリのWINSサーバが存在しない場合は入力しなくても構いません。

1

メニュー、7 PQRS、2 ABC、1、7 PQRS の順に押す  
または、または で選択して OK で決定することも可能です。

2

または を押して「プライマリ」または「セカンダリ」の WINS サーバを選択する

21. TCP/IP設定

7. WINS サーバ

▲ プライマリ

▼ セカンダリ

▲▼で選択&OKボタン

3

OK を押す  
設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。  
そのときは 1 を押します。2 ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

4

WINS サーバのアドレスを入力する

21. TCP/IP設定

7. WINS サーバ

000.000.000.000

入力&OKボタン

5

OK を押す  
WINS サーバのアドレスが登録されます。

6

停止/終了 を押す  
設定メニューを終了します。

## DNSサーバ

DNS（ドメインネームシステム）サーバの設定をします。

### ● プライマリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でプライマリDNS（ドメインネームシステム）サーバのアドレスを指定します。



### ● セカンダリ DNS サーバ IP アドレス

この項目でセカンダリDNSサーバのアドレスを指定します。セカンダリDNSサーバはプライマリDNSサーバの機能の一部を補完し、プライマリサーバが見つからない場合に機能します。

ネットワークのトラフィックが大きい環境で使用する場合に設定してください。

ネットワーク内にセカンダリのDNSサーバが存在しない場合は入力しなくても構いません。

**1** 、**7** PQRS、**2** ABC、**1**、**8** TUV の順に押す  
 または  で選択して  で決定することも可能です。


**2**  または  を押して「プライマリ」または「セカンダリ」のDNSサーバを選択する


21. TCP/IP設定
8. DNS サーバ
▲ プライマリ
▼ セカンダリ
▲▼で選択&OKボタン

**3**  を押す  
 設定済みの場合は、「1. 変更 2. 中止」と表示されます。  
 そのときは **1** を押します。 **2** ABC を押すと、設定画面へ戻ります。

**4** DNSサーバのアドレスを入力する

21. TCP/IP設定
8. DNS サーバ
000.000.000.000
入力&OKボタン

**5**  を押す  
 DNSサーバのアドレスが登録されます。

**6**  を押す  
 設定メニューを終了します。

## APIPA

APIPAの設定を「オン」にすると、169.254.0.0/16の中からIPアドレスを自動的に割り当てられます。「オフ」に設定した場合は、IPアドレスを手動で設定するか、IP取得方法をDHCPにしてIPアドレスを自動的に取得し使用してください。

1

メニュー、**7 PQRS**、**2 ABC**、**1**、**9 WXYZ**の順に押す  
または、 で選択して で決定することも可能です。

2

または を押して「オン」または「オフ」のどちらかを選択する  
お買い上げ時は「オン」に設定されています。

21. TCP/IP設定
9. APIPA
▲ オン
▼ オフ
▲▼で選択&OKボタン

3

を押す  
APIPA の設定が登録されます。

4

停止/終了  
 を押す  
設定メニューを終了します。

## IPv6

本製品は次世代インターネットプロトコルIPv6に対応しています。IPv6プロトコルを使用する場合は、「オン」に設定してください。お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。IPv6 プロトコルの詳細については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（<http://solutions.brother.co.jp/>））をご覧ください。

1

メニュー、**7 PQRS**、**2 ABC**、**1**、**0**の順に押す  
または、 で選択して で決定することも可能です。

2

または を押して「オン」、「オフ」のどちらかを選択する

21. TCP/IP設定
0. IPv6
▲ オン
▼ オフ
▲▼で選択&OKボタン

3

を押す  
IPv6 の設定が登録されます。

4

停止/終了  
 を押す  
設定メニューを終了します。

5

本製品の電源を入れ直す  
設定が変更されます。

### 補足

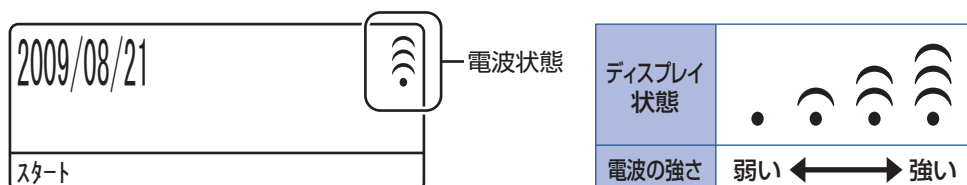
IPv6プロトコルの設定を「オン」にすると、有線LAN、無線LANの両方に適用されます。

## 無線LANの状態

無線LAN をお使いの場合、次の状況を確認できます。

- 接続状態
- 電波状態
- SSID
- 通信モード

また液晶ディスプレイに、本製品の電波状態が表示されます。



### 接続状態

無線LANをお使いの場合、接続状態を表示します。

1

メニュー、7 PQRS、2 ABC、5 JKL、1 の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

現在の接続状態が表示されます。アクティブ (11b)、アクティブ (11g) または AOSS アクティブと表示されているときは、正常に接続されています。

2

停止/終了  
を押す

設定メニューを終了します。

### 電波状態

無線LAN をお使いの場合、電波状態を表示します。

1

メニュー、7 PQRS、2 ABC、5 JKL、2 ABC の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

現在の電波の状態 (強さ) が表示されます。

2

停止/終了  
を押す

設定メニューを終了します。

### SSID

無線LAN をお使いの場合、SSID (ネットワーク名) を表示します。

1

メニュー、7 PQRS、2 ABC、5 JKL、3 DEF の順に押す

▲ または ▼ で選択して OK で決定することも可能です。

SSID (ネットワーク名) が表示されます。

2

停止/終了  
を押す

設定メニューを終了します。

## 通信モード

無線LAN をお使いの場合、通信モードを表示します。

1

メニュー



7 PQRS

2 ABC

5 JKL

4 GHI

の順に押す

または で選択して OK で決定することも可能です。

現在の通信モード（「アドホック」または「インフラストラクチャ」）が表示されます。

2

停止/終了



を押す

設定メニューを終了します。

## 無線LAN有効

本製品を無線LANに接続して使用する場合は、「オン」に設定してください。

1

メニュー



7 PQRS

2 ABC

7 PQRS

の順に押す

または で選択して OK で決定することも可能です。

2

または を押して「オン」を選択する

72. 無線LAN  
無線LAN有効  
▲ オン  
▼ オフ  
▲▼で選択&OKボタン

3

OK

を押す

無線 LAN が有効になります。

4

停止/終了



を押す

設定メニューを終了します。

# 無線LANの初期化

現在の無線LAN設定を全てお買い上げ時の設定に初期化できます。

- 1

メニュー

7 PQRS

2 ABC

6 MNO

の順に押す

または で選択して OK で決定することも可能です。
- 2

1 を押す

2 ABC を押すと、設定メニューに戻ります。

72. 無線LAN

6. 初期設定に戻す

1. リセット

2. 中止

で選択&OKボタン
- 3

停止/終了

を押す

設定メニューを終了します。

**補足** すでに設定されているすべてのネットワーク情報を初期化したい場合は、ネットワークの初期化を行う必要があります。  
**P.59** を参照してください。



# 4章


## Windows®環境で使う

■ ネットワークプリンタとして使う .....	147
LPR (Standard TCP/IP) で印刷する.....	147
プリンタドライバのインストール (Windows® 2000/XP/Windows Vista®/ Windows Server® 2003/2008).....	148
■ ネットワークスキャン機能の設定 .....	152
ネットワークスキャン機能とは .....	152
ネットワークスキャン機能を使用する前に .....	152
■ ネットワークPCファクス機能を使う .....	156
ネットワークPCファクス機能とは .....	156
ネットワークPCファクス機能を使う準備.....	156
■ インターネット印刷を使う .....	158
インターネット印刷とは .....	158
インターネット印刷を使う準備 .....	158
別のURLを指定する .....	163

# ネットワークプリンタとして使う

## LPR (Standard TCP/IP) で印刷する


### 概要

TCP/IPプロトコルを使用して、本製品から直接印刷出力することができます。  
ネットワークサーバなどは経由せずに印刷します。  
プリンタドライバの詳しい使い方については、 画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

#### ● 条件

- コンピュータにLANボードが装備され、TCP/IPプロトコルがインストールされていること。
- 本製品にIPアドレス、サブネットマスクなどが設定されていること。
- コンピュータと本製品が、同一のネットワーク上にあること。

#### ● 設定の流れ

1. TCP/IPプロトコルによってコンピュータがネットワーク接続されていることを確認します。
2. コンピュータに本製品の関連付けをします。**P.148**  を参照してください。

## プリンタドライバのインストール (Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows Server® 2003/ 2008)

すでにプリンタドライバがインストールされている場合は **P.151** を参照してください。

1

### 本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

トップメニューが表示されます。

#### 補足

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ (コンピュータ)」から CD-ROM ドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

2

### 「インストール」をクリックする



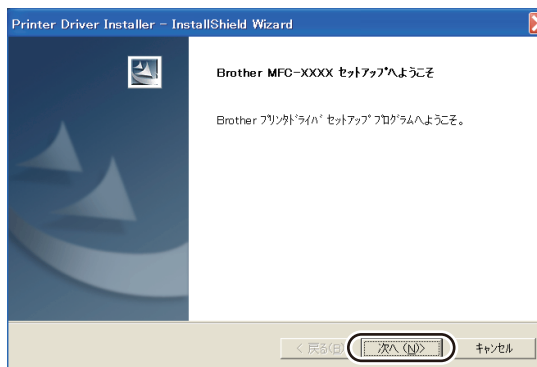
3

### 「プリンタドライバ (ネットワーク対応のみ)」をクリックする



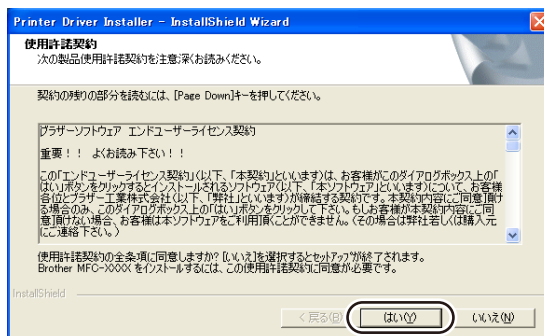
4

### 「次へ」をクリックする



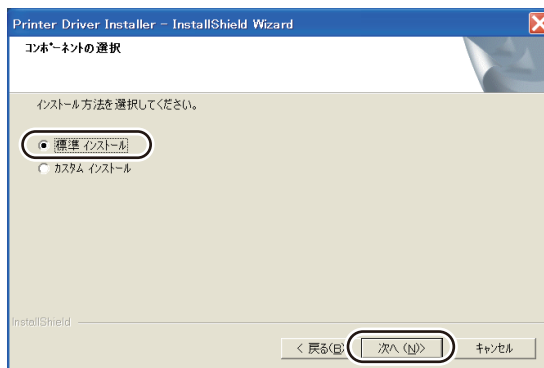
## 5

使用許諾契約の内容を確認し、[はい]をクリックする



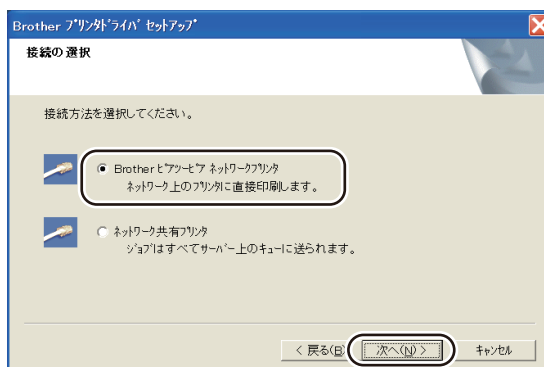
## 6

[標準インストール]を選択し、[次へ]をクリックする



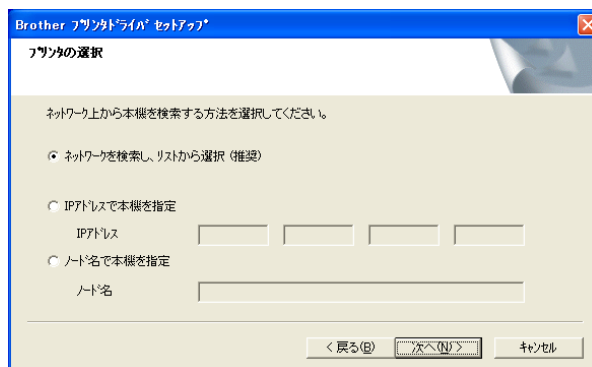
## 7

[Brother ピアツーピア ネットワークプリンタ]を選択し、[次へ]をクリックする  
市販のセキュリティソフトでパーソナルファイアウォール機能が有効に設定されていると、インストール中にセキュリティの許可を促す画面が表示されることがあります。この場合は許可をしてください。



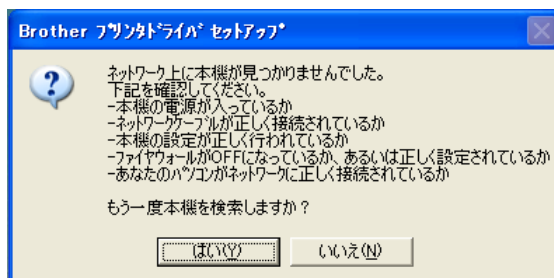
## 8

プリンタの選択方法を選択し、画面の指示に従ってセットアップを進める



**注意**

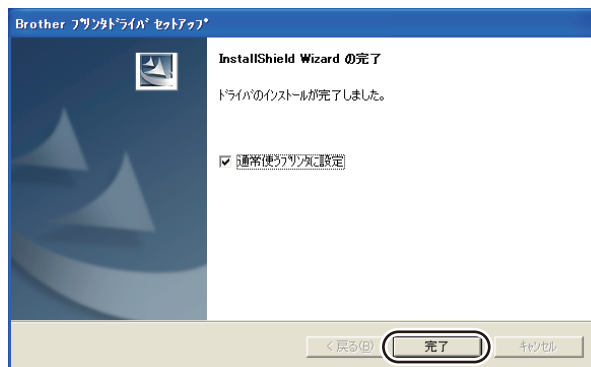
■以下の画面が表示されたときは、記載内容を確認し、[はい] をクリックして再度検索を行います。



■それでも検索されない場合は、[いいえ] をクリックし、表示される画面の指示にしたがって、IP アドレスなどを設定してください。

**9****[完了] をクリックする**

プリンタドライバのインストールは完了しました。

**注意**

インストール完了後、印刷やその他の機能をご使用になるときに、セキュリティ許可を促す画面が表示されることがあります。この場合も許可してください。

## プリンタドライバがインストール済の場合 (Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows Server® 2003/2008)

すでにプリンタドライバがインストールされている場合は、以下の手順でTCP/IPポートの追加と本製品の関連付けをします。

1

### 本製品のプリンタドライバのアイコンを表示する

- Windows® 2000の場合  
スタートメニューから [設定] - [プリンタ] を選択します。
- Windows® XP/Windows Server® 2003の場合  
スタートメニューから [プリンタとFAX] を選択します。
- Windows Vista®/Windows Server® 2008の場合  
スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックして開き、[ハードウェアとサウンド] から [プリンタ] をクリックして開きます。

2

### 設定するプリンタを右クリックする

3

### 表示されるメニューから [プロパティ] をクリックする

4

### [ポート] タブをクリックし、[ポートの追加] をクリックする

5

### [Standard TCP/IP Port] を選択し、[新しいポート] をクリックする [標準TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード] が表示されます。


6

### 画面の指示に従ってセットアップを進める

## ネットワークスキャン機能の設定

### ネットワークスキャン機能とは

ネットワークスキャン機能は、本製品のスキャン機能を使ってネットワーク経由で画像をコンピュータに送ったり、保存したり、コンピュータからネットワーク経由で本製品から画像を取得することができます。

詳しい使い方については、 画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

#### 注意


ネットワークスキャン機能を使うには、本製品にTCP/IPの設定をしておく必要があります。

- 操作パネルから設定するには **P.25** を参照してください。  
（ネットワークプリンタとしてのTCP/IP設定がすでに完了していれば設定済みです。）
- ウェブブラウザから設定するには **P.61** を参照してください。

### ネットワークスキャン機能を使用する前に

ネットワークスキャン機能を使うには、まずスキャナドライバをインストールする必要があります。

#### スキャナドライバのインストール

付属のCD-ROMに収録されているドライバのインストールが必要です。「かんたん設置ガイド ネットワーク編」に従ってインストールしてください。詳しくは  かんたん設置ガイド ネットワーク編を参照してください。

#### 補足

「スキャン to FTP」、「スキャン to ネットワークファイル」機能は、コンピュータを使用せずに本製品単独で実行できる機能ですので、コンピュータにスキャナドライバをインストールしていなくても使用できます。

## 設定の変更

ドライバがすでにインストールされている場合、以下の手順に従って設定を変更してください。

### 1

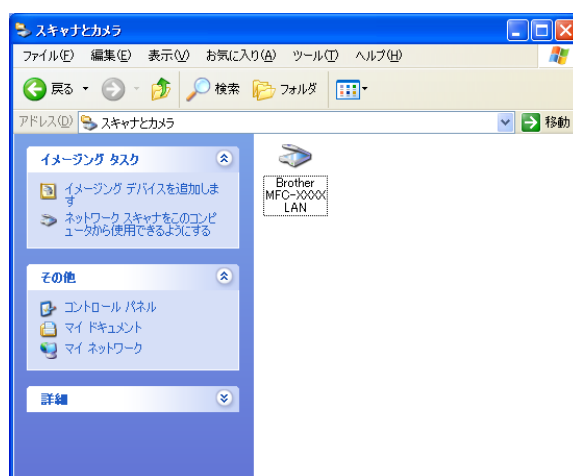
#### 「スキャナとカメラ」アイコン をダブルクリックする

- Windows® XPの場合  
スタートメニューから [コントロールパネル] - ([プリンタとその他のハードウェア]) - [スキャナとカメラ] を選択します。
- Windows® 2000の場合  
スタートメニューから [設定] - [コントロールパネル] - [スキャナとカメラ] を選択します。
- Windows Vista® の場合  
スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックして開き、[ハードウェアとサウンド] をクリックして [スキャナとカメラ] をクリックします。

### 2

#### スキャナのアイコンを選択し、[ファイル] - [プロパティ] をクリックする

- アイコンを右クリックしたポップアップメニューからも操作できます。
- Windows Vista® の場合は、スキャナのアイコンを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



### 補足

Windows Vista®の場合、[ユーザーアカウント制御] 画面が表示されたら次の操作をします。

- 管理者権限でログオンしている場合は、[続行] をクリックします。



- 一般ユーザーとしてログオンしている場合は、パスワードを入力して [OK] をクリックします。

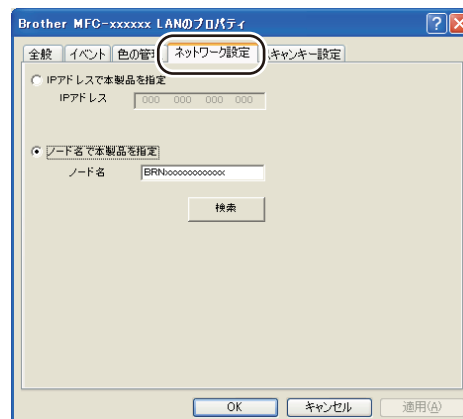




## 3

## 「ネットワーク設定」タブで設定項目を更新する

- IPアドレスを更新する場合  
本製品のIPアドレスを入力します。
- 名前を変更する場合  
本製品のノード名を「ノード名」欄に入力します。
- 使用可能な機器一覧から指定して変更する場合  
[検索] をクリックし、既存のLAN内からネットワークスキャンが使用できるブラザー製品を検索後、指定して [OK] をクリックします。

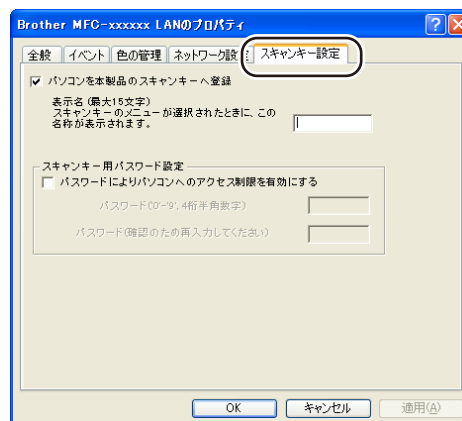


## 補足

本製品のIPアドレス・ノード名は、ネットワーク設定リストを印刷して確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。

## 4

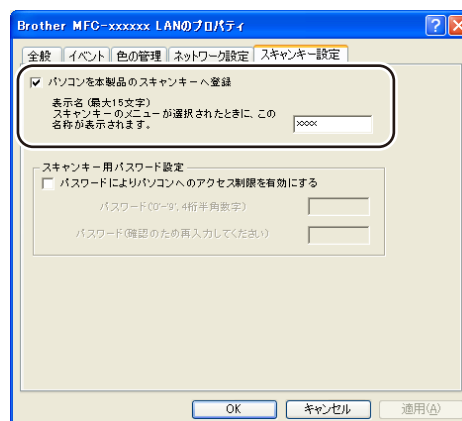
## 「スキャンキー設定」タブをクリックする



## 5

## スキャン画像を取り込むコンピュータ名を登録する

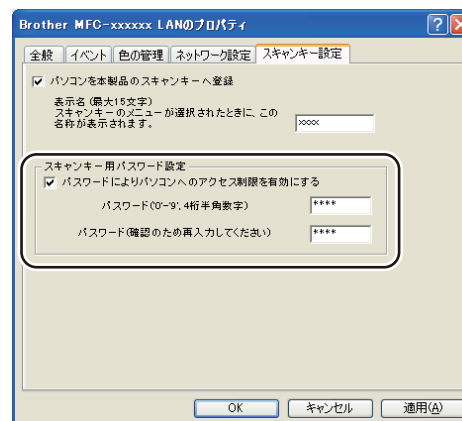
本製品の「スキャン」ボタンを操作した時にコントロールパネル上に表示されるこのコンピュータの名です。初期設定は、お使いのコンピュータ名です。コンピュータ名は、マイコンピュータのプロパティ画面で確認できます。



## 6

**他の人からのアクセス制限をしたい場合は、パスワードを設定する**

パスワードを設定しておく、ネットワークスキャンしたときに本製品側でパスワードを入力しなければスキャン画像が送信できなくなります。



## 7

**[OK] をクリックする**

設定が変更されます。

# ネットワークPCファクス機能を使う

## ネットワークPCファクス機能とは

ネットワークPCファクス機能は、プリンタに印刷する感覚でファクス送信できる機能です。ネットワークPCファクス機能を使うと、コンピュータ上のどのようなアプリケーションからでも本製品から相手先ファクス機器に文書を送信できます。また送付書をつけることも可能で、コンピュータ上で送付先の電話帳を管理できるので非常に便利です。ファクス文書が経由するのは通常の電話線です。

### 補足

本製品では、受信したファクスをコンピュータで確認することもできます。PCファクス機能の詳細な説明については、画面で見るマニュアル（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

## ネットワークPCファクス機能を使う準備

ネットワークPCファクス機能では、アプリケーションから印刷を実行し、ドライバとしてBrother PC -FAXを選択するとPC-FAX ウィンドウが表示されます。このウィンドウで送信先などを設定します。PCファクス機能の詳細な説明については、画面で見るマニュアル（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

### PCファクスの関連付け

1

#### 本製品のプリンタドライバのアイコンを表示する

- Windows® 2000の場合  
スタートメニューから「設定」－「プリンタ」を選択します。
- Windows® XP/Windows Server® 2003の場合  
スタートメニューから「プリンタとFAX」を選択します。
- Windows Vista®/Windows Server® 2008の場合  
スタートメニューから「コントロールパネル」をクリックして開き、[ハードウェアとサウンド] から「プリンタ」をクリックして開きます。

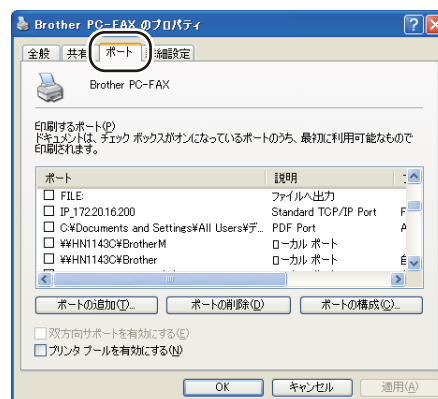
2

#### Brother PC-FAX のアイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする

3

#### 「ポート」タブをクリックし、使用するポートを選択する

複数台のブラザー MFC 製品をご使用の場合は、ネットワーク PC ファクスに使用する MFC 製品をここで指定してください。わからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。



4

#### 「OK」をクリックする

これで設定は完了です。

● ネットワークPCファクスを使用して通常のファクス機器に電話線を通じてファクスを送信する

送信先の欄に送付先のファクス番号を入力するか、またはあらかじめファクス番号を設定したアドレス帳からメンバーを選択してください。

# インターネット印刷を使う

## インターネット印刷とは

Windows® 2000/XP、Windows Vista®, Windows Server® 2003/2008では、IPP (Internet Printing Protocol) を使用すると、インターネットを通じてプリンタに印刷ジョブを送ることができます。

例えば、東京のオフィスにあるコンピュータ上のMicrosoft® Excelアプリケーションソフトのデータを、大阪のオフィスにあるプリンタで印刷することができます。

## インターネット印刷を使う準備

Windows® 2000/XP、Windows Vista®, Windows Server® 2003/2008のIPP(Internet Printing Protocol)を用いたインターネット印刷機能を使用するには、次の手順を実行します。

### 注意

- 本製品のIPアドレス設定が完了し、ネットワークに接続されている必要があります。
- インターネットを経由して遠隔地にある本製品に IPP 印刷機能で印刷する場合は、サーバまたはルータに各種の設定が必要です。
- サーバまたはルータの設定方法や、設定するデータはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

## Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 の場合

1

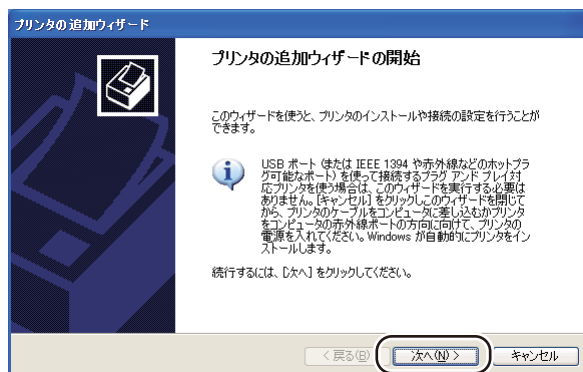
【スタート】メニューから【プリンタとFAX】をクリックし、【プリンタのインストール】をクリックする

- Windows® 2000の場合は、【スタート】メニューから【設定】－【プリンタ】の順にクリックし、【プリンタの追加】をダブルクリックします。

【プリンタの追加ウィザード】が表示されます。

2

【次へ】をクリックする



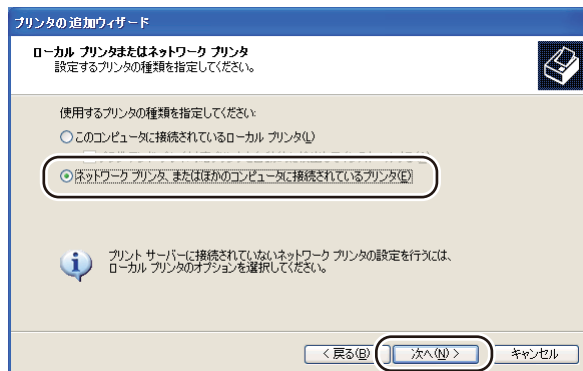
## 3

〔ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ〕をクリックし、〔次へ〕をクリックする

- Windows® 2000の場合は、〔ネットワークプリンタ〕をクリックします。

〔プリンタの指定〕画面が表示されます。

- Windows® 2000の場合は、〔プリンタの検索〕と表示されます。



## 4

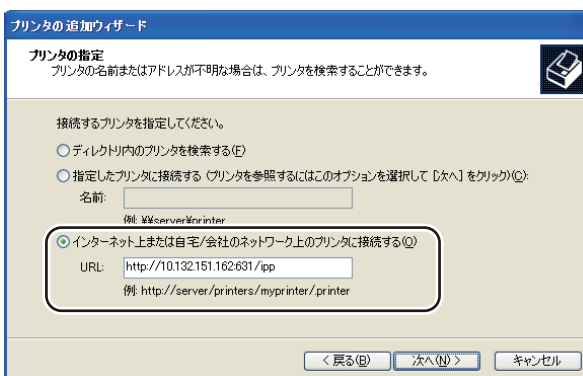
〔インターネット上または自宅 / 会社のネットワーク上のプリンタに接続する〕をクリックし、〔URL〕ボックスに次のURLを入力する

- Windows® 2000の場合は、〔インターネットまたはイントラネット上のプリンタに接続します〕をオンにし、〔URL〕ボックスに次のURLを入力します。

**http://IPアドレス:631/ipp**

〔IP アドレス〕は本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合  
http://192.168.1.3:631/ipp



### 補足

- URLで指定している"631"はIPP標準のポート番号です。
- hostsファイルを編集した場合や、またはDNSサーバを使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。

## 5

〔次へ〕をクリックする

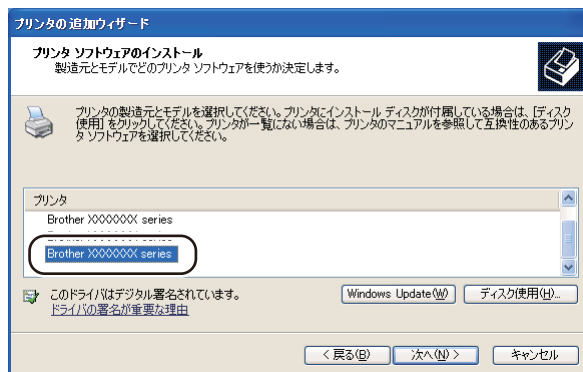
指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合  
適したプリンタドライバがコンピュータにインストールされている場合は、そのドライバが自動的に使用されます。  
すでにインストールされているプリンタドライバを使用するかどうかを選択し、〔次へ〕をクリックします。  
手順8に進んでください。
- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合  
IPP印刷プロトコルのメリットの1つは、通信先のプリンタのモデル名が自動的に確定されることです。プリンタとの通信が確立すると、自動的にプリンタのモデル名が表示されるため、使用するプリンタドライバの種類をWindows® 2000/XP、Windows Server® 2003に対して指定する必要はありません。  
プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタ追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順6に進んでください。

6

**使用するプリンタドライバを指定する**

「ディスク使用」をクリックし、付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットし、「参照」をクリックします。  
プリンタのリストから、本製品のプリンタドライバを選択します。



7

**「次へ」をクリックする**

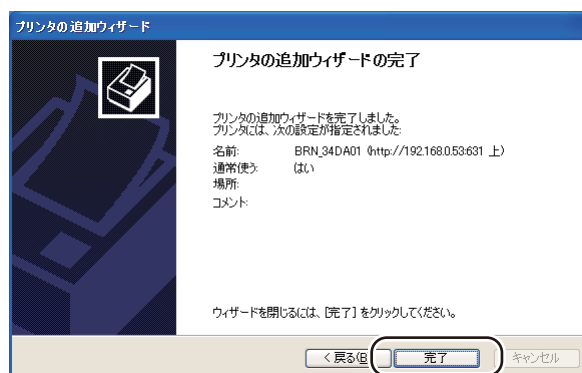
8

複数のプリンタドライバがインストールされている場合は、本製品を通常使うプリンタとして設定するかどうかを選択し、「次へ」をクリックする

9

**「完了」をクリックする**

これで、Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 のインターネット印刷機能の設定は完了しました。  
このコンピュータを経由してインターネット印刷ができます。

**Windows Vista®、Windows Server® 2008の場合**

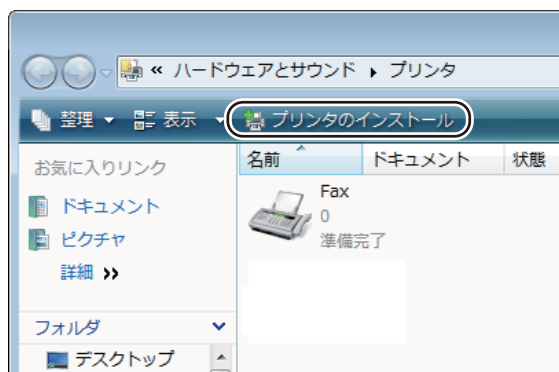
1

「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックし、「ハードウェアとサウンド」の「プリンタ」をクリックする

2

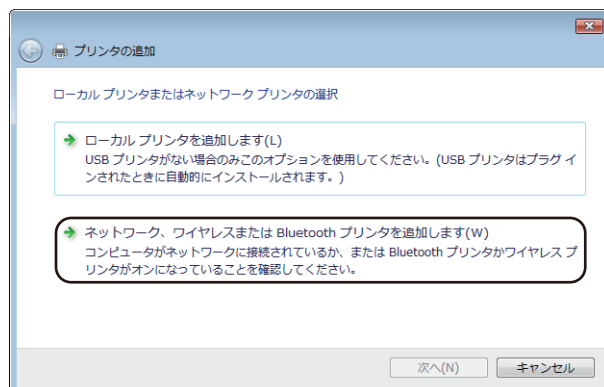
ツールバーの「プリンタのインストール」をクリックする

「プリンタの追加」が表示されます。



3

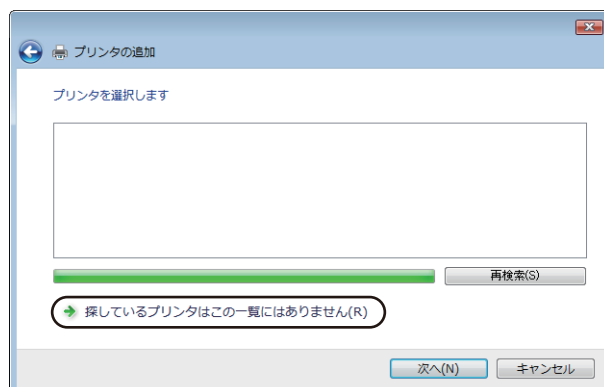
【ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタを追加します】をクリックする



4

【探しているプリンタはこの一覧にありません】をクリックする

【プリンタ名または TCP/IP アドレスでプリンタを検索】が表示されます。

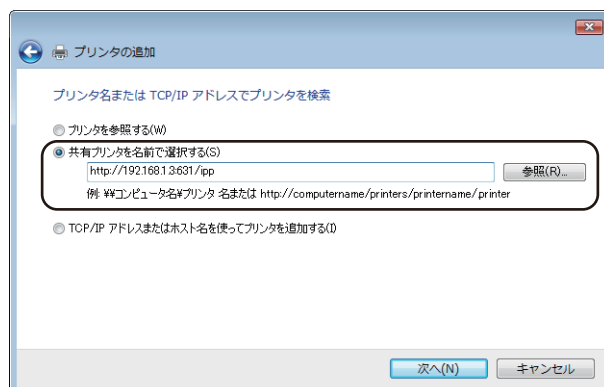


5

【共有プリンタを名前を選択する】をクリックし、ボックスに次の URL を入力する

**http://IPアドレス:631/ipp**

【IP アドレス】は本製品の IP アドレスです。  
例)本製品のIPアドレスが192.168.1.3の場合  
http://192.168.1.3:631/ipp



### 補足

- URLで指定している"631"はIPP標準のポート番号です。
- hosts ファイルを編集した場合や、または DNS サーバを使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。

6

【次へ】をクリックする

指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合  
現在のドライバを使うかどうかを確認するメッセージが表示されます。「現在のドライバを使う（推奨）」を選択し、【次へ】をクリックします。手順10に進んでください。
- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合  
IPP印刷プロトコルのメリットの1つは、通信先のプリンタのモデル名が自動的に確定されることです。プリンタとの通信が確立すると、自動的にプリンタのモデル名が表示されるため、使用するプリンタドライバの種類をWindows Vista®, Windows Server® 2008に対して指定する必要はありません。  
プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタ追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順7に進んでください。



## 7

使用するプリンタドライバを指定し、  
[OK] をクリックする

[ディスク使用] をクリックし、付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットし、[参照] をクリックします。  
プリンタのリストから、本製品のプリンタドライバを選択します。



## 補足

- ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。
- 「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」という警告メッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックし、インストールを続けます。

## 8

## [次へ] をクリックする

## 9

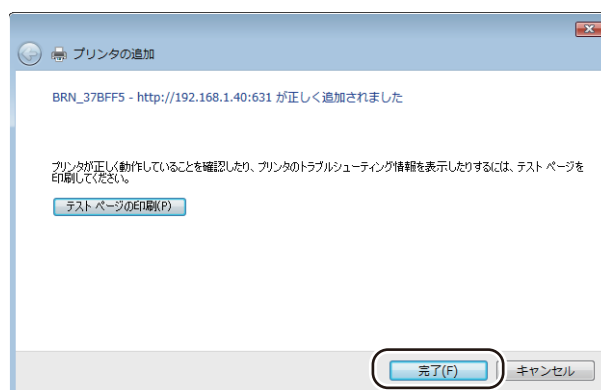
## テストページを印刷する場合は、[テストページの印刷] をクリックする

正しく印刷されたか確認し、[閉じる] をクリックしてください。

## 10

## [完了] をクリックする

これで、Windows Vista®, Windows Server® 2008 のインターネット印刷機能の設定は完了しました。  
このコンピュータを経由してインターネット印刷ができます。



## 別のURLを指定する

[URL] ボックスには、次の何種類かの入力が可能です。

### 補足

「詳細」タブをクリックしても本製品のデータは表示されません。

#### <推奨>

**http://IPアドレス:631/ipp**

このURLの使用をお勧めします。

#### <HP Jetdirect互換用>

**http://IPアドレス:631/ipp/port1**

HP Jetdirect互換のURLです。

#### <詳細不明な場合>

**http://IPアドレス:631/**

URLの詳細を忘れた場合は、このテキストだけでも本製品に受け付けられ、データが処理されます。

#### <NetBIOSプロトコル>

**http://NetBIOS名:631/ipp**

NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。

### 補足

● [IPアドレス] は、本製品のIPアドレスまたはノード名を入力します。

● 本製品は、TCP/IPおよびNetBIOSをサポートしているため、本製品のNetBIOS名を入力することもできます。NetBIOS名は、設定されているノード名と同じです。

NetBIOS名は、ネットワーク設定リストを印刷して確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。ノード名の最初の15文字が割り当てられます。

お買い上げ時のNetBIOS名は、有線LANの場合は“BRNxxxxxxxxxxxx”、無線LANの場合は“BRWxxxxxxxxxxxx”です。([xxxxxxxxxxxx] は MACアドレス (イーサネットアドレス) の 12桁です。)

# 5章

## Macintosh環境で使う

■ ネットワークプリンタとして使う .....	165
Mac OS X 10.5.xの場合 .....	165
Mac OS X 10.3.9~10.4.xの場合 .....	166
■ ネットワークスキャン機能の設定 .....	167
ネットワークスキャン機能とは .....	167
ネットワークスキャン機能を使用する前に .....	167
■ ネットワークPCファクス機能（送信のみ）を使う .....	169
ネットワークPCファクス機能とは .....	169

## ネットワークプリンタとして使う

本製品は、Mac OS X 10.3.9以降でサポートされている簡易ネットワーク設定機能に対応しています。簡易ネットワーク設定機能を使用すれば、ネットワーク上に接続されているプリンタを簡単に使用できるようになります。簡易ネットワーク設定機能を使う前に、プリンタドライバをインストールする必要があります。《かんたん設置ガイド》の手順にしたがってドライバのインストールを進めてください。自動的にネットワークの設定が完了します。IPアドレスや本製品のネットワーク構成を手動で設定する必要はありません。

### Mac OS X 10.5.xの場合

1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

2

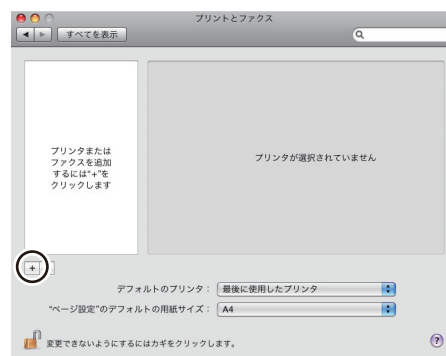
[アップル] メニューの [システム環境設定] を選択し、クリックする

3

[プリントとファクス] をクリックする

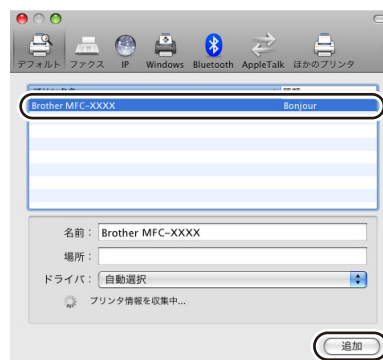
4

[+] をクリックする



5

本製品を選択し、[追加] をクリックする  
本製品が利用できるようになります。



## Mac OS X 10.3.9~10.4.xの場合

1

電源コードが差し込まれていることを確認し、本製品の電源スイッチを ON にする

2

[移動]メニューの[アプリケーション]を選択し、クリックする

3

[ユーティリティ]フォルダをダブルクリックする

4

[プリンタ設定ユーティリティ]アイコンをダブルクリックする

5

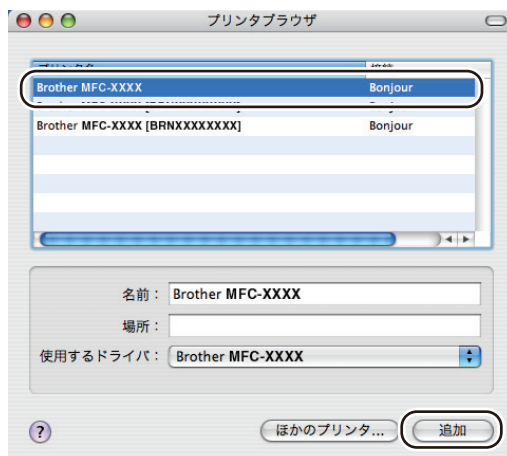
[追加]をクリックする



6

本製品を選択し、[追加] をクリックする  
本製品が利用できるようになります。

Mac OS X 10.4.x




Mac OS X 10.3.9



# ネットワークスキャン機能の設定

## ネットワークスキャン機能とは

ネットワークスキャン機能は、本製品のスキャン機能を使ってネットワーク経由で画像をコンピュータに送ったり、保存したり、またEメールの添付ファイルとして他のコンピュータに送り届けることや、コンピュータからネットワーク経由で本製品から画像を取得することができます。詳しい使い方については、 画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

### 注意


ネットワークスキャン機能を使うには、本製品にTCP/IPの設定をしておく必要があります。

- 操作パネルから設定するには **P.25** を参照してください。  
(ネットワークプリンタとしてのTCP/IP設定がすでに完了していれば設定済みです。)
- ウェブブラウザから設定するには **P.61** を参照してください。

## ネットワークスキャン機能を使用する前に

ネットワークスキャン機能を使うには、まずスキャナドライバをインストールする必要があります。

### スキャナドライバのインストール

付属のCD-ROMに収録されているドライバのインストールが必要です。「かんたん設置ガイド ネットワーク編」に従ってインストールしてください。詳しくは  かんたん設置ガイド ネットワーク編を参照してください。

### 補足

「スキャン to FTP」、「スキャン to ネットワークファイル」機能は、ドライバのインストールを実施しなくても使用することができます。

## 設定の変更

ドライバがすでにインストールされている場合、以下の手順に従って設定をしてください。

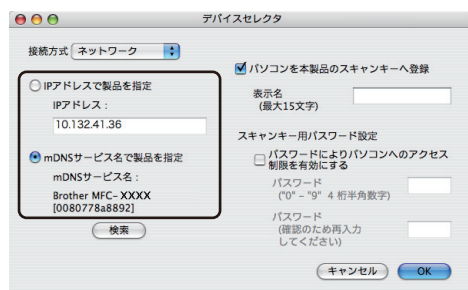
1

【Macintosh HD】 - 【ライブラリ】 - 【Printers】 - 【Brother】 - 【Utilities】 - 【DeviceSelector】 の【デバイスセクタ】をダブルクリックする  
【デバイスセクタ】ウィンドウが開きます。

2

IPアドレスまたは mDNS サービス名を入力する

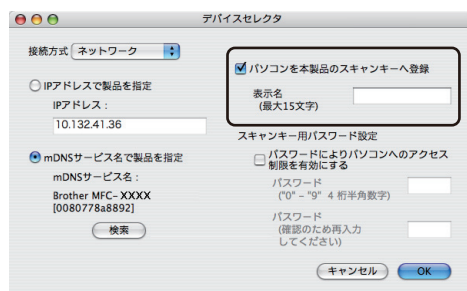
IPアドレスを変更する場合は、新しいIPアドレスを入力します。  
【検索】ボタンをクリックすると、接続可能な製品が表示されますので、表示されるリストから選択することもできます。



## 3

## スキャン画像を取り込むコンピュータ名を登録する

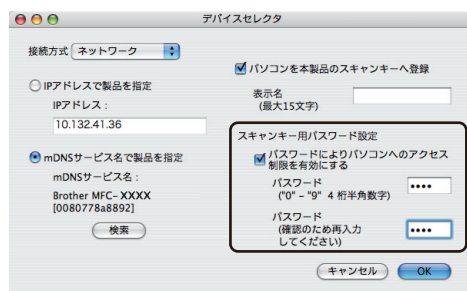
本製品の「スキャン」ボタンを操作した時に本製品の液晶ディスプレイ上に表示されるこのコンピュータ名です。



## 4

## 他の人からのアクセス制限をしたい場合は、パスワードを設定する


パスワードを設定しておく、ネットワークスキャンしたときに本製品側でパスワードを入力しなければスキャン画像が送信できなくなります。



## 5

## [OK] をクリックする

## ネットワークPCファクス機能（送信のみ）を使う

ネットワークPCファクス機能では、アプリケーションの［ファイル］メニューから［プリント］を選び、プリントダイアログで「ファクス送信」を選択するとPC-FAX ウィンドウが表示されます。このウィンドウで送信先などを設定します。PCファクス機能の詳細な説明については、 画面で見るマニュアル（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。

### ネットワークPCファクス機能とは

PCファクス機能を利用すると、コンピュータ上のアプリケーションで作成した印刷データを、ネットワーク上の本製品からファクスとして送信できます。

PCファクスを使うときは、あらかじめMacintoshのアドレス帳に相手先を登録しておく、ファクス送信先を簡単に設定できます。

#### 補足

ファクスの送信手順やアドレス帳の使い方などについては、 画面で見るマニュアル（HTML形式）の「PCファクス」を参照してください。



# 6章

## セキュリティ機能

■ 概要 .....	171
セキュリティ用語 .....	171
セキュリティプロトコル .....	172
Eメール通達のセキュリティを設定する .....	172
■ プロトコルを設定する .....	173
■ ネットワークプリンタを安全に管理する .....	174
ウェブブラウザを使って安全に管理する .....	174
BRAdmin Professionalを使って安全に管理する (Windows®のみ) .....	177
■ IPPSを使って文書を安全に印刷する .....	178
別の URL を指定する .....	178
■ ユーザー認証付 Eメール通達を使用する .....	179
ウェブブラウザを使って POP3/SMTP を設定する .....	179
■ 証明書を作成してインストールする .....	181
証明書設定画面を表示する .....	181
自己署名証明書を作成する .....	183
自己署名証明書をコンピュータにインストールする .....	184
CSRを作成してインストールする .....	194
証明書と秘密鍵をインポート / エクスポートする .....	196

## 概要

コンピュータをネットワークに接続していると、悪意のある第三者によって不正にネットワークにアクセスされてデータや機密情報が読み取られてしまうなどの危険性があります。

本製品は、最新のネットワークセキュリティおよび暗号化プロトコルを使用して、機器への不正アクセスを防止する機能を搭載しています。

この章では、本製品がサポートしているセキュリティプロトコルやその設定方法について説明します。

## セキュリティ用語

### ● 証明機関（CA）

電子的な身分証明書（X.509証明書）を発行し、証明書内の公開鍵などのデータと、その所有者の結び付きを保証する機関です。

### ● CSR（証明書署名要求）

証明書の発行を申請するために、証明機関（CA）に送信するメッセージです。CSRには、申請者を識別する情報、申請者が作成した公開鍵、申請者のデジタル署名が含まれます。

### ● 証明書

公開鍵と本人を結び付ける情報です。証明書を用いて、個人に所属する公開鍵を確認することができます。形式は、x.509規格で定義されています。

### ● デジタル署名

データの受信者がデータの正当性を確認するための情報です。暗号アルゴリズムで計算される値で、データオブジェクトに付加されます。

### ● 公開鍵暗号システム

秘密鍵と公開鍵で一对の鍵になります。暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、それぞれ異なるキーを用いる暗号方法です。

### ● 共有鍵暗号システム

暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、同じキーを用いる暗号方法です。

## セキュリティプロトコル

本製品は、以下のセキュリティプロトコルに対応しています。

### 補足

プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.173 を参照してください。

#### ● SSL (Secure Socket Layer) /TLS (Transport Layer Security)

これらのセキュリティ通信プロトコルは、データを暗号化して、セキュリティを強化します。

#### ● HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) で SSLを用いるインターネットプロトコルです。

#### ● IPPS

インターネット印刷プロトコル (IPPバージョン 1.0) で SSLを用いる印刷プロトコルです。

#### ● SNMPv3

ネットワーク機器を安全に管理するため、ユーザー認証とデータの暗号化を行います。

## Eメール通達のセキュリティを設定する

本製品は、以下の Eメール通達のセキュリティに対応しています。

### 補足

プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.173 を参照してください。

#### ● POP before SMTP (PbS)

クライアントから Eメールを送信する際のユーザー認証方法です。クライアントは、Eメールを送信する前に POP3サーバにアクセスすることによって、SMTPサーバを使用する許可を得ます。

#### ● SMTP-AUTH (SMTP 認証)

クライアントから Eメールを送信する際のユーザー認証方法です。SMTP-AUTHは、SMTP (インターネット Eメール送信プロトコル) を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

#### ● APOP

APOPは、POP3 (インターネット Eメール受信プロトコル) を拡張し、クライアントが Eメールを受信するときに用いるパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

## プロトコルを設定する

ウェブブラウザを使って、各プロトコルおよびセキュリティ方法を有効または無効にできます。

### 補足

- Windows®の場合は Internet Explorer® 6.0以降または Firefox® 1.0以降、Macintoshの場合は Safari®1.3以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびCookieを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品の IPアドレスが必要です。  
本製品のお買い上げ時のユーザー名は “admin” で、パスワードは “access” に設定されています。

1

ウェブブラウザを起動する

2

ウェブブラウザのアドレス入力欄に **http://XXXXX** を入力する

XXXXX はご使用になるプリンタの IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合  
ブラウザに **http://192.168.1.2/** を入力します。

### 補足

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品の NetBIOS 名を入力することもできます。

NetBIOS 名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定リストの出力」**P.60** を参照してください。

お買い上げ時の NetBIOS 名は、ノード名「BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。  
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

3

【ネットワーク設定】をクリックする

4

【ユーザー名】と【パスワード】を入力し、【OK】をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は “admin” で、パスワードは、 “access” に設定されています。

5

【プロトコル設定】をクリックする

6

必要に応じてプロトコルの設定を変更する

7

設定を変更した場合は、【OK】をクリックする

本製品の電源を入れ直した後に、設定が変更されます。

## ネットワークプリンタを安全に管理する

ネットワークプリンタを安全に管理するには、セキュリティプロトコルと合わせて、以下の管理ソフトウェアを使用する必要があります。

- ウェブブラウザ
- BRAdmin Professional **P.177**

### ウェブブラウザを使って安全に管理する

ネットワークプリンタを安全に管理するためには、HTTPSと SNMPv3の使用をおすすめします。HTTPSプロトコルを使用するには、以下の設定が必要です。

- 証明書と秘密鍵をインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」**P.181**を参照してください。
- HTTPS プロトコルを有効にする必要があります。HTTPS プロトコルを有効にするには、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、[プロトコル設定] の [ Web Based Management (Web Server)] の [詳細設定] で、「SSL通信を使う (ポート 443)」を有効にします。[プロトコル設定] ページにアクセスする方法については、「プロトコルを設定する」**P.173**を参照してください。

#### 補足

- Windows®の場合は Internet Explorer® 6.0以降または Firefox® 1.0以降、Macintoshの場合は Safari®1.3以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScriptおよびCookieを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品の IP アドレスが必要です。本製品のお買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。
- Telnet、FTP、TFTPプロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」**P.173**を参照してください。

## 1

### ウェブブラウザを起動する

## 2

### ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://Common\_Name/ を入力する

[Common\_Name] は、IP アドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」**P.181**を参照してください。

例) https://192.168.1.2/ (「Common\_Name」が本製品の IP アドレスである場合)

#### 補足

hostsファイルを編集した場合や、DNS (ドメインネームシステム) を使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよび NetBIOSをサポートしているため、本製品の NetBIOS名を入力することもできます。

NetBIOS名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定リストの出力」**P.60**を参照してください。

お買い上げ時の NetBIOS名は、ノード名「BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。  
(「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス (イーサネットアドレス) の 12桁です。)

3

**HTTPS を使って本製品にアクセスする**

HTTPS プロトコルを使用するときは、SNMPv3 を合わせて使用することをおすすめします。SNMPv3 を使用する場合は以降の手順に従ってください。

**補足**

SNMP設定は BRAdmin Professionalでも変更できます。

4

**【ネットワーク設定】 をクリックする**

5

**【ユーザー名】 と 【パスワード】 を入力し、【OK】 をクリックする**

お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

6

**【プロトコル設定】 をクリックする**

7

**必ず SNMP 設定を有効にし、SNMP の【詳細設定】 をクリックする**

右の画面から SNMP 設定を設定できます。



SNMP動作モードは次の3種類です。

### ● SNMPv3 read-write access

このモードでは、SNMPプロトコルのバージョン 3が使用されます。安全に本製品を管理する場合は、このモードを選択してください。

#### 補足

「SNMPv3 read-write access」を使用する場合は、次の点に注意してください。

- プリントサーバは、BRAdmin Professionalまたはウェブブラウザでのみ管理できます。
- SSL通信（HTTPS）の使用をおすすめします。
- BRAdmin Professional以外では、SNMPv1/v2cを使用するすべてのアプリケーションが制限されます。SNMPv1/v2cで動作するアプリケーションを使用するには、「SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access」または「SNMPv1/v2c read-write access」を使用してください。

### ● SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access

このモードでは、SNMPプロトコルのバージョン 3の読み書きと、バージョン 1および 2cの読み取りが使用されます。

#### 補足

「SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access」を使用する場合は、バージョン 1および 2cの読み取りアクセスではパスワード認証ができないため、BRAdmin Lightなどのブラザーアプリケーションが正しく動作しません。すべてのブラザーアプリケーションを使用する場合は、「SNMPv1/v2c read-write access」を使用してください。

### ● SNMPv1/v2c read-write access

このモードでは、SNMPプロトコルのバージョン 1および 2cが使用されます。すべてのブラザーアプリケーションが使用できます。ただし、ユーザーが認証されず、データが暗号化されないため、安全ではありません。

#### 補足

詳細については、ウェブブラウザの SNMP設定のヘルプ  を参照してください。

## BRAdmin Professionalを使って安全に管理する (Windows®のみ)

BRAdmin Professionalを使って本製品を安全に管理するには、次の点に従ってください。

- BRAdmin Professionalの最新バージョンをご使用されることをおすすめします。  
BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://solutions.brother.co.jp/>）からダウンロードできます。旧バージョンの BRAdmin Professionalを使ってブラザー機器を管理すると、ユーザー認証においてセキュリティ上安全ではありません。
- 旧バージョン※<sup>1</sup>のBRAdminからアクセスすることを避けたい場合は、ウェブブラウザを使って「プロトコル設定」画面の SNMP の「詳細設定」で、旧バージョン※<sup>1</sup>の BRAdminからのアクセスを無効に設定する必要があります。「ウェブブラウザを使って安全に管理する」**P.174** を参照してください。
- Telnet、FTP、TFTPプロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」**P.173** を参照してください。
- BRAdmin Professionalとウェブブラウザを同時にお使いになる場合は、HTTPS プロトコルでウェブブラウザをお使いください。「ウェブブラウザを使って安全に管理する」**P.174** を参照してください。
- 従来のプリントサーバ※<sup>2</sup>と本製品のプリントサーバ（NC-6800h）が混在したグループを BRAdmin Professional で管理している場合は、グループごとに異なるパスワードを使うことをおすすめします。これによって本製品が安全に管理されます。

※<sup>1</sup> Ver. 2.80以前の BRAdmin Professional、Ver. 1.10以前の Macintosh用 BRAdmin Light

※<sup>2</sup> NC-2000シリーズ、NC-2100p、NC-3100s、NC-4100h、NC-5100h、NC-5200h、NC-6100h、NC-6200h、NC-6300h、NC-6400h、NC-8000、NC-100h、NC-110h、NC-130h、NC-8100h、NC-9100h



## IPPSを使って文書を安全に印刷する

文書を暗号化し、インターネットを経由して安全に印刷するには、IPPSプロトコルを利用します。

### 注意

IPPSを使用した通信では、本製品への不正アクセスを防止することはできません。

### 補足

IPPSは、Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista®で利用できます。

IPPSプロトコルを使用するには、以下の設定が必要です。

- 証明書と秘密鍵をインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」[P.181](#)を参照してください。
- IPPSプロトコルを有効にする必要があります。IPPSプロトコルを有効にするには、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、[プロトコル設定] の [IPP] の [詳細設定] で、「SSL 通信を使う (ポート 443)」を有効にします。本製品の [プロトコル設定] ページにアクセスする方法については、「プロトコルを設定する」[P.173](#)を参照してください。

IPPS印刷の基本的な手順は、IPP印刷と同じです。詳細については、「インターネット印刷を使う」[P.158](#)を参照してください。

## 別の URL を指定する

URL 欄には、下記の入力が可能です。

### 補足

[詳細] タブをクリックしても本製品のデータは表示されません。

**https://Common\_Name/ipp**

推奨 URL です。

**https://Common\_Name/ipp/port 1**

HPJetdirect用の URL です。

**https://Common\_Name/**

URLの詳細を忘れた場合は、上記のテキストだけでも本製品に受け付けられ、データが処理されます。

[Common\_Name] (コモンネーム) は、IPアドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」[P.181](#)を参照してください。

例) https://192.168.1.2/ (「コモンネーム」が本製品の IPアドレスである場合)  
https://BRNxxxxxxxxxxxx/ (「コモンネーム」が本製品のホスト名である場合)  
「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス (イーサネットアドレス) の 12桁です。

## ユーザー認証付 Eメール通達を使用する

ユーザー認証を必要とする SMTPサーバを経由して、Eメール通達機能を使用するには、「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法を使用する必要があります。これらの方法は、無許可のユーザーがメールサーバに不正アクセスすることを防ぎます。ウェブブラウザおよび BRAdmin Professionalを使用して設定することができます。

### 補足

POP3/SMTP認証の設定を Eメールサーバのいずれかに合わせる必要があります。使用前の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。Eメール通達機能は、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、[Eメール通達 (エラー情報)] から設定してください。

## ウェブブラウザを使って POP3/SMTPを設定する

1

ウェブブラウザを起動する

2

ウェブブラウザのアドレス入力欄に `http://XXXXX` を入力する

XXXXX はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IPアドレスが 192.168.1.2の場合  
ブラウザに `http://192.168.1.2/` を入力します。

### 補足

hosts ファイルを編集した場合や、DNS (ドメインネームシステム) を使用している場合は、IPアドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IPおよび NetBIOSをサポートしているため、本製品の NetBIOS名を入力することもできます。

NetBIOS名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。

お買い上げ時の NetBIOS名は、ノード名「BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。  
(「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス (イーサネットアドレス) の 12桁です。)

3

[ネットワーク設定] をクリックする

4

[ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は “admin” で、パスワードは、“access” に設定されています。

5

[プロトコル設定] をクリックする

6

POP3/SMTP 設定を必ず有効にし、[POP3/SMTP 詳細設定] をクリックする

## 7

## POP3/SMTP の設定を変更する

brother.  
MFC-XXXX

- ホームページ
- メンテナンス情報
- リストとレポート
- デバイスの検索
- 管理を決定
- ネットワーク設定
- 基本設定
- ファクス設定
- インターネットファクス設定
- モニター設定
- プリンタ設定
- USBダイレクト

Brother Solutions Center

ネットワーク設定

POP3/SMTP設定

状態: 有効

送信メールサーバ (SMTP): 0.0.0.0

SMTPポート: 25

送信メールサーバ (SMTP) 認証方式: ☒ 認証なし  
☐ SMTP-AUTH  
☐ POP before SMTP

SMTP-AUTHアカウント名:

SMTP-AUTHアカウントパスワード:

パスワード設定:

パスワード確認:

プリンタのメールアドレス: brn001ba900809@example.com

受信メールサーバ (POP3): 0.0.0.0

POP3ポート: 110

アカウント名 (ユーザ名):

パスワード:

パスワード設定:

パスワード確認:

☐ APOPを使用

分割メッセージタイムアウト: 120 分

インターネット FAX 設定

キャンセル OK

Copyright (C) 2000-2009 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved

## 補足

- ウェブブラウザで SMTP ポート番号も変更できます。これは、ご使用の ISP（インターネットサービスプロバイダ）が「Outbound Port 25 Blocking (OP25B)」サービスを実施している場合に便利です。SMTPポート番号を ISPが SMTPサーバで使用している特有の番号（例：ポート 587）に変更することで、SMTPサーバ経由で Eメールを送信できるようになります。SMTPサーバ認証を有効にする場合は、「送信メールサーバ (SMTP) 認証方式」の「SMTP-AUTH」を選択する必要があります。
- 「POP before SMTP」と「SMTP-AUTH」の両方を使える場合は、「SMTP-AUTH」を選択することをおすすめします。
- 「送信メールサーバ (SMTP) 認証方式」を「POP before SMTP」に設定すると、「受信メールサーバ (POP3)」の設定が必要となります。また、「APOPを使用」をチェックして、APOP方式を使用することもできます。
- 詳細については、ウェブブラウザの POP3/SMTP設定のヘルプ ? を参照してください。
- 設定後にテストメールを送信し、Eメール設定が正しいことを確認してください。

## 8

## 設定を変更した場合は、[OK] をクリックする

テストメール送信設定画面が表示されます。

## 9

## 現在の設定をテストしたい場合は、画面上の指示に従う

## 証明書を作成してインストールする

本製品では、証明書と該当する秘密鍵を設定することによって、SSL/TLS通信を行うことができます。本製品は、自己署名証明書と証明機関（CA）発行の証明書の2種類の証明書に対応しています。

### ● 自己署名証明書を使用する

本製品自ら証明書を発行します。証明機関（CA）から証明書を取得することなく、この証明書を用いて、簡単にSSL/TLS通信を行うことができます。「自己署名証明書を作成する」**P.183**を参照してください。

### ● 証明機関（CA）発行の証明書を使用する

既に証明機関（CA）を持っている場合、または外部の信頼された証明機関（CA）が発行した証明書を使用したい場合は、次の2つのインストール方法があります。

- ・ 本製品からCSR（証明書署名要求）を送信するには、「CSRを作成してインストールする」**P.194**を参照してください。
- ・ 証明書と秘密鍵をインポートするには、「証明書と秘密鍵をインポートする」**P.196**を参照してください。

### 補足

- SSL/TLS通信を行う場合は、あらかじめシステム管理者にお問い合わせいただくことをおすすめします。
- 本製品は、インストールした、または以前にインポートした一对の証明書と秘密鍵のみを保存します。新しいものをインストールすると、古い証明書と秘密鍵に上書きされます。
- 本製品を工場出荷時の設定にリセットすると、インストールした証明書と秘密鍵は削除されます。本製品をリセットした後も、同じ証明書と秘密鍵を使用したい場合は、リセットする前にエクスポートしておいてください。「証明書と秘密鍵をエクスポートする」**P.197**を参照してください。

## 証明書設定画面を表示する

証明書機能は、ウェブブラウザのみで設定できます。ウェブブラウザを使用して証明書設定画面を表示する場合は、次の手順に従ってください。

1

### ウェブブラウザを起動する

2

### ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://XXXXX を入力する

XXXXX はご使用になる本製品の IP アドレスです。

例) 本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合  
ブラウザに http://192.168.1.2/ を入力します。

### 補足

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力します。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品の NetBIOS 名を入力することもできます。

NetBIOS 名は、ネットワーク設定リストに表示されます。ネットワーク設定リストの印刷方法については、「ネットワーク設定内容リストの出力」**P.60**を参照してください。

お買い上げ時の NetBIOS 名は、ノード名「BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。  
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

3

### 【ネットワーク設定】をクリックする

4

[ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] をクリックする

お買い上げ時のユーザー名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

5

[証明書設定] をクリックする

右の画面から証明書を設定できます。

brother  
MFC-XXXX

- ホームページ
- メンテナンス情報
- リストとレポート
- デバイスの検索
- 管理者設定
- ネットワーク設定

- 基本設定
- ファクスの設定
- インターネットファクス設定
- コピー設定
- プリンタ設定
- USBダイレクト

Brother Solutions Center

ネットワーク設定


証明書設定

証明書の状態: インストールされていません

- SSL使用機能/プロトコルの設定
- 自己署名証明書の作成
- CSRの作成
- 証明書のインストール
- 証明書と秘密鍵のインポート
- 証明書と秘密鍵のエクスポート
- 証明書の表示

Copyright(C) 2000-2009 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved

補足

- リンクされていないグレー表示の機能は、利用できません。
- 詳細については、ウェブブラウザの証明書設定ページのヘルプを参照してください。

## 自己署名証明書を作成する

1

証明書設定画面の「自己署名証明書の作成」をクリックする

2

コモンネームと有効期限を入力して、[OK] をクリックする

「データ書き込み中」と表示されます。



### 補足

- コモンネームは、64 バイト未満にしてください。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IP アドレス、ノード名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時はノード名が設定されています。
- IPPS または HTTPS プロトコルを使用している場合に、自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前を URL に入力すると警告画面が表示されます。

3

[OK] をクリックする

「自己署名証明書を作成しました」と表示されます。



4

表示された画面の指示に従って「SSL 使用機能プロトコルの設定」を設定する

- ・ 設定が終了すると、本製品が自動的に再起動し、自己署名証明書が本製品のメモリに保存されます。
- ・ SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも自己署名証明書をインストールする必要があります。次の「自己署名証明書をコンピュータにインストールする」P.184 に進んでください。

## 自己署名証明書をコンピュータにインストールする

### 補足

以下の手順は、Internet Explorer®を例にしています。他のウェブブラウザを使用している場合は、ウェブブラウザ自身のヘルプに従ってください。

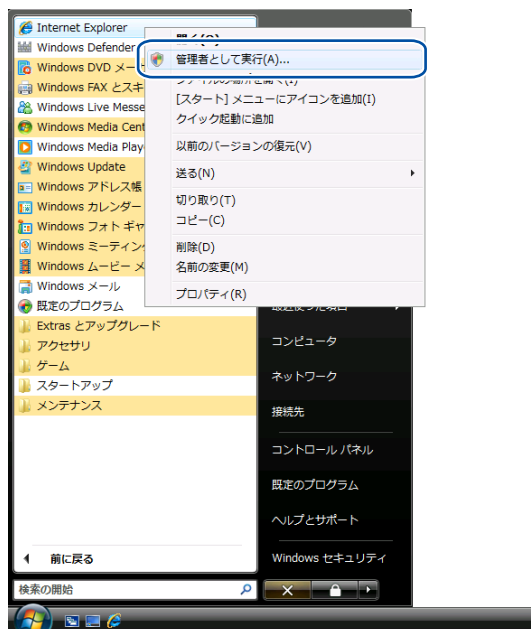
### 管理者アカウントで Windows Vista®をご使用の場合

1

【スタート】メニューから「すべてのプログラム」をクリックする

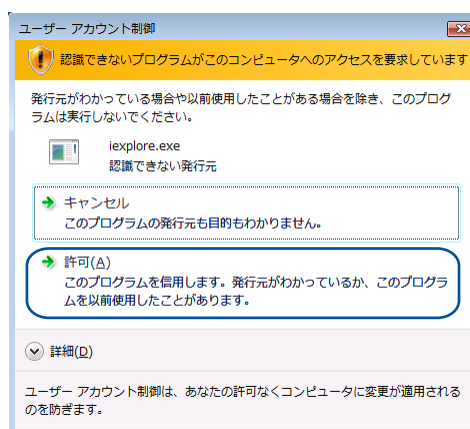
2

【Internet Explorer】を右クリックし、  
【管理者として実行】をクリックする



3

この画面が表示されたら、【許可】をクリックする

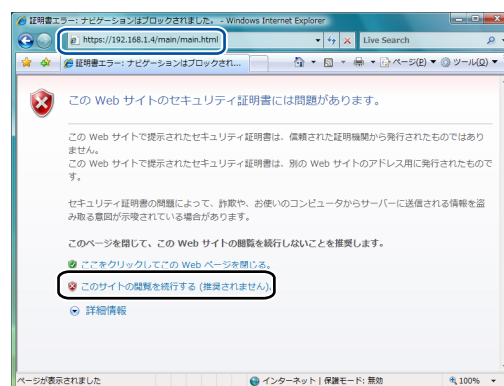


4

## ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://XXXXX を入力する

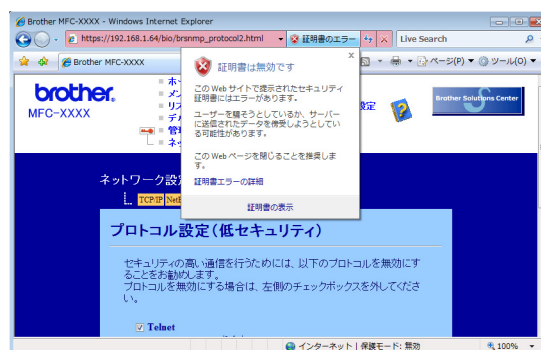
XXXXX はご使用になる本製品の IP アドレスまたは  
ノード名です。

次に、「このサイトの閲覧を続行する（推奨  
されません）」をクリックする



5

## 【証明書エラー】をクリックし、次に【証明 書の表示】をクリックする



6

## 「Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008 をご使用の場合」の手順 4 P.191 に進む



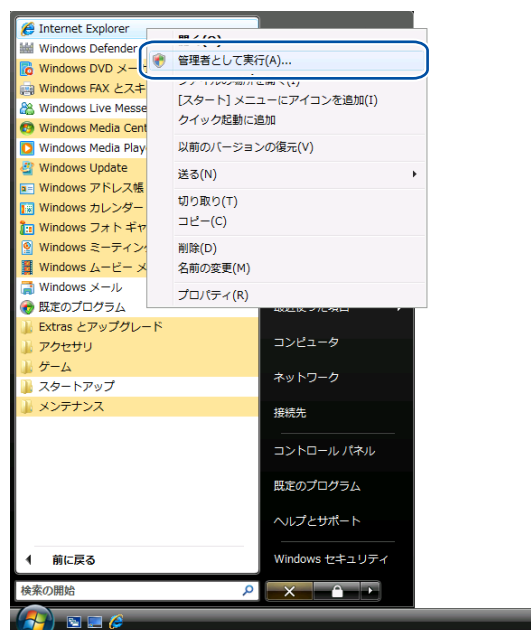
## 管理者ではないアカウントで Windows Vista®をご使用の場合

1

【スタート】メニューから「すべてのプログラム」をクリックする

2

【Internet Explorer】を右クリックし、  
【管理者として実行】をクリックする



3

この画面が表示されたら、管理者アカウントの  
パスワードを入力して、【OK】をクリックする

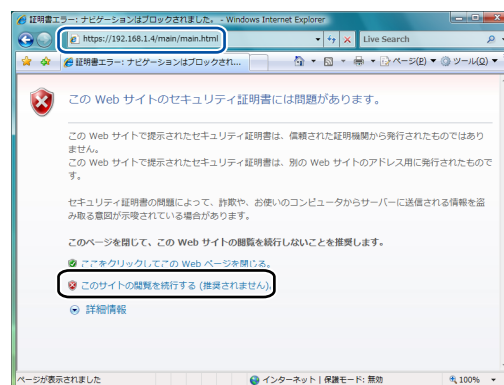


4

## ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://XXXXX を入力する

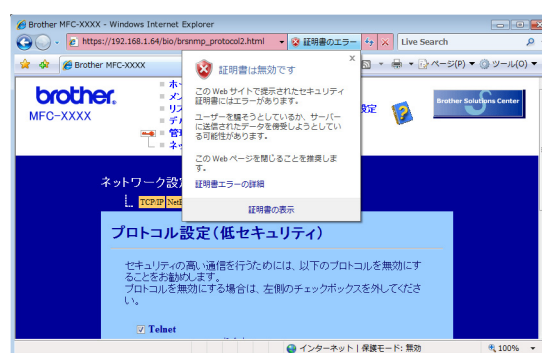
XXXXX はご使用になる本製品の IP アドレスまたは  
ノード名です。

次に、「このサイトの閲覧を続行する（推奨  
されません）」をクリックする



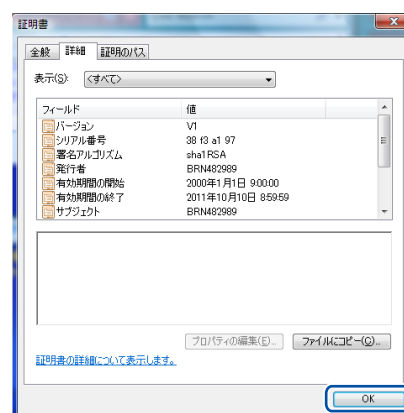
5

## 【証明書のエラー】をクリックし、次に【証明 書の表示】をクリックする



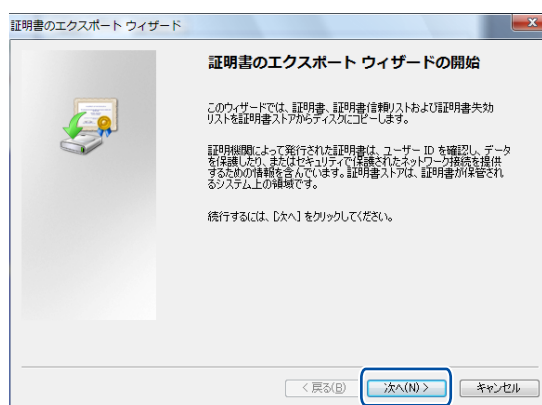
6

## 【詳細】タブを選択し、【ファイルにコピー】を クリックする



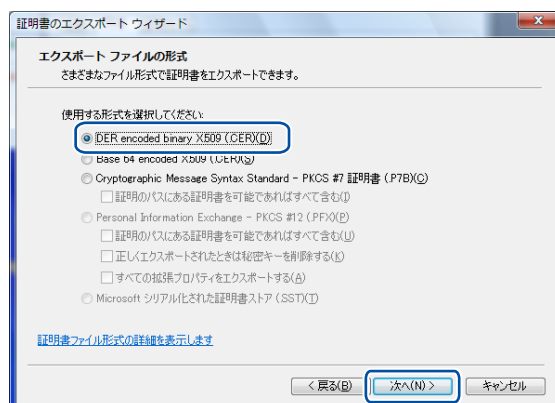
7

## 【次へ】をクリックする



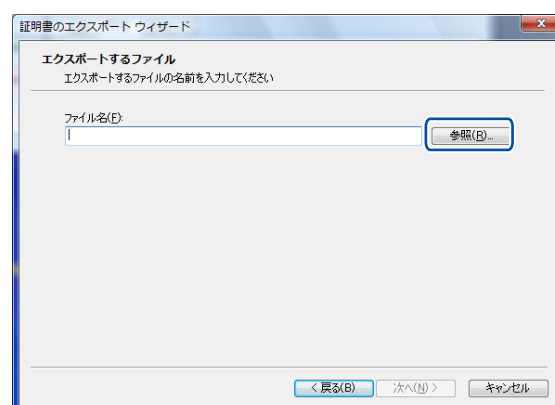
8

「DER encoded binary X.509 (.CER)」が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックする



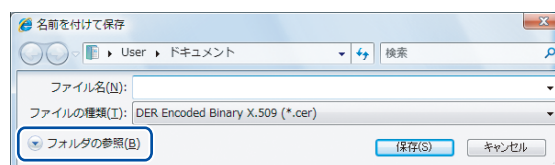
9

[参照] をクリックする



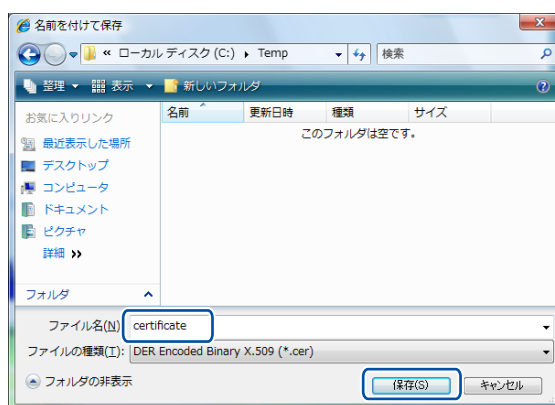
10

[フォルダの参照] をクリックする



11

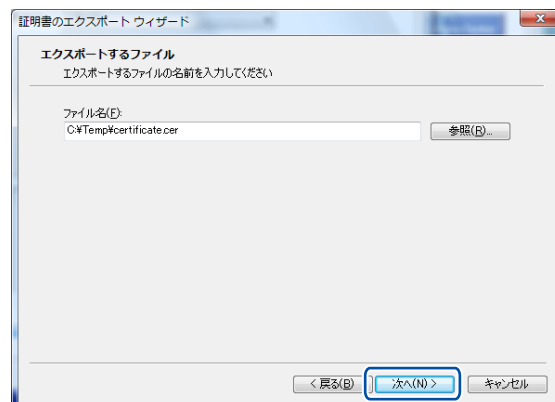
証明書ファイルを保存したいフォルダを選択し、ファイル名を入力して、[保存] をクリックする



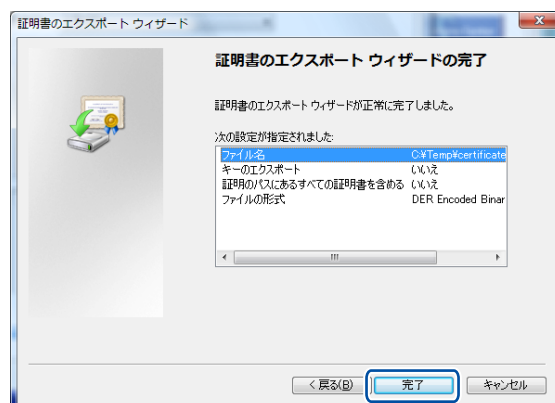
### 補足

デスクトップを選択した場合は、選択したユーザーアカウントのデスクトップに保存されます。

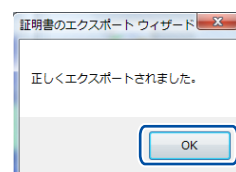
## 12 [次へ] をクリックする



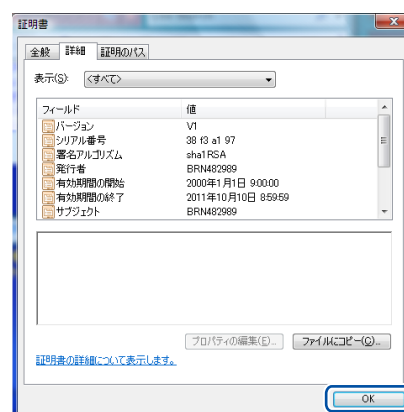
## 13 [完了] をクリックする



## 14 [OK] をクリックする

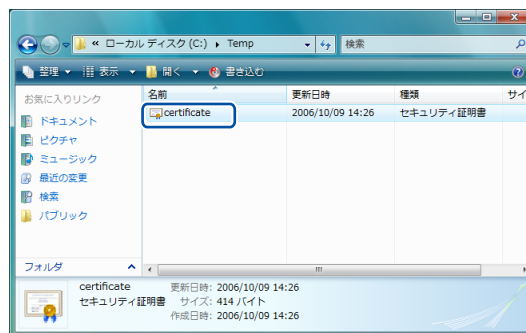


## 15 [OK] をクリックする



## 16

手順 11 で証明書ファイルを保存したフォルダを開き、証明書ファイルをダブルクリックする



## 17

「Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008 をご使用の場合」の手順 4  
P.191 に進む

## Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008をご使用の場合

1

ウェブブラウザを起動する

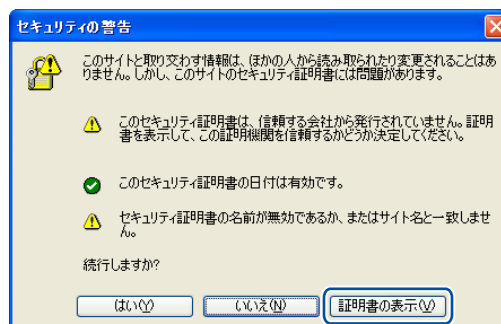
2

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://XXXXX を入力する

XXXXX はご使用になる本製品の IP アドレスまたはノード名です。

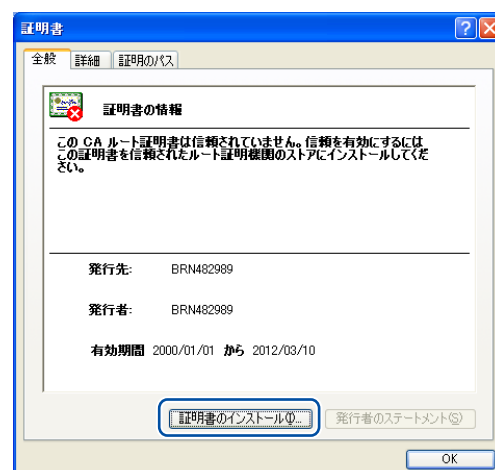
3

【証明書の表示】をクリックする



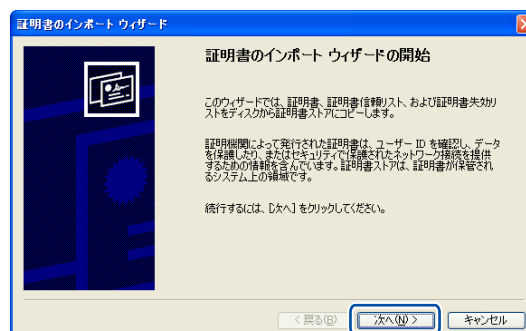
4

【全般】タブで【証明書のインストール】をクリックする

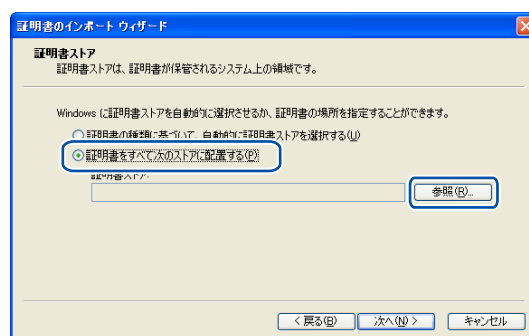


5

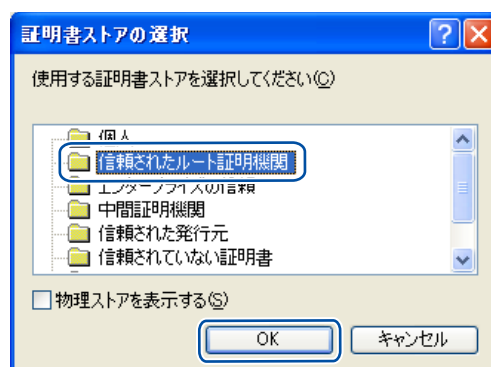
【次へ】をクリックする



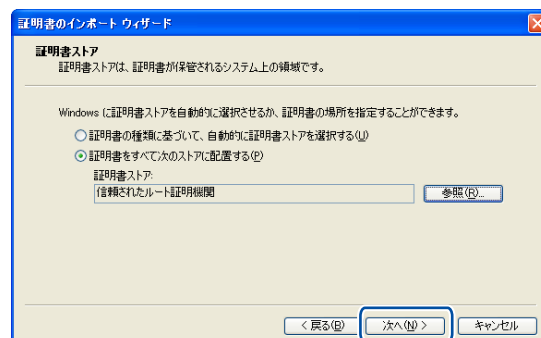
## 6 「証明書をすべて次のストアに配置する」を選択し、[参照] をクリックする



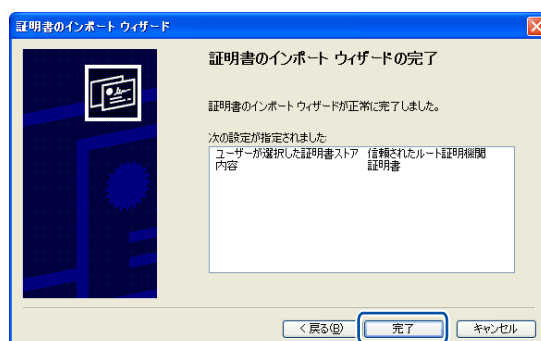
## 7 「信頼されたルート証明機関」を選択し、[OK] をクリックする



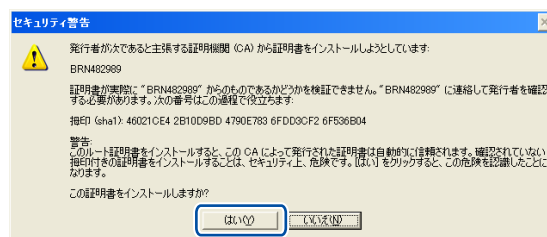
## 8 [次へ] をクリックする




## 9 [完了] をクリックする



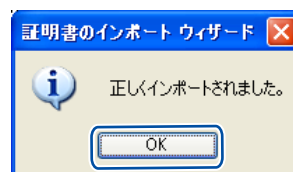
## 10 フィンガープリント（拇印プリント）が正しければ、[はい] をクリックする



### 補足

フィンガープリント（拇印プリント）は、プリンタ設定一覧で印刷されます。プリンタ設定一覧の印刷方法については、 画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

## 11 [OK] をクリックする



## 12 自己署名証明書がコンピュータにインストールされ、SSL/TLS 通信が可能になる



## CSRを作成してインストールする

### CSRを作成する

#### 1 証明書設定画面の【CSRの作成】をクリックする

#### 2 コモンネームと組織などの情報を入力して、[OK] をクリックする

##### 補足

- CSR を作成する前に、証明機関（CA）発行のルート証明書を、お使いのコンピュータにインストールすることをおすすめします。
- コモンネームは、64 バイト未満にしてください。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IP アドレス、ノード名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時の設定として、ノード名が表示されます。コモンネームは必須入力項目です。
- 自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前を URL に入力すると、警告画面が表示されます。
- 組織、部署、市、県の長さは、64 バイト未満にしてください。
- 国 / 地域は、二文字からなる ISO 3166 国コードを使用してください。

#### 3 CSR の内容が表示されたら【保存】をクリックし、CSR ファイルをコンピュータに保存する

#### 4 CSR が作成される

##### 補足

- CSR を証明機関（CA）に送信する方法については、証明機関（CA）の方針に従ってください。
- Windows Server® 2003/2008 の「エンタープライズのルート CA」をご使用の場合は、証明書の作成時に「証明書テンプレート」の「Web サーバー」を選択することをおすすめします。
- 詳細については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://solutions.brother.co.jp/>）を参照してください。

## 証明書インストールする

証明機関（CA）から証明書を受け取ったら、以下の手順に従って本製品にインストールしてください。



本製品のCSRで発行された証明書以外はインストールできません。



証明書設定画面の【証明書のインストール】をクリックする



証明機関（CA）が発行した証明書のファイルを指定し、[OK] をクリックする



証明書が正しく作成される



他の証明設定を作成する場合は、画面の指示に従う



本製品の電源を入れ直す



証明書が本製品にインストールされる

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも証明機関（CA）発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## 証明書と秘密鍵をインポート / エクスポートする

### 証明書と秘密鍵をインポートする

- 1 証明書設定画面の【証明書と秘密鍵のインポート】をクリックする
- 2 インポートしたいファイルを指定する
- 3 ファイルが暗号化されている場合は、パスワードを入力し、[OK] をクリックする
- 4 証明書と秘密鍵が正しく作成される
- 5 他の証明設定を作成する場合は、画面の指示に従う
- 6 本製品の電源を入れ直す
- 7 証明書と秘密鍵が本製品にインポートされる  
SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも証明機関（CA）発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## 証明書と秘密鍵をエクスポートする

1

証明書設定画面の「証明書と秘密鍵のエクスポート」をクリックする

2

ファイルを暗号化したい場合は、パスワードを入力し、[OK] をクリックする

**注意**

パスワードが空白のままだと、暗号化されません。

3

確認のため、再度パスワードを入力し、[OK] をクリックする

4

ファイルを保存したい場所を指定する

5

証明書と秘密鍵がコンピュータにエクスポートされる

**補足**

エクスポートしたファイルをインポートすることもできます。

# 7章

## 困ったときは（トラブル対処方法）

■ 概要 .....	199
■ 無線LANアクセスポイントに接続できない .....	200
■ インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない .....	201
■ 印刷/ スキャンできない .....	202
■ ネットワーク機器に問題ないか調べるには .....	203
セキュリティソフトウェアについて .....	204
■ ネットワークの設定がうまくいかないときは .....	205
コンピュータのネットワーク情報を調べる .....	205
本製品のネットワーク情報を調べる .....	206
コンピュータのIPアドレスと本製品のIPアドレスを比較する .....	207
本製品のIPアドレス取得方法を確認する .....	208
ドライバの再インストールをする .....	208

# 概要

この章では、ネットワークに関してトラブルが発生したときの対応方法について説明しています。  
該当する問題のページをご覧ください。

- 無線LANで無線LANアクセスポイントと接続できない **P.200**
- インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない **P.201**
- 印刷/ スキャンできない **P.202**
- ネットワーク機器に問題ないか調べるには **P.203**
- ネットワークの設定がうまくいかないときは **P.205**

本書の使い方  
目次

ネットワークで  
使う前に

ネットワークの設定

無線LANの設定

Windows®環境で  
使う

Macintosh®環境で  
使う

セキュリティ機能

困ったときは  
（トラブル対処方法）

付録

## 無線LANアクセスポイントに接続できない

以下を確認してください。

### 無線LANアクセスポイントと本製品が離れ過ぎていませんか？間に障害物はありませんか？

本製品を見通しの良い場所へ移動させたり、無線LANアクセスポイントに近づけてください。

セットアップ時は1m以内に近づけてください。

### 近くに無線LANに影響を及ぼすものはありますか？

本製品の近くに、他の無線LANアクセスポイントやコンピュータ、Bluetooth対応機器、電子レンジ、デジタルコードレス電話がある場合は離してください。

以下の場合、お使いのブロードバンドルータなどのメーカーにお問い合わせください。

### 無線LANアクセスポイントが正常に動作していますか？


無線LANでインターネットに接続できるかお試しください。

接続できない場合は、無線LANアクセスポイントが正常に動作していない可能性があります。

### アクセス制限を設定していませんか？

本製品のIPアドレスを無線LANアクセスポイントに登録して、通信を許可してください。

## 補足

本製品のMACアドレスを調べるには、ネットワーク設定リストを印刷して **P.60**、「MAC Address」の行を確認してください。詳しくは  **かんたん設置ガイド**を参照してください。

### SSID（ネットワーク名）を表示させない設定にしていますか？

無線LANアクセスポイントのステルス（SSIDの隠ぺい）機能を使用しているときは、本製品がSSIDを自動的に見つけることはできません。下記の手順にしたがって、本製品のSSIDを操作パネルから入力してください。

1

メニュー、**7** PORS、**2** ABC、**2** ABC の順に押す

 または  で選択して  で決定することも可能です。

2

 または  で **[New SSID]** を選択し、 を押す

3

SSIDを操作パネルから入力する

### 暗号化キーやパスワードの設定は正しいですか？

大文字、小文字は区別されます。認証されないときは、パスワードが間違っていないか確認してください。

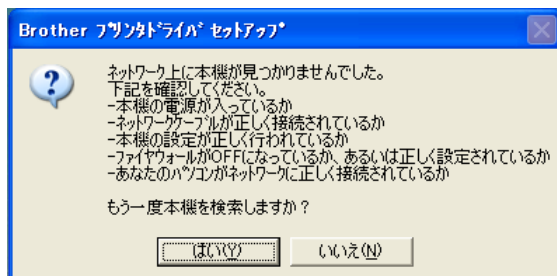
### 近くで別の無線機器を使用していませんか？

マンションやアパートでご近所に既に別の無線機器が導入されているときは、干渉を避ける為、相手の無線機器が使用しているチャンネル番号から5ch 離して設定してください。

## インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない

### 注意

■以下の画面が表示されたときは、記載内容を確認し、[はい] をクリックして再度検索を行います。



■それでも検索されない場合は、[いいえ] をクリックし、表示される画面の指示にしたがって、IP アドレスなどを設定してください。

以下の項目を確認してください。


- 1** お使いのコンピュータから本製品までの接続機器が正常に稼動しているか確認する  
「ネットワーク機器に問題ないか調べるには」 **P.203**
- 2** セキュリティソフトによってブロックされていないか確認する  
「セキュリティソフトウェアについて」 **P.204**
- 3** 設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないか確認する  
「ネットワークの設定がうまくいかないときは」 **P.205**



## 印刷/ スキャンできない

以下の項目を確認してください。

- 1 **お使いのコンピュータから本製品までの接続ケーブルや接続機器が正常に動作しているか確認する**  
「ネットワーク機器に問題ないか調べるには」 **P.203**
- 2 **セキュリティソフトによってブロックされていないか確認する**  
「セキュリティソフトウェアについて」 **P.204**
- 3 **設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないかを確認する**  
「ネットワークの設定がうまくいかないときは」 **P.205**
- 4 **ルータやスイッチングハブの電源を入れなおす**  
頻繁に接続しなおしたり、接続している製品の IP アドレスを繰り返し変更した直後には、IP アドレス設定に間違いがなくても正常に動作しない可能性があります。ルータやハブ（HUB）の電源を入れなおしてください。
- 5 **古い印刷ジョブを削除する**  
印刷に失敗した古いデータが残っていると印刷できない場合があります。プリンタフォルダ内のプリンタアイコンをダブルクリックし、[プリンタ] メニューから [すべてのドキュメントの取り消し] を行ってください。  
プリンタフォルダの表示方法
  - Windows Vista®の場合  
[スタート] – [コントロールパネル] – [ハードウェアとサウンド] – [プリンタ] の順にクリックします。
  - Windows® XPの場合  
[スタート] – [コントロールパネル] – [プリンタとその他のハードウェア] – [プリンタとFAX] の順にクリックします。
  - Windows® 2000の場合  
[スタート] – [設定] – [プリンタ] の順にクリックします。

ここで印刷/ スキャンなどができなかった場合は、一度ドライバとソフトウェアをアンインストールして、 **かんたん設置ガイド ネットワーク編**に従って、再度インストールしなおすことをおすすめします。

### 補足


アンインストールの方法（Windows®の場合）

[スタート] メニューから、[すべてのプログラム（プログラム）] – [Brother] – [MFC-XXXX] を選び、[アンインストール] をクリックします。画面の指示に従ってアンインストールをしてください。

## ネットワーク機器に問題ないか調べるには

お使いのコンピュータから本製品までの接続機器が正常に稼働しているか、以下の点を確認してください。

### 本製品の電源は入っていますか？

電源を入れて、印刷できる状態であることを確認します。エラーが出ている場合は  ユーザーズガイド基本編の「こんなときは」を参照してエラーを解除してください。

### 有線 LAN の場合

接続したルータやハブ（HUB）のランプは点灯 / 点滅していますか？

本製品を接続しているLAN ポートのリンクランプを確認します。

- ランプが点灯 / 点滅している場合  
接続には問題ありません。
- ランプが点灯 / 点滅していない場合

物理的な接続に問題があるようです。以下の項目を確認してください。

**1**

### ハブ（HUB）またはルータなどの LAN ポートにコンピュータと本製品が正しく接続されている？

接続されていない場合は正しく接続しなおしてください。ストレートケーブル以外は使用しないでください。他のケーブルで接続しなおしてください。

**2**

### ルータ / ハブ（HUB）のリンクランプが点灯 / 点滅している？

一般的に、ルータ / ハブ（HUB）には接続状態を示すリンクランプがあり、点灯 / 点滅で接続状態を確認できます。

点灯 / 点滅していない場合には

- ほかのLAN ポートに接続しなおす
- ほかのLAN ケーブルに差し換える  
ことで改善されるかお試しください。

それでも点灯 / 点滅しない場合は、ハブ（HUB）または、ルータのメーカーにご相談ください。

## セキュリティソフトウェアについて

### インストール

市販のセキュリティソフトでパーソナルファイアウォール機能が有効に設定されていると、インストール中にセキュリティの許可を促す画面が表示されることがあります。この場合は許可をしてください。

### 注意

セキュリティ許可を促す画面で、拒否をするとインストールが完了できないことがあります。この場合は、一時的にセキュリティソフトを停止し、ドライバのインストールをやり直してください。

### 印刷やその他の機能をご利用になるとき

インストール完了後、印刷やその他の機能をご使用になるときに、セキュリティ許可を促す画面が表示されることがあります。この場合も許可してください。

拒否をした場合、セキュリティの解除方法については、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書をご確認いただくか、またはセキュリティソフト提供元にお問い合わせください。

### 本機のネットワーク機能をご利用になるとき

以下の機能をご利用いただく場合は、セキュリティ設定を行う必要があります。

- ネットワークスキャン
- ネットワークPCファクス受信

それぞれのセキュリティソフトの設定で、下記のポート番号を追加してください。

ポート番号の追加方法は、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書をご確認いただくか、またはセキュリティソフト提供元にお問い合わせください。

機能	名称※	ポート番号	プロトコル (TCP/UDP)
ネットワークスキャン	例) Brother NetScan	54925	UDP
ネットワーク PCファクス受信	例) Brother PC-FAX RX	54926	UDP

※ 名称は任意です。

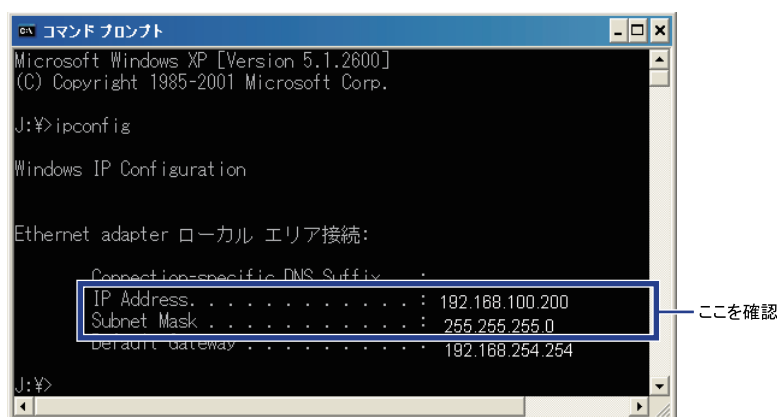
## ネットワークの設定がうまくいかないときは

設定しているネットワーク情報（IPアドレスおよびサブネットマスク）に誤りがないかどうかを確認します。

### コンピュータのネットワーク情報を調べる

お使いのコンピュータと本製品のIPアドレスおよびサブネットマスクを以下の手順で確認します。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム] - [アクセサリ] を選び、[コマンドプロンプト] をクリックする
- 2 「ipconfig」と入力し、Enter キーを押す
- 3 「IP Address (IP アドレス)」と「Subnet Mask (サブネットマスク)」の行を確認し、値を記入する



(A) コンピュータ側

IP Address (IPアドレス)				
Subnet Mask (サブネットマスク)				

- 4 「Subnet Mask (サブネットマスク)」の値を確認する

Subnet Mask (サブネットマスク)	255.	255.	255.	0
---------------------------	------	------	------	---

上記のように「255.255.255.0」であることを確認してください。  
「255.255.255.0」以外の場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 5 「exit」と入力し、Enter キーを押して終了する

# 本製品のネットワーク情報を調べる

**1** ネットワーク設定リストを印刷する  
「ネットワーク設定リストの出力」**P.60**

**2** 「IP Address（IP アドレス）」と「Subnet Mask（サブネットマスク）」の行を確認し、値を記入する

<IP Settings >

IP Address	192.168.11.250	(set manually)
Subnet Mask	255.255.255.0	
IP Gateway	192.168.100.200	
Boot Method	AUTO	
Boot Tries	3	
IP Filter	Disabled	

ここを確認

(B) 本製品側

IP Address (IPアドレス)				
Subnet Mask (サブネットマスク)				

## コンピュータのIPアドレスと本製品のIPアドレスを比較する

「コンピュータのネットワーク情報を調べる」**P.205**で書き留めた（A）の値と、「本製品のネットワーク情報を調べる」**P.206**で書き留めた（B）の値を比較します。

### （A）コンピュータ側

IP Address (IPアドレス)	xxx.	xxx.	xxx.	xxx
------------------------	------	------	------	-----

### （B）本製品側

IP Address (IPアドレス)	xxx.	xxx.	xxx.	xxx
------------------------	------	------	------	-----

1

（A）と（B）の太枠の部分が同じであることを確認する

例

#### （A）コンピュータ側

IP Address (IPアドレス)	192.	168.	123.	011
------------------------	------	------	------	-----

#### （B）本製品側

IP Address (IPアドレス)	192.	168.	123.	250
------------------------	------	------	------	-----

2

灰色の部分の値が、（A）と（B）で異なることを確認する

3

灰色の部分の値が、2～254の範囲内であることを確認する

## 本製品のIPアドレス取得方法を確認する

「本製品のネットワーク情報を調べる」P.206 で印刷したネットワーク設定リストの、「Boot Method」の項目を確認します。

<IP Settings>		
IP Address	192.168.11.250	(set manually)
Subnet Mask	255.255.255.0	
IP Gateway	192.168.100.200	
Boot Method	AUTO	
Boot Tries	3	
IP Filter	Disabled	

- 「Boot Method」が「AUTO」の場合

本製品をコンピュータと同じルータやハブに接続し、本製品の電源を入れなおしてください。それでも改善されない場合は、以下を参照して手動で設定してください。

- 「Boot Method」が「STATIC」の場合

本製品のIPアドレスを以下のように設定してください。

IP Address (IPアドレス)	xxx.	xxx.	xxx.	xxx
------------------------	------	------	------	-----

### 太枠内

「コンピュータのネットワーク情報を調べる」P.205 の（A）と同じ値を設定してください。

### 灰色の部分

ネットワークに参加しているすべてのコンピュータと異なる、2～254の値を設定してください。

この場合、他の機器と同じIPアドレスにならないように、200～250の範囲内でIPアドレスを選択することをおすすめします。（例えば、本製品のIPアドレスを192.168.123.250に割り当てます。）

詳しくは、お使いのルータの取扱説明書またはルータ提供元にお問い合わせください。

### 補足

本製品のIPアドレス設定方法は、P.27 を参照してください。

## ドライバの再インストールをする

現在の設定を有効にするために、ドライバのインストールを行います。既にインストールが完了している場合は、アンインストールが必要です。

### アンインストール方法

[スタート]メニューから、[すべてのプログラム（プログラム）]－[Brother]－[MFC-XXXX]を選び、[アンインストール]をクリックします。

あとの操作は画面の指示に従ってください。

# 8章

## 付録

■ 操作パネル以外からIPアドレスを設定する .....	210
■ IPアドレスの設定方法 .....	211
手動で設定する (BRAdmin Light) .....	211
DHCPを使用する .....	212
APIPAを使用する .....	212
RARPを使用する .....	213
BOOTPを使用する .....	214
■ BRAdmin Professionalで管理する .....	215
BRAdmin Professionalをインストールする .....	215
ネットワークの設定をする .....	216
■ オートマチックドライバインストーラを使う (Windows®のみ) .....	218
オートマチックドライバインストーラが対応する本製品の接続方法 .....	218
オートマチックドライバインストーラをインストールする .....	219
オートマチックドライバインストーラを使用する .....	221
■ その他のプリンタドライバのインストール方法 .....	224
Web Servicesを使用する (Windows Vista®のみ) .....	224
ネットワークプリンタキューと共有を使用する .....	226
■ 仕様 .....	227
プリントサーバ .....	227
お買い上げ時のLAN設定 .....	229
■ オープンソースライセンス公開 .....	233
Open SSL について .....	233
MIT Kerberos statements .....	235
Part of the software embedded in this product is gSOAP software. ....	238
This product includes SNMP software from WestHawk Ltd. ....	238
Cyrus SASL statements .....	238
OpenLDAP Statements .....	239
■ 用語集 .....	242
■ 索引 .....	246



## 操作パネル以外からIPアドレスを設定する

TCP/IPプロトコルを使用するには、ネットワーク上の各デバイスに固有のIPアドレスを設定する必要があります。ここでは、2章で紹介していない本製品のIPアドレスの設定方法について説明します。

### IPアドレスの設定

#### ● IP アドレスの自動設定機能

本製品は各種のIPアドレス自動配布機能に対応しています。

お買い上げ時の設定では以下の自動設定機能が有効になっており、本製品起動時に自動的にIPアドレスを割り当てることができます。

お買い上げ時の設定：IPアドレス配布サーバを使用する（詳しくはP.212を参照してください。）

- ・ 設定されるIPアドレス内容は、IPアドレス配布サーバに依存します。
- ・ 上記のIPアドレス配布サーバがない環境では、APIPA機能によって、自動的にアドレスを割り当てます。（上記IPアドレス配布サーバからの割り当てが優先します。）

アドレス：169.254.1.0～169.254.254.255の範囲のいずれかになります。

サブネットマスク：255.255.0.0

ゲートウェイ：0.0.0.0

#### 注意

■ APIPAによる割り当ては、使用しているネットワークでのIPアドレス設定規則に適さない場合があります。そのような場合は、APIPA以外の方法でIPアドレスを割り当ててください。

■ APIPA機能を無効にしたい場合は、P.33を参照してください。  
お買い上げ時の設定では、APIPAは「オン」に設定されています。

IPアドレスの自動設定機能が無効な場合は、使用しているネットワークのIPアドレス設定規則に合わせて、IPアドレスを変更してください。

IPアドレスは、次項「IPアドレスの設定方法」のいずれかの方法で変更できます。

#### 補足

ネットワーク設定リストを印刷して、現在の設定値を調べることができます。  
詳しくはP.60を参照してください。

#### ● IP アドレスの設定方法

ネットワークの設定状態に応じて、以下の方法があります。

なお、使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IPアドレスとサブネットマスクを設定します。ルータ越しに接続されている場合は、さらにルータ（ゲートウェイ）のアドレスも設定します。

お買い上げ時の状態の本製品を使用する場合：

- ・ 操作パネルを使用する。P.21
- ・ BRAdmin Lightを使用する。P.72

TCP/IPで通信できる状態の本製品の設定を変更する場合：

- ・ 操作パネルを使用する。P.21
- ・ HTTP（ウェブブラウザ）を使用する。P.61
- ・ BRAdmin Lightを使用する。P.72

#### 補足

設定を変更するときは、パスワードの入力を要求される場合があります。お買い上げ時のパスワードは“access”です。

# IPアドレスの設定方法

## 手動で設定する (BRAdmin Light)

BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されたブラザー製品を設定するユーティリティソフトです。  
ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IPアドレスなどのネットワークの基本設定が行えます。

BRAdmin Lightは、Windows® 2000/XP/Windows Vista®, Windows Server® 2003/2008およびMac OS X 10.3.9  
以降に対応しています。

### 補足

IPアドレスの手動設定は、操作パネルからも設定できます。詳しくは **P.21** を参照してください。設定してあるIPアドレスを変更する場合は、HTTP（ウェブブラウザ）を使用することもできます。

## BRAdmin Light での設定方法

### 注意

- BRAdmin Lightは付属のCD-ROM内に収録されています。
- さらに高度なプリンタ管理を必要とされる場合は、BRAdmin Professionalユーティリティ（Windows®版のみ）をご利用ください。  
BRAdmin Professionalはサポートサイト（ブラザーソリューションセンター（<http://solutions.brother.co.jp/>））で提供しております。
- BRAdmin Lightを操作するコンピュータで、「ファイアウォール」を有効にしている場合は、BRAdmin Lightの「稼働中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- BRAdmin Lightで表示される本製品のお買い上げ時ノード名は、有線LANの場合は“BRNxxxxxxxxxxxx”、無線LANの場合は“BRWxxxxxxxxxxxx”となっています。（「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス（イーサネットアドレス）の 12桁です。）
- 本製品のお買い上げ時のパスワードは“access”です。

### 1

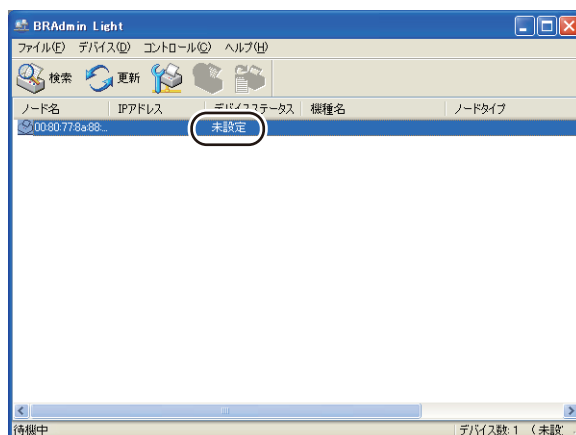
#### BRAdmin Light ユーティリティを起動する

Windows® 版の場合は、[スタート] メニューから、[すべてのプログラム (プログラム)] - [Brother] - [BRAdmin Light] - [BRAdmin Light] の順に選択します。  
Mac OS X 版の場合は、デスクトップ上の [Macintosh HD] から、[ライブラリ] - [Printers] - [Brother] - [Utilities] - [BRAdmin Light.jar] の順に選択します。

BRAdmin Light が起動し、自動的に接続されているデバイスを検索します。

### 2

#### [デバイスステータス] が「未設定」となっている本製品をダブルクリックする

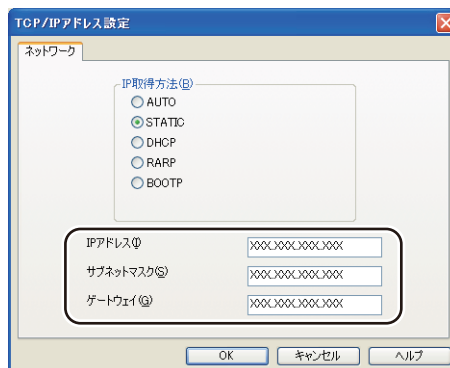


### 補足

- 本製品がお買い上げ時の設定の場合（DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合）に、「未設定」として表示されます。
- ネットワークインターフェースがすでに設定されている場合や IP アドレスの自動設定機能により IP アドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに「未設定」とは表示されません。

## 3

【IP アドレス】【サブネットマスク】【ゲートウェイ】を入力する



## 4

【OK】をクリックする

アドレス情報が本製品に保存されます。

## DHCPを使用する

DHCPは、IPアドレス自動割り当て機能の1つです。ネットワークにDHCPサーバがある場合は、そのDHCPサーバから本製品に自動的にIPアドレスなどが割り当てられます。

### 注意

DHCP、BOOTP、RARPまたはAPIPA機能を使用しない場合は、自動的にIPアドレスを取得しないように、操作パネル、BRAdmin LightまたはHTTP（ウェブブラウザ）を使用して、IPの設定方法を手動（Static（固定））に設定してください。

## APIPAを使用する

APIPA は、IPアドレス配布サーバがない環境で、本製品が自分自身でIPアドレスを割り当てるIPアドレスの自動設定機能です。APIPA は、本製品のIPアドレスを169.254.1.0から169.254.254.255の範囲で自動的に割り当てます。また、サブネットマスクを255.255.0.0、ゲートウェイアドレスを0.0.0.0に設定します。

お買い上げ時の設定では、APIPA は「オン」に設定されています。APIPA 機能を「オフ」にしたい場合は、**P.33** を参照してください。

## RARPを使用する

RARP は、問合せに対しRARPサーバが本製品のMACアドレスに対応するIPアドレスを自動的に割り当てるIPアドレスの自動設定機能です。

### 補足

RARPサーバの設置についてはRARPの説明書を参照してください。

設定は、問合せを行うクライアントマシンに/etc/ethersファイルを準備して行います。/etc/ethersファイルに、以下の行を追加しておきます。(無線LANの場合は、「BRN」を「BRW」にします。)

入力例：00:80:77:31:01:07          BRN008077310107

### 注意

この場合のホスト名はノード名を入力してください。

お買い上げ時のノード名は、有線LANの場合は“BRNxxxxxxxxxxxx”、無線LANの場合は“BRWxxxxxxxxxxxx”となっています。(「xxxxxxxxxxxx」は MACアドレス (イーサネットアドレス) の 12桁です。)

続いてrarpd を起動し、RARPを確認するコマンドをサーバに送ります。

**Berkeley UNIX システムの場合の入力例：**

```
ps -ax | grep -v grep | grep rarpd
```

**AT&T UNIX システムの場合の入力例：**

```
ps -ef | grep -v grep | grep rarpd
```

RARPサーバが本製品の起動時にIPアドレスを割り当てます。

### 注意

RARPのコマンドは、使用しているシステムにより異なります。設定前にシステムのコマンドを確認してください。

## BOOTPを使用する

BOOTPは、RARPとは別の方法でIPアドレスを取得する方法で、IPアドレスのほか、サブネットマスクやゲートウェイアドレスも取得します。

BOOTPを利用する場合は、あらかじめホストコンピュータでBOOTPを実行しておきます。

### 補足

BOOTPサーバの設置についてはBOOTPの説明書を参照してください。

### ● /etc/inetd.conf の編集

BOOTPを起動します。一般的には inetd から起動します。

/etc/inetd.conf を編集し、以下の行先頭の # (コメントアウト) をはずします。

```
#bootp dgram udp wait /usr/etc/bootpd bootpd -i
```

### 補足

システムによっては1語目の「bootp」が「bootps」になっています。

### ● /etc/bootptab の編集

/etc/bootptab を編集し、IP アドレスや BOOT 用ファイル名を指定します。(無線LANの場合は、「BRN」の部分を「BRW」にします。)

入力例: BRN008077310107 1 00:80:77:31:01:07 192.189.207.3 と

```
BRN008077310107:ht=ethernet:ha=008077310107:lip=192.189.207.3:
```

BOOTPサーバが本製品の起動時にIPアドレスを割り当てます。

### 注意

構成ファイルにダウンロードファイル名を含めない場合、BOOTPサーバはBOOTP要求に応じません。

# BRAdmin Professionalで管理する

## BRAdmin Professionalをインストールする

BRAdmin Professionalは、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。Windows®システムが稼動するコンピュータから、ネットワーク上のブラザー製品の検索、状態の閲覧、ネットワーク設定の変更ができます。

1

BRAdmin Professional をサポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://solutions.brother.co.jp/>）からダウンロードする

2


ダウンロードしたファイルをダブルクリックする

3

画面の指示にしたがってインストールする

### 注意

■ Windows® XP で、「インターネット接続ファイアウォール（Windows® ファイアウォール）」を有効にしている場合は、BRAdmin Professionalの「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効に設定してください。（Windows® XP Service Pack 2以降をお使いのお客様は、BRAdmin Professionalのインストール時に、Windows® ファイアウォールの例外としてBRAdmin Professionalを追加すれば、Windows® ファイアウォール機能を無効にする必要はありません。）

詳しくは、 画面で見るマニュアル（HTML形式）を参照してください。

■ アンチウイルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Professionalの「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できないことがあります。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

## ネットワークの設定をする

TCP/IP を利用して印刷するには、本製品にIP アドレスを割り当てる必要があります。

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定します。

### 補足

#### ゲートウェイの設定

ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で、送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つ IP アドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルータのIP アドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書を参照してください。

IP アドレスは以下の方法で割り当てます。

#### ● IP アドレス配布サーバを利用している場合

本製品は各種の IP アドレス自動設定機能に対応しています。DHCP、BOOTP、RARP などのIP アドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動したときに自動的に IP アドレスが割り当てられます。

#### ● IP アドレス配布サーバを利用していない場合

DHCP、BOOTP、RARPなどのIPアドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA（AutoIP）機能により、本製品が自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境の IP アドレス設定規則に適さない場合は、BRAdmin Professionalを使用して本製品のIP アドレスを設定してください。

### 補足

#### ● お買い上げ時のIP アドレス

IP アドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下の通りです。

- IP アドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA 機能による自動割当）

現在の設定値を調べるときは、「ネットワーク設定リスト」を印刷します。詳しくは、「ネットワーク設定リストの出力」

**P.60** を参照してください。

#### ● ノード名

ネットワーク設定リスト **P.60** にはノード名が印刷されます。

お買い上げ時のNetBIOS 名は、ノード名「BRNxxxxxxxxxxxx」と同じです。

（「xxxxxxxxxxxx」はMAC アドレス（イーサネットアドレス）の12 桁です。）

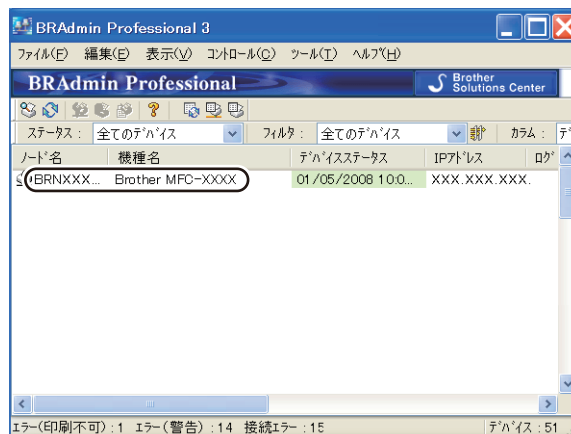
1

本製品とコンピュータをネットワークに接続した状態で、BRAdmin Professional を起動する

[スタート] メニューから [すべてのプログラム (プログラム)] - [Brother Administrator Utilities] - [Brother BRAdmin Professional] - [BRAdmin Professional] の順にクリックします。

2

本製品を選択する



3

[コントロール] メニューから [デバイスの設定] をクリックする

4

「パスワード」を入力する

補足

お買い上げ時のパスワードは“access”に設定されています。

5

本製品の設定を変更する

トップメニューが表示されます。

補足

- DHCP/BOOTP/RARP サーバを使用せずに、お買い上げ時の設定のまま本製品を使用している場合は、APIPA機能によってIP アドレスが自動的に割り当てられ、BRAdmin Professionalに表示されます。
- 「ネットワーク設定リスト」を印刷し、現在設定されているノード名や MAC アドレス（イーサネットアドレス）を調べることができます。「ネットワーク設定リスト」の印刷方法は、「ネットワーク設定リストの出力」P.60 を参照してください。



## オートマチックドライバインストーラを使う (Windows®のみ)

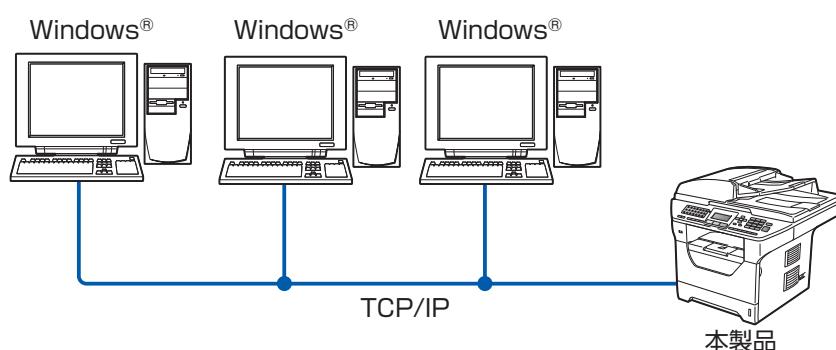
プリンタドライバをご使用の設定に合わせて作成するツールです。ネットワーク接続のみにオリジナルドライバを作成でき、ユーザーに配布することができます。配布インストーラは、OSごとの作成が必要です。プリンタドライバとソフトウェア（ピアツーピア接続の場合）を同時にインストールできるため、わずらわしい設定作業をすることなくプリンタドライバの設定が可能になり、インストール作業の時間と手間を省けます。このソフトウェアはWindows®専用です。

### オートマチックドライバインストーラが対応する本製品の接続方法

オートマチックドライバインストーラが対応する本製品の接続方法は、次の2種類です。

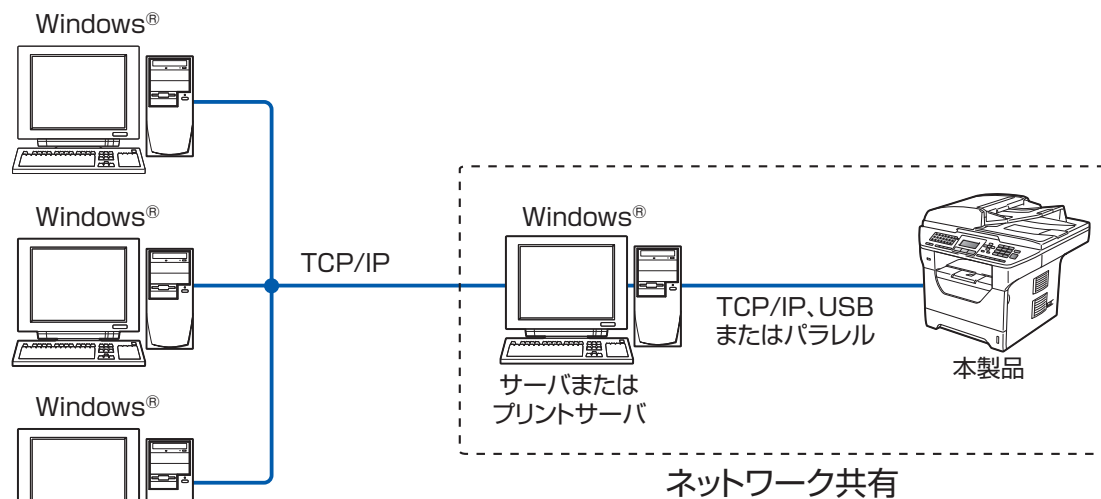
#### ● ピアツーピア接続

本製品はネットワークに接続されていますが、印刷データの管理などは行わず、直接本製品に印刷します。



#### ● ネットワーク共有

本製品はネットワークに接続され、サーバまたはプリントサーバが印刷データの管理などを行い、本製品に印刷します。



## オートマチックドライバインストーラをインストールする

1

### コンピュータの電源を入れる

管理者権限をもつユーザーでログオンします。

2

### 本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

トップメニューが表示されます。

#### 補足

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ（コンピュータ）」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

3

### 【ネットワークユーティリティ】をクリックする



4

### 【オートマチックドライバインストーラ】をクリックする

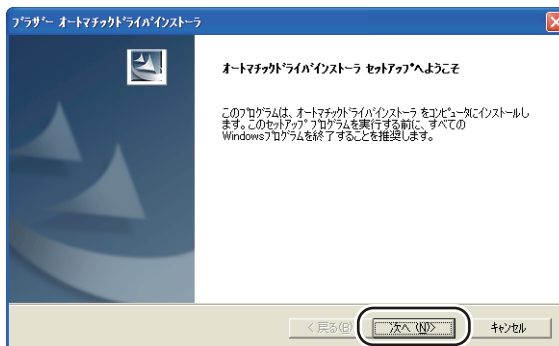


#### 補足

Windows Vista®の場合は、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、[続行]をクリックします。

5

オートマチックドライバインストーラの  
セットアップ画面が表示されたら、**「次へ」**  
をクリックする



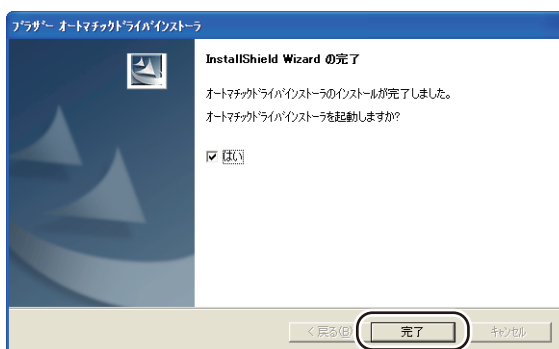
6

画面の指示に従い、インストールを完了させる

7

**「完了」** ボタンをクリックする

これでインストールは完了しました。  
「はい」をチェックしている場合は、オートマチック  
ドライバインストーラが起動します。



## オートマチックドライバインストーラを使用する

「オートマチックドライバインストーラ」を起動すると、「オートマチックドライバインストーラへようこそ」の画面が表示されます。

1

「次へ」をクリックする



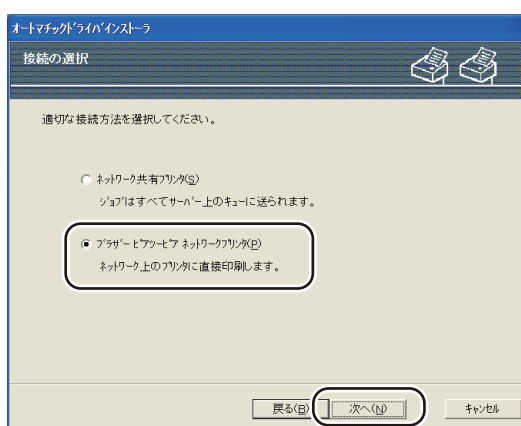
2

「MFC」を選択し、「次へ」をクリックする



3

本製品の接続方法を選択し、「次へ」をクリックする



## 4

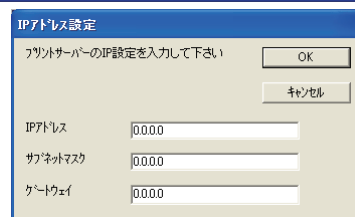
## 本製品を選択し、[次へ] をクリックする

手順3で「ブラウザ・ピアツーピアネットワークブリanta」を選択した場合は、右の画面が表示されます。

- IPアドレスの設定

本製品にIPアドレスがない場合は、リストから本製品を選択し、[IPの設定] をクリックし、IPアドレスを変更できます。

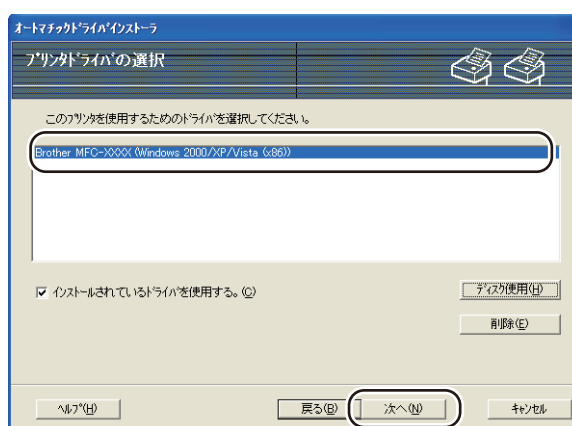
表示された「IPアドレス設定」画面でIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなどの情報を設定することができます。



## 5

## プリンタドライバを選択し、[次へ] をクリックする

すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、「インストールしているドライバを使用する」をチェックし、表示されるドライバを選択します。使用したいプリンタドライバがコンピュータにインストールされていない場合は、[ディスク使用] をクリックし、プリンタドライバのファイルの場所を指定します。



## 6

## プリンタ設定詳細画面が表示されたら、ドライバの設定内容を確認する

- 実行ファイルの作成

オートマチックドライバインストーラを使って、自動実行.EXEファイルを作成することもできます。自動実行.EXEファイルは、ネットワークに保存したり、CD-ROMやUSBメモリーにコピーしたり、他のユーザーにEメールで送信することもできます。

実行後は、ドライバとその設定が自動的にインストールされます。



- 「他のユーザのためのインストールプログラムを作成します。このコンピュータにドライバファイルをコピーします。」

ご使用のコンピュータにドライバをインストールし、ご使用のコンピュータと同じオペレーティングシステム (OS) の他のコンピュータで実行する自動実行.EXEファイルを作成する場合に選択します。

- 「他のユーザのためのインストールプログラムを作成します。このコンピュータにドライバファイルをコピーしません。」

ご使用のコンピュータにドライバが既にインストールされているため、ドライバを再度インストールせず、ご使用のコンピュータと同じオペレーティングシステム (OS) の他のコンピュータで実行する自動実行.EXEファイルのみを作成する場合に選択します。

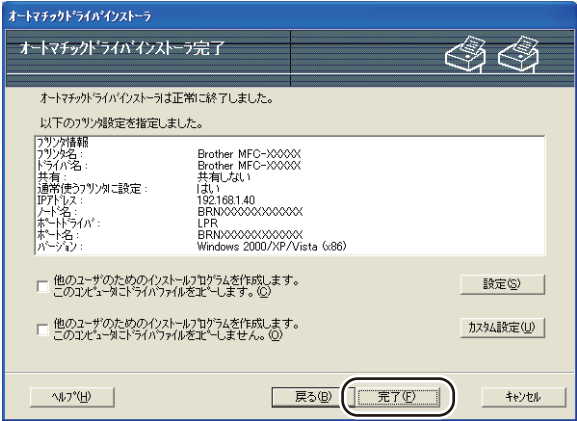
補足

- 「キュー」に基づくネットワークで作業しており、実行ファイルに設定するものと同じプリンタキューにアクセスできない他のユーザーのための実行ファイルを作成する場合は、ドライバを遠隔コンピュータにインストールしたときに、LPT1印刷に初期設定されます。
- 手順5で「インストールされているドライバを使用する」にチェックを入れた場合は、[カスタム設定]をクリックして、用紙サイズなどプリンタドライバの初期設定を変更することができます。

7

[完了] をクリックする

プリンタドライバが自動的にインストールされます。



## その他のプリンタドライバのインストール方法

### Web Servicesを使用する（Windows Vista®のみ）

Windows Vista®の場合は、Web Servicesを利用してプリンタドライバをインストールすることができます。  
Web Services を利用するには、ウェブブラウザから本製品の「ネットワーク設定」 - 「プロトコル設定」でWeb Servicesのチェックボックスにチェックが入っているか確認してください。

#### 補足

“ホストコンピュータと本製品が同じサブネット上にあるか”、または“ルータが2つのデバイス間で正しくデータのやり取りができるように設定されているか”のどちらかを確認してください。

#### 1 「[スタート] メニューから [ネットワーク] をクリックする

#### 2 本製品の Web Services 名がアイコンと合わせて表示されるので、右クリックして「インストール」をクリックする

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

#### 補足

本製品のWeb Services名は、モデル名とMACアドレス（イーサネットアドレス）です。  
例）Brother MFC-XXXX [XXXXXXXXXXXX]

#### 3 管理者権限のあるユーザーの場合は、「[続行]」をクリックする 管理者権限のないユーザーの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、「[OK]」をクリックする

#### 4 「[ドライバソフトウェアを検索してインストールします（推奨）]」を選択する

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

#### 5 管理者権限のあるユーザーの場合は、「[続行]」をクリックする 管理者権限のないユーザーの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、「[OK]」をクリックする

#### 6 「[オンラインで検索しません]」を選択する

#### 7 本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

#### 8 「[コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します（上級）]」を選択する

#### 9 CD-ROM ドライブを選択し、本製品のプリンタドライバの保存フォルダを選択し、「[OK]」をクリックする

X: ¥ driver ¥ win2kxpvista ¥ jpn  
(64 ビット OS は winxpx64vista64)  
(X は CD-ROM ドライブ)

**10** **【次へ】 をクリックする**  
インストールが開始されます。

**11** インストールが終了したら **【閉じる】 をクリックする**



## ネットワークプリンタキューと共有を使用する

### 補足

- ネットワークに共有プリンタとして接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、キューと共有名を確認してください。
- 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了してから、行ってください。

1

### コンピュータの電源スイッチを ON にする

管理者権限をもつユーザーでログオンします。

2

### 本製品に付属の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブにセットする

トップメニューが表示されます。

### 補足

画面が表示されないときは、「マイコンピュータ（コンピュータ）」からCD-ROMドライブをダブルクリックし、「Start.exe」をダブルクリックしてください。

3

### 【インストール】 をクリックする

4

### 【プリンタドライバ（ネットワーク対応のみ）】 をクリックする

### 補足

Windows Vista®の場合は、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、「続行」をクリックします。

5

### 【次へ】 をクリックする

プリンタドライバのインストールが開始され、使用許諾契約画面が表示されます。

6

### 使用許諾契約の内容をよく読み、【はい】 をクリックする

7

### 【標準インストール】 をクリックし、【次へ】 をクリックする

8

### 「ネットワーク共有プリンタ」を選択し、【次へ】 をクリックする

9

### 製品のキューを選択し、【OK】 をクリックする

### 補足

本製品のネットワーク上の位置や名前が分からない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

10

### 【完了】 をクリックする

### 補足

本製品を通常使用するプリンタに設定しない場合は、【通常使うプリンタに設定】のチェックを外します。

## 仕様

## プリントサーバ

## 有線LAN

項目	内容	
ネットワークノードタイプ	NC-6800h type 2	
対応オペレーティングシステム (OS)	Windows® 2000 Professional/XP Professional/XP Professional X64 EditionおよびWindows Vista®, Windows Server® 2003/2003 X64 Edition/2008 Mac OS X 10.3.9 以降	
プロトコル	TCP/IP : IPv4	ARP、RARP、BOOTP、DHCP、APIPA (Auto IP)、WINS/NetBIOS name resolution、DNS Resolver、mDNS、LLMNR responder、LPR/LPD、Custom Raw Port/Port 9100、IPP/IPPS、FTP Client and Server、POP before SMTP、SMTP AUTH、APOP、TELNET Server、SNMPv1/v2c/v3、HTTP/HTTPS Server、TFTP Client and Server、SMTP Client、ICMP、WebServicesPrint、SNTP、CIFS Client、SSL/TLS、LLTD responder、LDAP、POP3/SMTP
	TCP/IP : IPv6※1	NDP、RA、DNS resolver、mDNS、LLMNR responder、LPR/LPD、Custom Raw Port/Port 9100、IPP/IPPS、FTP Client and Server、POP before SMTP、SMTP AUTH、APOP、TELNET Server、SNMPv1/v2c/v3、HTTP/HTTPS server、TFTP Client and Server、SMTP Client、ICMPv6、WebServicesPrint、SNTP、CIFS Client、SSL/TLS、LLTD responder、LDAP、POP3/SMTP
ネットワークタイプ	10/100BASE-TX イーサネット	
ネットワーク印刷	Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista® TCP/IP印刷 Mac OS X 10.3.9以降 Macintosh印刷	
管理ユーティリティ	BRAdmin Light ※2 BRAdmin Professional ※3 BRPrint Auditor ソフトウェア※4 ウェブブラウザ	

- ※1 IPv6 プロトコルの詳細は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>)）を参照してください。
- ※2 高度なプリンタ管理が必要な場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>)）から最新のBRAdmin Professionalをダウンロードして使用してください。
- ※3 BRAdmin Professionalは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（<http://solutions.brother.co.jp/>））からダウンロードできます。Windows® でのみ使用できます。
- ※4 USBを経由してクライアントコンピュータに接続している本製品を、BRAdmin Professionalから管理できます。サポートサイト（ブラザーソリューションセンター（<http://solutions.brother.co.jp/>））からダウンロードできます。

## 無線LAN

項目	内容	
ネットワークノードタイプ	NC-7600w type 2	
対応オペレーティングシステム (OS)	Windows® 2000 Professional/XP Professional/XP Professional X64 EditionおよびWindows Vista®, Windows Server® 2003/2003 X64 Edition/2008 Mac OS X 10.3.9 以降	
プロトコル	TCP/IP : IPv4	ARP、RARP、BOOTP、DHCP、APIPA (Auto IP)、WINS/NetBIOS name resolution、DNS Resolver、mDNS、LLMNR responder、LPR/LPD、Custom Raw Port/Port 9100、IPP/IPPS、FTP Client and Server、POP before SMTP、SMTP AUTH、APOP、TELNET Server、SNMPv1/v2c/v3、HTTP/HTTPS Server、TFTP Client and Server、SMTP Client、ICMP、WebServicesPrint、SNTP、CIFS Client、SSL/TLS、LLTD responder、LDAP、POP3/SMTP
	TCP/IP : IPv6※1	NDP、RA、DNS resolver、mDNS、LLMNR responder、LPR/LPD、Custom Raw Port/Port 9100、IPP/IPPS、FTP Client and Server、POP before SMTP、SMTP AUTH、APOP、TELNET Server、SNMPv1/v2c/v3、HTTP/HTTPS server、TFTP Client and Server、SMTP Client、ICMPv6、WebServicesPrint、SNTP、CIFS Client、SSL/TLS、LLTD responder、LDAP、POP3/SMTP
ネットワークタイプ	IEEE802.11b/g ワイヤレス	
周波数	2400 ~ 2497 MHz	
RFチャンネル	802.11b (1-14)、802.11g (1-13)	
接続モード	アドホックモード (802.11b のみ)、インフラストラクチャモード	
データ転送速度	802.11b	11/5.5/2/1 Mbps
	802.11g	54/48/36/24/18/12/11/9/6/5.5/2/1 Mbps
最大到達距離	70m (最も低いデータ転送速度) (数値はご使用の環境など、様々な要素によって変化します。)	
ネットワークのセキュリティ	WEP 64/128、WPA-PSK (TKIP、AES)、WPA2-PSK (AES)、LEAP (CKIP)、EAP-FAST (TKIP、AES)	
ネットワーク印刷	Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista® TCP/IP印刷、Mac OS X 10.2.4 以降 Macintosh印刷	
簡単設定	AOSS™、WPS (Wi-Fi Protected Setup)、SecureEasySetup™	
管理ユーティリティ	BRAdmin Light ※2 BRAdmin Professional ※3 BRPrint Auditor ソフトウェア※4 ウェブブラウザ	

※1 IPv6 プロトコルの詳細は、サポートサイト (ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>)) を参照してください。

※2 高度なプリンタ管理が必要な場合は、サポートサイト (ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>)) から最新のBRAdmin Professionalをダウンロードして使用してください。

※3 BRAdmin Professionalは、サポートサイト (ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>)) からダウンロードできます。Windows® でのみ使用できます。

※4 USBを経由してクライアントコンピュータに接続している本製品を、BRAdmin Professionalから管理できます。サポートサイト (ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>)) からダウンロードできます。

## お買い上げ時のLAN設定

お買い上げ時の設定は、下線で示しています。

メインメニュー	サブメニュー	サブサブメニュー	メニュー選択	選択項目	参照
7. ネットワーク	1. 有線LAN	1. TCP/IP設定	1. IP 取得方法	<u>Auto</u> Static RARP BOOTP DHCP (「Static」以外を選択した場合は、IPアドレスの取得を試みる回数の入力を要求されます。)	<b>P.26</b>
			2. IP アドレス	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	<b>P.27</b>
			3. サブネットマスク	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	<b>P.27</b>
			4. ゲートウェイ	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	<b>P.28</b>
			5. ノード名	BRNxxxxxxxxxx (32文字以内)	<b>P.29</b>
			6. WINS 設定	<u>Auto</u> Static	<b>P.30</b>
			7. WINS サーバ	プライマリ 000. 000. 000. 000 セカンダリ 000. 000. 000. 000	<b>P.31</b>
			8. DNS サーバ	プライマリ 000. 000. 000. 000 セカンダリ 000. 000. 000. 000	<b>P.32</b>
			9. APIPA	オン オフ	<b>P.33</b>
			0. IPv6	オン <u>オフ</u>	<b>P.33</b>
		2. イーサネット	—	<u>Auto</u> 100B-FD 100B-HD 10B-FD 10B-HD	<b>P.34</b>
		3. 初期設定に戻す	1. リセット	—	—
			2. 中止	—	—
		4. 有線 LAN 有効	—	<u>オン</u> オフ	—

メインメニュー	サブメニュー	サブサブメニュー	メニュー選択	選択項目	参照
7. ネットワーク	2. 無線LAN	1. TCP/IP設定	1. IP 取得方法	Auto Static RARP BOOTP DHCP (「Static」以外を選択した場合は、IP アドレスの取得を試みる回数の入力を要求されます。)	P.135
			2. IP アドレス	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	P.136
			3. サブネットマスク	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	P.136
			4. ゲートウェイ	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000. 000. 000. 000)	P.137
			5. ノード名	BRWxxxxxxxxxxx (32文字以内)	P.137
			6. WINS 設定	Auto Static	P.138
			7. WINS サーバ	プライマリ 000. 000. 000. 000 セカンダリ 000. 000. 000. 000	P.139
			8. DNS サーバ	プライマリ 000. 000. 000. 000 セカンダリ 000. 000. 000. 000	P.140
			9. APIPA	オン オフ	P.141
			0. IPv6	オン オフ	P.141
		2. 無線接続ウィザード	—	—	P.87
		3. SES/WPS/AOSS	—	—	P.91
		4. WPS (PIN 方式)	—	—	P.93
		5. 無線状態	1. 接続状態	—	P.142
			2. 電波状態	—	P.142
			3. SSID	—	P.142
			4. 通信モード	—	P.143
		6. 初期設定に戻す	1. リセット	—	P.145
			2. 中止	—	
		7. 無線 LAN 有効	—	オン オフ	P.144

メインメニュー	サブメニュー	サブサブメニュー	メニュー選択	選択項目	参照
7. ネットワーク	3. Eメール/IFAX	1. メールアドレス		(60 文字以内)	<a href="#">P.36</a>
		2. サーバ設定	1. SMTP サーバ	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000.000.000.000)  名前 (64 文字以内)	<a href="#">P.37</a>
			2. SMTP ポート	[00001-65535] (00025)	<a href="#">P.38</a>
			3. SMTP 認証	認証しない SMTP 認証 POP before SMTP	<a href="#">P.39</a>
			4. POP3 サーバ	[000-255]. [000-255]. [000-255]. [000-255] (000.000.000.000)  名前 (64 文字以内)	<a href="#">P.40</a>
			5. POP3 ポート	[00001-65535] (00110)	<a href="#">P.41</a>
			6. アカウント名	(60 文字以内)	<a href="#">P.42</a>
			7. パスワード	パスワード:*****	<a href="#">P.43</a>
			8. APOP	オン オフ	<a href="#">P.44</a>
		3. メール受信設定	1. 自動受信	オン オフ	<a href="#">P.45</a>
			2. ポーリング間隔	[01分-60分] (10分)	<a href="#">P.46</a>
			3. ヘッダ印刷	全て ヘッダのみ なし	<a href="#">P.47</a>
			4. エラーメール削除	オン オフ	<a href="#">P.48</a>
			5. 受信確認	オン MDN オフ	<a href="#">P.49</a>
		4. メール送信設定	1. メールタイトル	(40 文字以内) (Internet Fax Job)	<a href="#">P.50</a>
			2. サイズ制限	オン オフ	<a href="#">P.51</a>
			3. 受信確認要求	オン オフ	<a href="#">P.52</a>
		5. リレー設定	1. リレー許可	オン オフ	<a href="#">P.53</a>
			2. 許可ドメイン	リレー XX: (リレー 01:XXXXX)	<a href="#">P.54</a>
			3. リレーレポート	オン オフ	<a href="#">P.55</a>

メインメニュー	サブメニュー	サブサブメニュー	メニュー選択	選択項目	参照
7. ネットワーク	4. スキャン to Eメール	—	カラー 100 dpi カラー 200 dpi カラー 300 dpi カラー 600 dpi グレイ 100 dpi グレイ 200 dpi グレイ 300 dpi モノクロ 200dpi モノクロ 200X100dpi	(カラー / グレイを選んだ場合) PDF セキュリティ PDF JPEG XPS  (モノクロを選んだ場合) PDF セキュリティ PDF TIFF	
	5. スキャン to FTP	—	カラー 100 dpi カラー 200 dpi カラー 300 dpi カラー 600 dpi グレイ 100 dpi グレイ 200 dpi グレイ 300 dpi モノクロ 200dpi モノクロ 200X100dpi	(カラー / グレイを選んだ場合) PDF セキュリティ PDF JPEG XPS	
	6. スキャン to ネットワークファイル	—	グレイ 200 dpi グレイ 300 dpi モノクロ 200dpi モノクロ 200X100dpi	(モノクロを選んだ場合) PDF セキュリティ PDF TIFF	
	7. タイムゾーン	—		UTCXXX:XX (UTC +9:00)	
	0. ネットワーク設定リセット	1. リセット	—	1. はい 2. いいえ	
		2. 中止	—	—	

# オープンソースライセンス公開

## Open SSL について

### OpenSSL License

Copyright © 1998-2005 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
- 4) The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact [openssl-core@openssl.org](mailto:openssl-core@openssl.org).
- 5) Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
- 6) Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young ([eyay@cryptsoft.com](mailto:eyay@cryptsoft.com)). This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)).



## Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1) Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
- 4) If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

# MIT Kerberos statements

## MIT Kerberos license copyright Version 1.6.3

Copyright (C) 1985-2007 by the Massachusetts Institute of Technology. All rights reserved.

Export of this software from the United States of America may require a specific license from the United States Government. It is the responsibility of any person or organization contemplating export to obtain such a license before exporting.

WITHIN THAT CONSTRAINT, permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of M.I.T. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. Furthermore if you modify this software you must label your software as modified software and not distribute it in such a fashion that it might be confused with the original MIT software. M.I.T. makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright (C) 1998 by the FundsXpress, INC. All rights reserved.

Export of this software from the United States of America may require a specific license from the United States Government. It is the responsibility of any person or organization contemplating export to obtain such a license before exporting.

WITHIN THAT CONSTRAINT, permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of FundsXpress. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. FundsXpress makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright 1993, 1995 by OpenVision Technologies, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of OpenVision not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. OpenVision makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

OPENVISION DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL OPENVISION BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Copyright 2000 by Zero-Knowledge Systems, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of Zero-Knowledge Systems, Inc. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. Zero-Knowledge Systems, Inc. makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

ZERO-KNOWLEDGE SYSTEMS, INC. DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL ZERO-KNOWLEDGE SYSTEMS, INC. BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTUOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Copyright (C) 2006 Red Hat, Inc.

Portions copyright (C) 2006 Massachusetts Institute of Technology All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* Neither the name of Red Hat, Inc., nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright 1995,1996,2003,2004 by Sun Microsystems, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of Sun Microsystems not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. Sun Microsystems makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

SUN MICROSYSTEMS DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL SUN MICROSYSTEMS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

COPYRIGHT (C) 2006-2007

THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF MICHIGAN ALL RIGHTS RESERVED.

Permission is granted to use, copy, create derivative works and redistribute this software and such derivative works for any purpose, so long as the name of The University of Michigan is not used in any advertising or publicity pertaining to the use of distribution of this software without specific, written prior authorization. If the above copyright notice or any other identification of the University of Michigan is included in any copy of any portion of this software, then the disclaimer below must also be included.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED AS IS, WITHOUT REPRESENTATION FROM THE UNIVERSITY OF MICHIGAN AS TO ITS FITNESS FOR ANY PURPOSE, AND WITHOUT WARRANTY BY THE UNIVERSITY OF MICHIGAN OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF MICHIGAN SHALL NOT BE LIABLE FOR ANY DAMAGES, INCLUDING SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WITH RESPECT TO ANY CLAIM ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OF THE SOFTWARE, EVEN IF IT HAS BEEN OR IS HEREAFTER ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Copyright (C) 2002 Naval Research Laboratory (NRL/CCS)

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation is hereby granted, provided that both the copyright notice and this permission notice appear in all copies of the software, derivative works or modified versions, and any portions thereof.

NRL ALLOWS FREE USE OF THIS SOFTWARE IN ITS "AS IS" CONDITION AND DISCLAIMS ANY LIABILITY OF ANY KIND FOR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE USE OF THIS SOFTWARE.

Copyright (C) 1986 Gary S. Brown. You may use this program, or code or tables extracted from it, as desired without restriction.

Copyright (C) 1994 CyberSAFE Corporation

Copyright (C) 1993 Open Computing Security Group

## Part of the software embedded in this product is gSOAP software.

Portions created by gSOAP are Copyright (C) 2001 2004 Robert A. van Engelen, Genivia inc. All Rights Reserved.

THE SOFTWARE IN THIS PRODUCT WAS IN PART PROVIDED BY GENIVIA INC AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANYWAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## This product includes SNMP software from WestHawk Ltd.

Copyright (C) 2000, 2001, 2002 by Westhawk Ltd

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notices appear in all copies and that both the copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. This software is provided "as is" without express or implied warranty.

## Cyrus SASL statements

### The Cyrus SASL License

Copyright (c) 1998-2003 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any other legal details, please contact.

Office of Technology Transfer  
Carnegie Mellon University  
5000 Forbes Avenue  
Pittsburgh, PA 15213-3890

(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395  
tech-transfer@andrew.cmu.edu

4. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:  
"This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO HIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

## OpenLDAP Statements

### **This product includes software developed by the OpenLDAP Project.**

Unless otherwise expressly stated herein, The OpenLDAP Public License Version 2.8 shall be applied to individual files.

Copyright 1998-2007 The OpenLDAP Foundation All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

A copy of this license is available in the file LICENSE in the top-level directory of the distribution or, alternatively, at <<http://www.OpenLDAP.org/license.html>>.

Portions Copyright 1999 Lars Uffmann.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

Portions Copyright © 1990, 1993-1996 Regents of the University of Michigan. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that this notice is preserved and that due credit is given to the University of Michigan at Ann Arbor. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission. This software is provided "as is" without express or implied warranty.

Portions Copyright © 1999, 2000 Novell, Inc. All Rights Reserved.

THIS WORK IS SUBJECT TO U.S. AND INTERNATIONAL COPYRIGHT LAWS AND TREATIES. USE, MODIFICATION, AND REDISTRIBUTION OF THIS WORK IS SUBJECT TO VERSION 2.0.1 OF THE OPENLDAP PUBLIC LICENSE, A COPY OF WHICH IS AVAILABLE AT [HTTP://WWW.OPENLDAP.ORG/LICENSE.HTML](http://WWW.OPENLDAP.ORG/LICENSE.HTML) OR IN THE FILE "LICENSE" IN THE TOP-LEVEL DIRECTORY OF THE DISTRIBUTION. ANY USE OR EXPLOITATION OF THIS WORK OTHER THAN AS AUTHORIZED IN VERSION 2.0.1 OF THE OPENLDAP PUBLIC LICENSE, OR OTHER PRIOR WRITTEN CONSENT FROM NOVELL, COULD SUBJECT THE PERPETRATOR TO CRIMINAL AND CIVIL LIABILITY.

Portions Copyright © The Internet Society (1997).

See RFC 2251 for full legal notices.

## The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices.
2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and
3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation. Copyright 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved.

Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

A number of files contained in OpenLDAP Software contain a statement:

USE, MODIFICATION, AND REDISTRIBUTION OF THIS WORK IS SUBJECT TO VERSION 2.0.1 OF THE OPENLDAP PUBLIC LICENSE, A COPY OF WHICH IS AVAILABLE AT [HTTP://WWW.OPENLDAP.ORG/LICENSE.HTML](http://www.openldap.org/license.html) OR IN THE FILE "LICENSE" IN THE TOP-LEVEL DIRECTORY OF THE DISTRIBUTION.

The following is a verbatim copy of version 2.0.1 of the OpenLDAP Public License referenced in the above statement.



## The OpenLDAP Public License

Version 2.0.1, 21 December 1999

Copyright 1999, The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved.

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without

modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain copyright statements and notices. Redistributions must also contain a copy of this document.
  2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
  3. The name "OpenLDAP" must not be used to endorse or promote products derived from this Software without prior written permission of the OpenLDAP Foundation. For written permission, please contact [foundation@openldap.org](mailto:foundation@openldap.org).
  4. Products derived from this Software may not be called "OpenLDAP" nor may "OpenLDAP" appear in their names without prior written permission of the OpenLDAP Foundation. OpenLDAP is a trademark of the OpenLDAP Foundation.
  5. Due credit should be given to the OpenLDAP Project (<http://www.openldap.org/>).
- THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## RFC 2251 Full Copyright Statement

Copyright © The Internet Society (1997). All Rights Reserved.

This document and translations of it may be copied and furnished to others, and derivative works that comment on or otherwise explain it or assist in its implementation may be prepared, copied, published and distributed, in whole or in part, without restriction of any kind, provided that the above copyright notice and this paragraph are included on all such copies and derivative works. However, this document itself may not be modified in any way, such as by removing the copyright notice or references to the Internet Society or other

Internet organizations, except as needed for the purpose of developing Internet standards in which case the procedures for copyrights defined in the Internet Standards process must be followed, or as required to translate it into languages other than English.

The limited permissions granted above are perpetual and will not be revoked by the Internet Society or its successors or assigns.

This document and the information contained herein is provided on an "AS IS" basis and THE INTERNET SOCIETY AND THE INTERNET ENGINEERING TASK FORCE DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTY THAT THE USE OF THE INFORMATION HEREIN WILL NOT INFRINGE ANY RIGHTS OR ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.



# 用語集

## ● ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Line の略です。銅線の一般加入者電話(アナログ)回線を利用して、数M~数+Mbpsの高速データ通信を可能にする通信方式です。

## ● AOSST™

AirStation One-Touch Secure System (無線LAN簡単設定システム) の略で、AOSST™対応の無線LANアクセスポイントをお持ちの場合は、ボタンを押すだけで、本製品の無線LAN設定が行えます。

## ● APIPA

Automatic Private IP Addressingの略です。  
IPアドレス配布サーバが無い環境では、本製品が自分自身でIPアドレスを割り当てる機能です。

## ● APOP (証明付ポストオフィスプロトコル)

APOP は、POP3 (インターネット受信プロトコル) を拡張し、クライアントがEメールを受信するときにパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

## ● ARP

Address Resolution Protocolの略です。  
TCP/IPプロトコルにおいて、IPアドレスの情報からMACアドレスを調べて通知するプロトコルです。

## ● ASCII

American Standard Code for Information Interchange の略です。アメリカ規格協会が定めた情報交換用の文字や記号を数値表現したものです。例えば ASCII コードの「41」はアルファベットの「A」を表します。

## ● BOOTP

BOOTstrap Protocolの略です。  
TCP/IPネットワーク上のクライアントマシンにおいてIPアドレスやホスト名、ドメイン名などのパラメーターをサーバから自動的にロードしてくるためのプロトコルです。

## ● BRAdmin Light

BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP/Windows Vista® および Mac OS X の環境下でブラザーネットワークプリンタを管理するソフトウェアです。ネットワークに接続されているブラザープリンタを設定し、そのステータスを確認することができます。

## ● BRAdmin Professional

BRAdmin Professional は、Windows® 2000/XP/Windows Vista® の環境下でブラザーネットワークプリンタを管理するソフトウェアです。BRAdmin Light では設定できないより高度なネットワーク設定ができます。  
サポートサイト (ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp>)) よりダウンロードしてください。

## ● CIFS

Common Internet File Systemの略です。  
Windowsのファイル共有サービスで利用されているプロトコルを拡張し、Windows以外のOSやアプリケーションソフトでも利用できるプロトコルで、インターネットで標準的に利用されるTCP/IPを基盤としています。

## ● CKIP

Cisco Key Integrity Protocol の略です。  
Cisco LEAP認証とともに使用される暗号化方式です。

## ● DHCP

Dynamic Host Configuration Protocolの略です。  
動的ホスト構成プロトコル。ネットワーク上のIPアドレスを動的かつ自動的に割り当て管理するプロトコル。BOOTPの拡張版で、DHCPサーバはDHCPクライアントの要求に応じてIPアドレスを割り当て、サーバとクライアント間の通信にはBOOTPを使用します。メッセージのフォーマットやプロトコルは、BOOTPとほぼ同じです。

## ● DNS

Domain Name Systemの略です。  
TCP/IPネットワークで使用されるネームサービスです。クライアントはDNSサーバ内のホスト名とIPアドレスの対応関係を記述したデータベースを参照することで、ホストの名前を指定してネットワークにアクセスできるようになります。

## ● EAP-FAST

EAP Flexible Authentication via Secured Tunnelの略です。  
Cisco System社が開発した独自の認証方式です。  
対称鍵アルゴリズムを使用して、認証プロセスのトンネル化を実現するEAPプロトコルで、認証用にユーザー IDとパスワードを使用します。

## ● FTP

File Transfer Protocol の略です。ネットワークでファイルの転送を行うためのプロトコルです。

## ● FTTH

Fiber To The Home の略です。電話局から各家庭までの加入者線を結ぶアクセス網を光ファイバ化し、高速な通信環境を構築する計画のことを指します。

## ● HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) でSSL を用いるインターネットプロトコルです。

## ● IEEE802.11b 及び IEEE802.11g

IEEE (米国電気電子学会) で定めた無線 LAN 規格で、IEEE802.11b は最大11Mビット/秒での通信が可能です。  
IEEE802.11gはIEEE802.11bの上位互換であり、更に高速な最大54Mビット/秒での通信が可能です。本製品の無線LAN機能はIEEE802.11b及び IEEE802.11gの両方の規格に対応しています。

## ● IP アドレス

IP プロトコルで使用するためのアドレスで、ネットワーク自体やネットワーク上のノードを特定する論理番号のことです。

## ● IPP

Internet Printing Protocolの略です。  
インターネットなどの TCP/IP ネットワークを通じて印刷データの送受信や印刷機器の制御を行うプロトコルです。特徴として、ウェブブラウザなどが使うHTTPプロトコルを用いてネットワーク上のプリンタに印刷を指示できるようになっています。インターネットを通じて遠隔地のプリンタにデータを送って印刷することもできます。

## ● IPPS

インターネット印刷プロトコル (IPP バージョン1.0) でSSLを用いる印刷プロトコルです。

## ● IPv6

Internet Protocol Version 6の略です。

現在インターネットで用いられているプロトコルであるIPv4の後継バージョンの名称です。増加するインターネットの利用者に対応するため、管理できるアドレス空間の増大、セキュリティ機能の追加、優先度に応じたデータの送信などの改良を施した次世代インターネットプロトコルです。

## ● LAN

Local Area Network の略です。同一フロア、同一のビル内などにあるネットワーク機器を、Ethernet などの方法で接続したネットワークのことを指し、閉鎖されたネットワークという位置付けがあります。

## ● LDAP

LDAPとは、The Lightweight Directory Access Protocolの略です。LDAPサーバからファクス番号やEメールアドレスを検索することができます。

## ● LEAP

無線LANの認証方式の1つで、クライアントの機器と認証サーバが相互に認証を行い、認証が成立すると、そのクライアント機器に固有のWEPキーが発行され、その接続の間だけ使用可能になる認証方法です。

## ● LLMNR

Link-Local Multicast Name Resolution の略です。リンクローカルマルチキャスト名前解決 (LLMNR) プロトコルは、ネットワークにDNSサーバがないときに近隣のコンピュータの名前を解決します。LLMNRレスポンス機能は、Windows Vista®などのLLMNRセンタ機能を有するコンピュータを使用する場合にIPv4、IPv6両方の環境で有効です。

## ● LLTD

Link Layer Topology Discoveryの略です。リンク層トポロジー探索 (LLTD) プロトコルを用いると、Windows Vista®ネットワーク上で本製品を簡単に検出でき、分かりやすいアイコンとノード名で表示されます。このプロトコルの初期設定はオフです。

## ● LPR

Line PRinter daemon protocolの略です。

TCP/IPネットワークを経由して印刷を行うプロトコルです。主にUNIX系OSで使用されています。

## ● MAC アドレス (イーサネットアドレス)

イーサネット機器が持つ6バイトのアドレスです。ISO/OSIモデルの物理層およびデータリンク層で機能します。MACアドレスは機器内部に記憶されているので、ユーザーが変更することはできません。

## ● MAC アドレスフィルタリング

無線LANアクセスポイントにMACアドレスを登録することにより、許可された無線LAN端末以外は無線LANアクセスポイントに接続できなくなります。

## ● mDNS

Mac OS X v10.2以降でサポートされている機能で、mDNSを有効にすると、mDNSをサポートしているクライアントから自動的に認識されます。

## ● Microsoft Internet Print Services

IPPプロトコルを使用して、Windows® 2000/XP/Windows Vista®コンピュータを通じて印刷ジョブをプリンタに送るときに使用します。

## ● NetBIOS

Sytek 社が開発したアプリケーション・プログラム・インターフェース (API) で、LAN 上のコンピュータが同じLAN上の他のコンピュータと対話する必要がある前提で設計されたインターフェースです。IBM Server、Microsoft LANManager 環境向けのアプリケーションを作成するときにプログラマが使用します。

## ● OP25B (Outbound Port 25 Bloking)

プロバイダのメールサーバを経由せず、直接送信しようとするEメールを遮断する方法です。これによりプロバイダは、迷惑メールの発信に規制をかけることができます。

## ● ping

Packet InterNetwork Groper の略です。相手先ホストへの到達可能性を調べるコマンドです。

## ● POP before SMTP (PbS)

クライアントからEメールを送信するユーザー認証方法です。クライアントは、Eメールを送信する前にPOP3サーバにアクセスすることによって、SMTPサーバを使用する許可を得ます。

## ● POP3

インターネットでEメールを保存しているサーバからEメールを受信するためのプロトコルです。

## ● RARP

ARP プロトコルとは逆に、自ノードのMACアドレスから「自分の」IPアドレスを求めるためのプロトコルです。

## ● SMTP

Simple Mail Transfer Protocol の略です。

インターネットでEメールを転送するプロトコルです。

## ● SMTP-AUTH (SMTP 認証)

SMTP-AUTH は、SMTP (インターネットEメール送信プロトコル) を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

## ● SNMP

Simple Network Management Protocol の略です。

ネットワークを監視し管理するためのプロトコルです。

## ● SNTP

Simple Network Time Protocolの略です。

TCP/IPネットワークを通じてコンピュータの時刻を同期させるプロトコルで、NTPの簡易版です。SNTPはNTPの仕様のうち複雑な部分を省略し、クライアントがサーバに正確な時刻を問い合わせる用途に特化しています。

## ● SSID (ネットワーク名)

Service Set Identifier の略です。ネットワーク名とも呼ばれるSSIDは、無線LANを他の無線LANと区別するネットワークの識別子のことで、無線LANをグループ化するために用いられます。通常は無線LANアクセスポイントから発信されるビーコン等のパケットに含まれますが、ネットワークによっては、セキュリティ強化の為に無線LANアクセスポイントのSSIDを表示しないように（SSIDの隠ぺい）する場合があります。

## ● TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol (伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル) の略です。

インターネットで使用されているプロトコル、通信ソフト（アプリケーション）を特定して通信路を確立するプロトコル（TCP）と、通信経路に関するプロトコル（IP）から構成されています。OSI参照モデルでは、TCPはレイヤー4、IPはレイヤー3に対応しています。

## ● Telnet

自端末からリモートシステム端末へのアクセス機能、ネットワーク内での仮想端末の機能を提供するTCP上のプロトコルで、リモートTelnetコネクションという文字単位の通信経路を設定します。通常ログイン時のパスワード認証以外に特別なセキュリティ機能は持ちません。

## ● TKIP

Temporal Key Integrity Protocolの略です。WEPの後継にあたる暗号化の規格で、暗号化方式はWEPと同じRC4を利用しています。TKIPは一定時間ごと、または一定パケット量ごとに暗号キーが更新されるためWEPキーによる暗号化よりも高いセキュリティになります。

## ● UDP

User Datagram Protocol の略です。

TCP/IPにおけるトランスポート層に属するプロトコル。インターネットでは、音声や動画などのストリーミング送信などのデータ転送に使用されており、転送速度は速く信頼性が低いのが特徴です。逆に、TCPは転送速度が遅く信頼性が高いのが特徴です。

## ● Web Services

Windows Vista®の場合は、Web Services プロトコルを使用してプリンタドライバをインストールできます。詳しくは、「Web Services を使用する（Windows Vista®のみ）」

**P.224** を参照してください。

また、Web Services では、ご使用のコンピュータから本製品の現在のステータスを確認することができます。

## ● WEP

Wired Equivalent Privacyの略です。IEEE802.11で標準化されている暗号化方式です。無線LANアクセスポイントやクライアントで共通の暗号キー（WEPキー）を設定して通信の暗号化を行います。設定した暗号キーが一致しない限り暗号化されたデータを解読することができません。

## ● WINS

Windows® Internet Name Service の略です。Windows®環境で、ネームサーバを呼び出すためのサービスです。サービスを実行するにはサーバが必要です。

## ● WPA-PSK/WPA2-PSK

無線LANの業界団体Wi-Fi Allianceが提唱するWPA(Wi-Fi Protected Access)のPersonalモードです。WPA-PSKは、無線LANで使用される暗号化技術を用いた認証方式の一つであり、WPAはTKIP暗号化を使用した事前共有キー（PSK）による認証を行い、WPA2はAES暗号化を使用した事前共有キー（PSK）による認証を行います。

## ● WWW

World Wide Web の略です。インターネットでの情報検索システム、サービスシステムのひとつです。

## ● アドホック (Ad-hoc) モード

無線LANアクセスポイントを経由しないで、直接それぞれの無線LAN端末間で通信するネットワークです。このタイプのネットワークは、アドホックモード、またはピア・ツー・ピア・ネットワークとも呼ばれています。

## ● 暗号化方式

無線LANのセキュリティを高めるために通信を暗号化する方法のことです。

## ● イーサネットモード

イーサネットの転送速度と転送方法の設定のことです。

## ● インフラストラクチャ (Infrastructure) モード

無線LANアクセスポイントを経由して、それぞれの無線LAN端末が通信するネットワークです。インフラストラクチャモードと呼ばれています。

## ● オープンシステム認証

無線LANの認証方式の1つで、資格情報が無くても無線LANアクセスポイントに認証依頼を行い、無線LANアクセスポイントは依頼された認証をそのまま受け入れる方式です。

## ● 共有キー認証

無線LANの認証方式の1つで、無線LANアクセスポイントとネットワークキーを用いた認証方法です。

## ● サブネットマスク

IPアドレスからサブネットのネットワークアドレスを求める場合に使用するマスク値のことです。IPアドレスとサブネットマスクをANDすると、サブネットアドレスになります。

## ● 信号強度

無線LAN端末が無線LANアクセスポイント、または他の無線LAN端末から受信する電波の強さのことです。

## ● セキュリティ (Security)

無線LANでは電波の届く範囲内であれば自由にそのネットワークへ接続することが可能になります。したがって、悪意を持った第三者に通信内容を盗聴されたり、無断でネットワークに侵入されて個人情報の取り出しやデータの改ざん、システムの破壊などの行為を許さないために暗号化などの安全保護を行うことを推奨します。この安全保護のことをセキュリティといいます。

## ● チャンネル (Channel)

無線LAN では通信のためにチャンネルが使われます。それぞれのチャンネルは予め決められたそれぞれ異なる周波数帯域を持っています。一つの無線LAN内の全ての無線LAN端末は、同じチャンネルを使う必要があります。

## ● 通信モード

無線LANの通信モードには、アドホックモードとインフラストラクチャモードの2種類があります。

## ● 認証方式

無線LANの通信をする場合に、通信相手を確認する方法のことです。

## ● ネットワークキー

共有キー認証のためのキー、または暗号化機能の暗号化キーなどのキーのことです。

## ● ネットワーク認証

無線LAN で使われる認証方式の総称です。本製品がサポートしている認証方式としては、オープンシステム認証、共有キー認証、WPA/WPA2-PSK、LEAP、EAP-FAST があります。

## ● ノード名

ネットワーク上で、本製品を識別するための名前です。

## ● ポート番号

複数の相手と同時に接続を行なうためにIPアドレスの下に設けられたサブ（補助）アドレス。ポートの指定には0から65535 までの数字が使われます。FTPは 21、HTTPは 80、メール受信は 110、などのように、ポート番号はサービスを特定するための番号です。

## ● 無線LAN アクセスポイント

無線LANアクセスポイントは無線LANルータとも言われています。無線LAN アクセスポイントはネットワークの中心に位置し、個々の無線LAN端末は無線LANアクセスポイントを介して通信します。また、無線LAN アクセスポイントは無線LANのセキュリティ管理も行っています。

## ● ルータ

ネットワーク間（LANとLAN、LANとWAN）の接続を行うネットワーク機器の一つです。

# 索引

**A**  
AES .....81  
AOSS™ .....91  
APIPA .....33, 141, 212  
APOP .....44

**B**  
BOOTP .....214  
BRAdmin Light .....72, 211

**C**  
CKIP .....81

**D**  
DHCP .....212  
DNS サーバ .....32, 140, 238

**E**  
Ethernet .....34  
E メール通達機能 .....71

**H**  
HTTP .....61

**I**  
IPP .....158  
IPv6 .....33, 141  
IP アドレス .....18, 27, 136, 210  
IP アドレス配布サーバ .....73  
IP 取得方法 .....26, 135

**L**  
LAN ケーブル .....17, 96, 116  
LAN 設定リセット .....59  
LEAP .....80  
LPR .....147

**M**  
Mac OS X .....75  
Macintosh .....77, 115, 164

**N**  
NetBIOS 名 .....29, 137

**P**  
PBC 方式 .....85, 91  
Personal Identification Number .....85, 93  
PIN 方式 .....85, 93  
POP3 サーバ .....40  
POP3 ポート .....41  
Push Button Configuration .....85, 91

**R**  
RARP .....213

**S**  
SecureEasySetup™ .....91  
SMTP サーバ .....37  
SMTP 認証 .....39  
SMTP ポート .....38  
SSID .....80, 142  
Standard TCP/IP .....147

**T**  
TCP/IP .....25, 134, 147, 204, 205, 206, 207, 208  
TKIP .....81

**U**  
URL .....163

**W**  
Web Services .....224  
WEP .....81  
Wi-Fi Protected Setup .....91, 93  
Windows® .....72, 74, 76, 95, 146



WINS サーバ .....	31, 139
WINS 設定 .....	30, 138
WPA2-PSK .....	80
WPA-PSK .....	80
WPS .....	93

## あ

アカウント名 .....	42
アドホックモード .....	16, 83, 107, 125
暗号化キー .....	81
暗号化方式 .....	81

## い

イーサネットの設定 .....	34
インストール .....	72, 148, 152, 167, 219, 224
インターネット印刷 .....	158
インターネットファクス .....	36, 45, 50
インフラストラクチャモード .....	16, 82, 96, 116

## う

ウェブブラウザ .....	61
---------------	----

## え

エラーメール削除 .....	48
----------------	----

## お

オートマチックドライバインストーラ .....	218
オープンシステム .....	80

## か

簡単設定 .....	91, 103, 122
------------	--------------

## き

共有キー .....	80
許可ドメイン .....	54

## け

ゲートウェイ .....	28, 73, 137
--------------	-------------

## さ

サイズ制限 .....	51
サブネットマスク .....	18, 27, 136, 174, 178, 179, 181, 183, 184, 194, 196, 233

## し

自動受信 .....	45
受信確認 .....	49
受信確認要求 .....	52
初期化 .....	59, 145

## す

スキャナドライバ .....	152, 167
----------------	----------

## せ

接続状態 .....	142
接続と設定 .....	201, 202, 203, 205

## そ

操作パネル .....	87, 91, 133, 171, 172
-------------	-----------------------

## ち

チャンネル .....	80
-------------	----

## つ

通信モード .....	143
-------------	-----

## て

電波状態 .....	142
------------	-----

## と

トラブルシューティング .....	198
-------------------	-----

## に

認証方式 .....	80
------------	----

<b>ね</b>	
ネットワーク PC ファクス .....	156, 169
ネットワークインターフェースの設定 .....	73
ネットワークキー .....	81
ネットワーク共有 .....	15
ネットワークスキャン .....	152, 167
ネットワーク設定リスト .....	60
ネットワークの接続方法 .....	14
ネットワークプリンタ .....	147, 165
ネットワークプリンタキュー .....	226
ネットワーク名 .....	80
ネットワークリモートセットアップ .....	76

<b>の</b>	
ノード名 .....	29, 137

<b>は</b>	
パスワード .....	43, 63
ハブ .....	17

<b>ひ</b>	
ピアツーピア接続 .....	14, 218

<b>ふ</b>	
ブラザーインストーラ .....	95, 115
プリンタドライバ .....	148, 224

<b>へ</b>	
ヘッダ印刷 .....	47

<b>ほ</b>	
ポーリング間隔 .....	46

<b>む</b>	
無線 LAN .....	16, 78, 134
無線 LAN アクセスポイント .....	91, 103, 122
無線 LAN の状態 .....	142
無線 LAN の初期化 .....	145

無線 LAN 有効 .....	144
無線接続ウィザード .....	87

<b>め</b>	
メール受信 .....	45
メール送信 .....	50
メールタイトル .....	50

<b>ゆ</b>	
有線 LAN .....	14
有線 LAN 設定の初期化 .....	59
有線 LAN 有効 .....	35

<b>り</b>	
リモートセットアップ .....	76
リレー配信 .....	53
リレー配信許可 .....	53
リレー配信レポート .....	55

<b>る</b>	
ルータ .....	17

<b>れ</b>	
レジストラ .....	85